

ASUS[®] A7M266

DDR SDRAM
266MHz FSB AGP Pro/4X
Socket A マザーボード

ユーザーマニュアル

ユーザーへのご注意

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

- ・ AMD, Athlon™ は、Advanced Micro Devices, Inc.社の登録商標です。
- ・ VIA は、VIA Technologies, Inc.社の商標です。
- ・ Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。
- ・ Adobeおよび Acrobat は、Adobe Systems Incorporated の登録商標です。
- ・ Trend および ChipAwayVirus は、Trend Micro, Inc. の商標です。
- ・ 他の会社名および製品名は、関連する各社の商標または登録商標です。

製品名とリビジョン番号は、製品自身に印刷されています。マニュアルのリビジョンは、各製品ごとに発番されており、マニュアルリビジョンのピリオドの前後の桁が製品リビジョンを表しています。同じ製品リビジョンでのマニュアル自身のリビジョンは、マニュアルリビジョンの3桁目で表されています。

マニュアル、BIOS、ドライバの更新情報、製品リリース情報は、<http://www.asus.com.tw> または、次ページの情報を参照してください。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

Copyright(C) 2000 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

製品名:	ASUS A7M266
マニュアルリビジョン:	1.02 J647
発行日:	2000年12月

ASUS サポート情報

ASUSTeK COMPUTER INC. (アジア・太平洋) マーケティング

住所: 150 Li-Te Road, Peitou, Taipei, Taiwan 112
電話: +886-2-2894-3447
Fax: +886-2-2894-3449
Email: info@asus.com.tw

テクニカルサポート

マザーボード他(電話): +886-2-2890-7121 (英語)
ノートパソコン(電話): +886-2-2890-7122 (英語)
サーバー(電話): +886-2-2890-7123 (英語)
Fax: +886-2-2893-7775
Email: tsd@asus.com.tw
WWW: www.asus.com.tw
FTP: ftp.asus.com.tw/pub/ASUS

ASUS COMPUTER INTERNATIONAL (アメリカ) マーケティング

住所: 6737 Mowry Avenue, Mowry Business Center, Building 2
Newark, CA 94560, USA
Fax: +1-510-608-4555
Email: tmd1@asus.com

テクニカルサポート

Fax: +1-510-608-4555
Email: tsd@asus.com
WWW: www.asus.com
FTP: ftp.asus.com/Pub/ASUS

ASUS COMPUTER GmbH (ヨーロッパ) マーケティング

住所: Harkortstr. 25, 40880 Ratingen, BRD, Germany
Fax: +49-2102-442066
Email: sales@asuscom.de (セールス関連のみ)

テクニカルサポート

ホットライン: マザーボード +49-2102-9599-0
ノートパソコン: +49-2102-9599-10
Fax: +49-2102-9599-11
サポート (Email): www.asuscom.de/de/support (オンライン)
WWW: www.asuscom.de
FTP: ftp.asuscom.de/pub/ASUSCOM

目次

1. はじめに	7
1.1 本マニュアルの構成	7
1.2 梱包内容チェックリスト	7
2. 特徴	8
2.1 The ASUS A7M266	8
2.1.1 仕様	8
2.1.2 オプション仕様	9
2.1.3 特別仕様	10
2.1.4 性能	10
2.1.5 インテリジェント機能	11
2.2 マザーボード構成部品	12
2.2.1 部品配置	13
3. ハードウェアセットアップ	14
3.1 マザーボードレイアウト	14
3.2 レイアウト目次	15
3.3 セットアップ手順	17
3.4 マザーボード設定	18
3.5 システムメモリ(DDR DIMM)	25
3.5.1 DIMMについて	26
3.5.2 メモリの取り付け	26
3.6 CPU(中央演算処理装置)	27
3.7 拡張カード	28
3.7.1 拡張カードの取り付け方法	28
3.7.2 拡張カードへのIRQの割り当て	30
3.7.3 AGP(Accelerated Graphics Port)	30
3.7.4 AMR(Audio Modem Riser)	32
3.8 外部機器用コネクタ	33
3.9 最初の電源投入時に	45
4. BIOSセットアップ	47
4.1 BIOSの取り扱いとアップデート	47
4.1.1 最初にお使いになる前に	47
4.1.2 BIOSアップデート手順	48
4.2 BIOSセットアッププログラム	51
4.2.1 BIOSメニューバー	52
4.2.2 リジентバー	52

目次

4.3 Mainメニュー	54
4.3.1 Primary & Secondary Master/Slave	55
4.3.2 Keyboard Features	58
4.4 Advanced(詳細)メニュー	60
4.4.1 Chip Configuration	63
4.4.2 I/O Device Configuration	66
4.4.3 PCI Configuration	69
4.4.4 Shadow Configuration	73
4.5 Power(電源管理)メニュー	74
4.5.1 Power Up Control	76
4.5.2 Hardware Monitor	78
4.6 Boot(起動)メニュー	79
4.7 Exit(終了)メニュー	81
5. ソフトウェアセットアップ	83
5.1 OSのインストール	83
5.2 Windowsスタート	83
5.3 A7シリーズマザーボード サポートCD	83
5.4 プログラムのアンインストール(削除)	85
6. ソフトウェアリファレンス	87
6.1 ASUS PC Probe	87
6.2 ASUS Update	92
6.3 YAMAHA XGPlayer	93
7. 付録	97
7.1 PCI-L101 Fast Ethernetカード	97
7.2 モデムライザー	99
7.3 用語説明	101

FCC & DOC COMPLIANCE

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Re-orient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING! Any changes or modifications to this product not expressly approved by the manufacturer could void any assurances of safety or performance and could result in violation of Part 15 of the FCC Rules.

Reprinted from the Code of Federal Regulations #47, part 15.193, 1993. Washington DC: Office of the Federal Register, National Archives and Records Administration, U.S. Government Printing Office.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

1. はじめに

1.1 本マニュアルの構成

本マニュアルは、以下の構成になっています。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. はじめに | マニュアル情報とチェックリスト |
| 2. 特徴 | 製品情報と仕様 |
| 3. ハードウェアセットアップ | マザーボードの設定方法 |
| 4. BIOSセットアップ | BIOSの設定方法 |
| 5. ソフトウェアセットアップ | 添付ソフトウェアのインストール方法 |
| 6. ソフトウェアリファレンス | 添付ソフトウェアのリファレンスマニュアル |
| 7. 付録 | オプションの紹介と用語説明 |

1.2 梱包内容チェックリスト

パッケージ内容を確認してください。もし、破損や欠品がある時は、販売店にお問い合わせください。

- | パッケージ内容 | オプション |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> (1)ASUS マザーボード | <input type="checkbox"/> ASUS CIDB ケース開放検出モジュール |
| <input checked="" type="checkbox"/> (1) 内蔵UltraDMA33/66/100用40ピン80芯フラットケーブル (UltraDMA/33 IDE上位互換) | <input type="checkbox"/> ASUS IrDA準拠赤外線モジュール |
| <input checked="" type="checkbox"/> (1)内蔵UltraDMA/33 IDEドライブ用フラットケーブル | <input type="checkbox"/> ASUS PCI-L101 Wake-On-LAN 10/100 LANカード |
| <input checked="" type="checkbox"/> (1)5.25インチおよび3.5インチフロッピーディスク用フラットケーブル | <input type="checkbox"/> ASUS MR-I モデムライザーカード |
| <input checked="" type="checkbox"/> (1)ASUS 2ポート USB増設コネクタセット | |
| <input checked="" type="checkbox"/> (1)予備ジャンパ(袋入り) | |
| <input checked="" type="checkbox"/> (1)サポートドライバ/ユーティリティ | |
| <input checked="" type="checkbox"/> (1)本マニュアル | |

2. 特徴

2.1 The ASUS A7M266

ASUS A7M266マザーボードは、最速のCPUによる最新技術を要求するすべてのユーザーにご満足いただけるよう細心の注意をもってデザインされました。

2.1.1 仕様

- ・ AMD Athlon™/Duron™ プロセッサ対応: Socket Aタイプの AMD Athlon™ / Duron™ プロセッサに対応しています。
- ・ ノースブリッジシステムチップセット: AMD-761™チップセットを採用し、外部バスFSB 266MHz、DDR SDRAM 最大 2GB、4X/2X/1X 対応AGP 2.0準拠、5本のマスター対応 PCI 2.2バスに対応しています。本マザーボードは、AMD Athlon™ / Duron™ プロセッサに最適化されています。
- ・ 「Super South」 サウスブリッジ PCIset: VIA VT82C686B PCIsetを採用し、PSIPC(PCI Super-I/O Integrated Peripheral Controller)により、UltraDMA/100(バーストモード最大データ転送速度 100MB/秒)、AC97 オーディオ、ルートハブ付き 4 ポートUSBコントローラに対応しています。
- ・ PC2100 / PC1600 DDR SDRAM 対応: DDR DIMMソケットを2本搭載し、最大2GBのDDR(Double Data Rate) SDRAMに対応しています。DDR SDRAMは、最新のメモリ規格で、広いデータ帯域と短い待ち時間を実現します。とくに、高度なマルチメディア環境を実現するためにボトルネックになっていた問題点を解消します。
- ・ ステップレス クロック周波数連続可変: CPUの外部バスクロック周波数(FSB)を1MHzごとに設定できます。
- ・ JumperFree™ モード: クロックアップのためにクロック周波数やCPUコア電圧を変える、といったCPU設定が、すべてBIOSにて簡単に設定できます。DIPスイッチを用いても、簡単にCPU外部バスクロックを変える、といった手動設定が可能です。
- ・ AGP Pro スロット: 高性能 AGP/AGP Pro カード対応、133MHz 4Xモードに対応し、ハードウェアレベルで3Dグラフィックスアプリケーションに対応します。
- ・ UltraDMA/100対応: オンボードの PCI Bus Master IDEコントローラにより、2個のコネクタに最大4台のATA100装置を接続できます。UltraDMA/100, UltraDMA/66, UltraDMA/33, PIO Modes 3 & 4、バスマスタ IDE DMA Mode 2, および DVD-ROM, CD-ROM, CD-R/RW, LS-120, テープバックアップ装置といった Enhanced IDE 装置に対応しています。
- ・ Wake-On-LANコネクタ: オプションのASUS PCI-L101 10/100イーサネットPCIカードを用いることにより、Wake-On-LANに対応します(「7. 付録」参照)。
- ・ Wake-On-Ringコネクタ: WORコネクタを装備したPCIモデムを用いることにより、Wake-On-Ring機能に対応します。

2. 特徴

- ・ USB: バックパネルに2個、増設用にマザーボード上に2個、最大4個のUSBポートを装備しています。
- ・ 集中監視パネル: オプションのASUS iPanelを用いると、LEDで情報を得たり、I/Oポートを前面に設置したり、HDDのためのスペースを確保したりできます。また、コンピュータの主要パーツの状態を監視することができます。
- ・ PCヘルスマニター: ハードウェア(ASUS ASIC)や添付ソフトウェア(ASUS PC Probe)により、CPUやシステム電圧、温度、ファンの回転数などを簡単に監視・管理できます。
- ・ SMBus: System Management Busの略で、これに対応した機器の物理層におけるデータ/コマンド転送をサポートします。
- ・ PCI/AMR拡張スロット: 5本の32ビットPCI (Rev. 2.2)拡張スロットを装備し、SCSIやLANなどのバスマスタPCIカードに対応しています(最大スループット133MB/秒)。また、1個のAMR(オーディオモデムライザ)スロットを持ち、専用のオーディオ/モデムカードに対応します。
- ・ スーパーマルチ I/O: 2個の高速UART互換シリアルポートと、1個のEPPおよびECP対応パラレルポートを装備します。
- ・ 拡張 ACPI および ブートブロック・アンチウィルス: プログラム可能なBIOS (Flash EEPROM)は、Windows98互換拡張 ACPIと、ファームウェアのウィルス検出、および多くの周辺機器の自動検出を提供します。
- ・ コンカレントPCI: PCIバスマスタからCPU/メモリへのデータ転送を同時(コンカレント)処理します。
- ・ Smart BIOS: 2MビットROM内蔵BIOSにより、コア電圧やCPU/メモリのクロック変更、ブートブロックの保護、ブート機器をHD/SCSI/MO/ZIP/CD/FDから選択する、といったことが実現できます。
- ・ 統合赤外線通信 (IrDA) 対応:: 統合された赤外線装置は、外部機器、個人の工作品、リモコンによる赤外線無線通信パッケージ(オプション)に対応しています。
- ・ デスクトップ・マネージメント・インターフェイス(DMI): BIOSによるDMIをサポートし、ハードウェア間の標準的な通信プロトコルにおいて高い互換性を発揮します(DMI対応機器が必要です)。
- ・ 色分けされたコネクタ: PC99準拠の色分けされたコネクタは、機器の接続を簡単にします。

2.1.2 オプション仕様

- ・ 内蔵ネットワーク (オプション): 3Com 3C920LANコントローラにより、TCO削減に役に立つリモートWake-Up および OnNow機能を実現します。
- ・ PCIオーディオ(オプション): Cmedia CMI8738 3Dオーディオコントローラにより、PCI v2.1バスコントローラおよびSoundBlaster DSPオーディオエミュレータに対応しています。

2. 特徴

2.1.3 特別仕様

- ・ ACPI完全対応: Advanced Configuration Power Interface (ACPI) は、OSが直接電源を管理するシステム(OSPM)のための節電機能を備えています。この機能が実装されているOSでは、コンピュータが24時間稼働している場合でも、最小限の電力消費でまかなえます。ACPI機能をフルに使うには、Windows 98/2000/MillenniumのようなACPI対応OSが必要です。
- ・ 簡単な設定: 統合された BIOSは、ハードディスク・PS/2マウス・プラグアンドプレイ装置を自動検出し、ハードディスクや拡張カードの自動設定を行います。
- ・ 新しい互換性: 本マザーボードの BIOSとハードウェアは、PC99規格に完全に適応しています。PC99は次のような高い基準を要求しています: すべてのシステムコンポーネントに対するプラグアンドプレイ対応と電源管理機能、32ビットデバイスドライバとWindows 95/98/NTへのインストール手順、色分けされたコネクタとアイコン表示です。

2.1.4 性能

- ・ コンカレント PCI: PCIバスマスタからCPU/メモリへのデータ転送を同時処理します。
- ・ 高速データ転送: 本マザーボードでは、UltraDMA/100により、100MB/秒のデータ転送速度に対応しています。UltraDMA/100は、DMA/66、DMA/33 および従来のDMA機器と上位互換ですので、既存のEIDE/IDE機器もそのまま使えます。(UltraDMA/66/100は、40ピン80芯のケーブルが必要です。)
- ・ DDR SDRAM に最適化された性能: 本マザーボードは新世代メモリDDR SDRAM(Double Data Rate Dynamic Random Access Memory)に対応しています。これは、業界標準のSDRAMと上位互換性があります。DDRメモリは、クロックの立ち上がりと立ち下りの両方で処理を行いますので、従来のSDRAMよりはるかに高い性能が得られます。133MHz DDR SDRAMで最大2.1GB/秒、100MHz DDR SDRAMで最大1.6GB/秒となります。

2. 特徴

2.1.5 インテリジェント機能

- ・ 多機能電源ボタン: BIOSで、電源ボタンの機能を「スタンバイ」または「ソフトオフ」に切り替えることができます (ATX電源スイッチ用端子 (3.8 コネクタ) 参照)。どちらのモードにおいても4秒以上押し続けると「ソフトオフ」として機能します。
- ・ ファン回転数モニターと警報: オーバーヒートとダメージ防止のため、CPU・電源・ケースの各ファンの回転数と故障をモニタできます。各ファンに回転数の上下限值が設定されています。
- ・ メッセージ LED (要 ACPI対応OS): インターネットメールの着信などをこのLED表示で確認できます。今では用いられないTurbo LEDをこの機能に使用できます。
- ・ リモートリングオン (要モデム): 内蔵/外付けモデムによって、コンピュータを遠隔地から自動起動させることができます。世界中のどこからでも、自分のコンピュータにアクセスできます。
- ・ システムリソース警報: Windows 98/Millennium、Windows NT/2000といったOSでは、複雑なGUIと巨大なアプリケーションを実行するため、より多くのメモリとハードディスク容量を必要とします。ASUS ASICチップは、リソース不足によるアプリケーションのクラッシュを警告します。リソースの限度を効果的にユーザーに教えてくれます。
- ・ 温度モニターと警報: ASUS ASICにより、システムのオーバーヒートと損傷を防止します。
- ・ 電圧モニターと警報: マザーボードの重要なパーツに正常な電圧が供給されているかどうか監視します。将来、CPUは電圧レベルにより厳しくになりますので、適切な電圧設定と管理システムが必要となります。
- ・ ケース開放警報: ASUS ASICによるケース開放警報機能に対応しています。ケースが開放されたことは、バッテリーバックアップされたメモリに記録されます。

2. 特徴

2.2 マザーボード構成部品

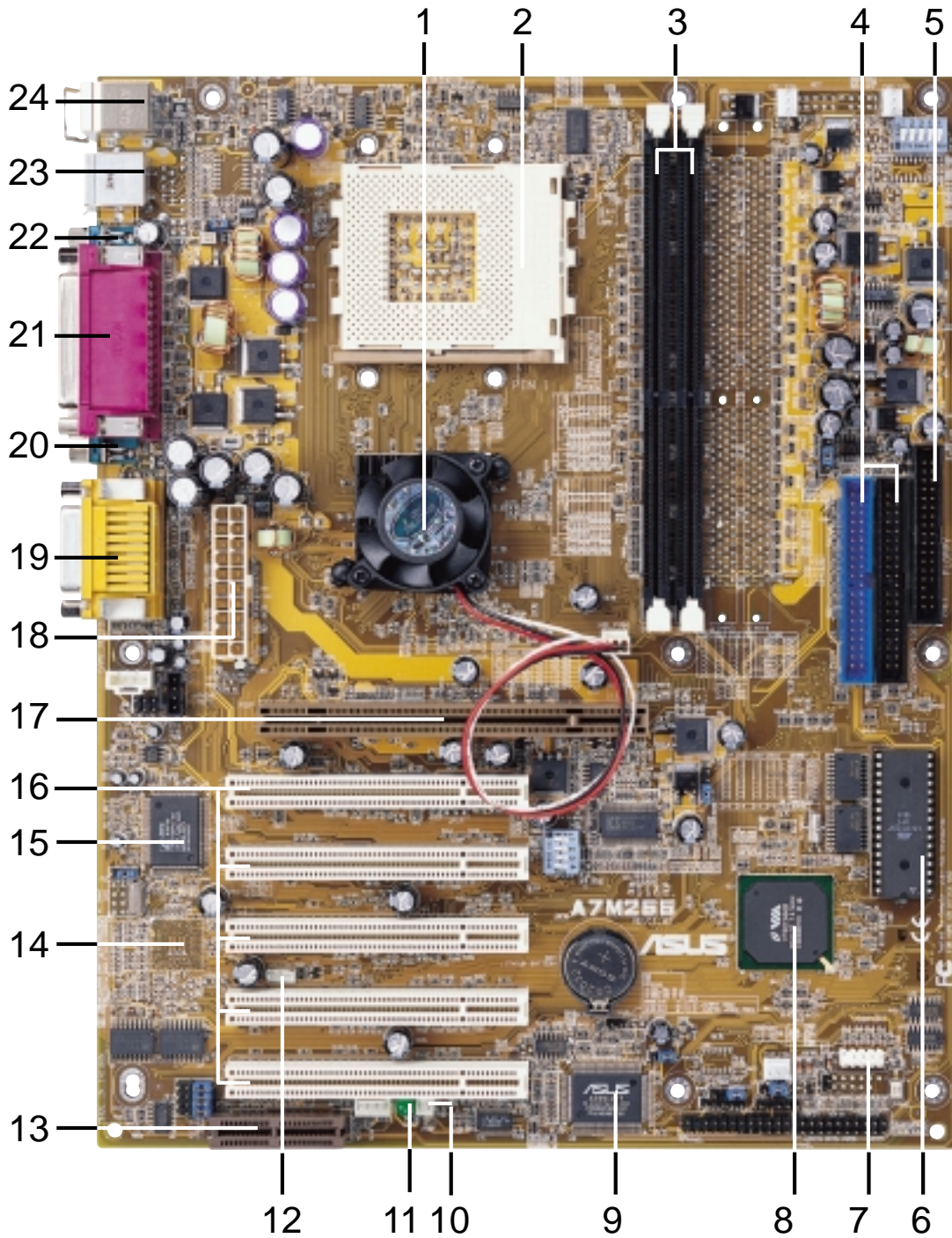
「配置」については次ページ参照

配置

対応CPU	AMD Athlon/Duronプロセッサ対応Socket 462 2 (注意: CPU用温度センサはマザーボードに組み込まれています。CPUソケットの真下、CPUの熱源の中心にあります。)	
チップセット	AMD 761 システムコントローラ 1 VIA VT82C686B PCiset 8 2Mビット プログラム可能 Flash EEPROM 6	
メインメモリ	最大 2GB 2× DIMM ソケット 3 PC2100 / PC1600 DDR メモリ対応	
拡張スロット	5× PCI スロット 16 1× AGP(Accelerated Graphics Port) Pro 17 1× AMR(Audio Modem Riser)スロット (共有) 13	
システム I/O	1× フロッピーディスクドライブコネクタ 5 2× IDEコネクタ (UltraDMA/100対応) 4 1× パラレルポートコネクタ (上) 21 1× シリアルCOM1 ポートコネクタ (下) 22 1× シリアルCOM2 ポートコネクタ (下) 20 USBコネクタ (Port 0 & Port 1) 23 USB増設用端子 (Port 2 & Port 3) 7 1× PS/2マウスコネクタ (上) 24 1× PS/2キーボードコネクタ (下) 24	
オーディオ	PCI オーディオ音源(オプション) 15 1× Game/MIDI コネクタ (音源搭載モデルのみ) .(上) 19 1× Line Outジャック (音源搭載モデルのみ) (下) 19 1× Line Inジャック (音源搭載モデルのみ) (下) 19 1× マイクロホンジャック (音源搭載モデルのみ) (下) 19	
ネットワーク	3Com 3C920 Fast LANコントローラ 14 1× LAN (RJ45) コネクタ (上) 23 Wake-On-LAN コネクタ 12 Wake-On-Ring コネクタ 10	
ハードウェアモニター	ASUS ASIC 9 3× ファン電源および回転数モニター用コネクタ	
電源	ATX電源コネクタ 18	
特別仕様	オンボード LED 11	
フォームファクタ	ATX	

2. 特徴

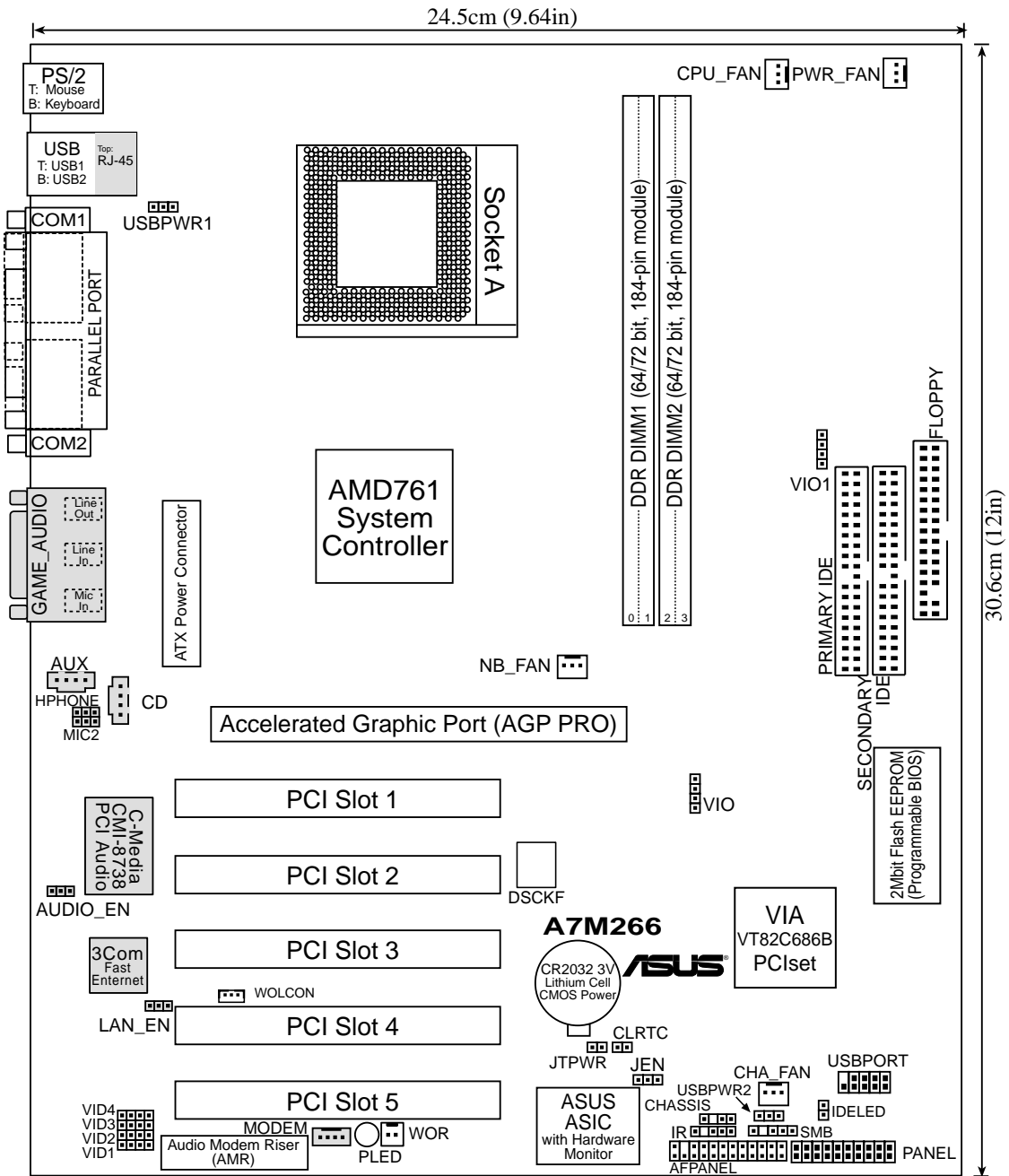
2.2.1 部品配置



2. 特徴
マザーボード部品

3. ハードウェア セットアップ

3.1 マザーボードレイアウト



灰色の部分は、購入時に選択できるオプションです。

3. ハードウェア
レイアウト

3. ハードウェア セットアップ

3.2 レイアウト目次

マザーボード設定

- 1) JEN p. 19 JumperFreeモード(JumperFree / Jumper Mode)
- 2) VIO p. 20 クロック発生器電圧設定 (3.30V / 3.56V / 3.45V)
VIO1 +2.5V電圧設定 (2.7V / 2.9V / 2.8V)
- 3) USBPWR1/USBPWR2 p. 21 USBデバイス Wake Up (+5V / +5VSB)
- 4) DSCKF 1~4 p. 22 CPU 外部クロック周波数設定
- 6) VID1/VID2/VID3/VID4 p. 24 レギュレータ出力電圧設定

ExpansionSlots/Sockets

- 1) System Memory p. 25 メインメモリ
- 2) DIMM1/2 p. 26 DDR DIMM メモリモジュール
- 3) Socket 462(Socket A) p. 27 ソケットA CPU
- 4) PCI1/2/3/4/5 p. 29 32ビットPCI 拡張バススロット
- 5) AGP PRO p. 31 AGP(Accelerated Graphics Port) Pro
- 6) AMR p. 32 オーディオ モデム ライザー(AMR)スロット

Connectors

- 1) PS2KBMS p. 33 PS/2マウス コネクタ (6ピン メス)
- 2) PS2KBMS p. 33 PS/2キーボード コネクタ (6ピン メス)
- 3) USB p. 34 USBコネクタ 0 & 1 (4ピン メス×2)
- 4) COM1/COM2 p. 34 シリアルポートコネクタ (9ピン オス)
- 5) PRINTER p. 34 パラレルポートコネクタ (25ピン メス)
- 6) GAME_AUDIO p. 35 Game/MIDI コネクタ (15ピン メス) (オプション)
- 7) GAME_AUDIO p. 35 オーディオミニジャック×3 (オプション)
- 8) RJ45 p. 35 LANポートコネクタ (RJ45) (オプション)
- 9) FLOPPY p. 36 フロッピードライブコネクタ (34ピン)
- 10) PRIMARY IDE p. 36 IDE コネクタ (40-1ピン×4)
SECONDARY IDE
- 11) CHASSIS p. 37 ケース開放警報コネクタ (4-1ピン)
- 12) IR p. 37 赤外線通信コネクタ (5ピン)
- 13) WOLCON p. 38 Wake-On-LANコネクタ (3ピン)
- 14) WOR p. 38 Wake-On-Ringコネクタ (2ピン)
- 15) CHA_FAN p. 39 ケース・電源・CPUファンコネクタ (3ピン)
PWR_FAN
CPU_FAN
NB_FAN
- 16) USBPORT p. 40 USB増設用端子(10-1ピン)
- 17) SMB p. 40 SMBus コネクタ (5-1ピン)
- 18) AFPANEL p. 41 ASUS iPanel コネクタ (24-1ピン)
- 19) JTPWR p. 41 電源用温度センサコネクタ (2ピン)

3. ハードウェア セットアップ

20) ATXPWR	p. 42 ATX電源コネクタ (20 ピン)
21) IDELED	p. 42 IDE アクセス LED (2ピン)
22) PWR.LED (PANEL)	p. 43 電源 LED 接続端子 (3ピン)
23) SPEAKER (PANEL)	p. 43 ビープ音用スピーカ端子 (4ピン)
24) MSG.LED (PANEL)	p. 43 システムメッセージ LED端子 (2ピン)
25) SMI (PANEL)	p. 43 システム管理割り込み端子 (2ピン)
26) PWR.SW (PANEL)	p. 43 ATX電源スイッチ端子 (2ピン)
27) RESET (PANEL)	p. 43 リセットスイッチ端子 (2ピン)

3. ハードウェア セットアップ

3.3 最初の電源投入時に

コンピュータを使う前に、以下の手順を完了させてください:

1. マザーボードの設定の確認
2. メモリの取り付け
3. CPUの取り付け
4. 拡張カードの取り付け
5. フラットケーブル、パネルスイッチ、電源の接続
6. BIOSの設定

3. ハードウェア セットアップ

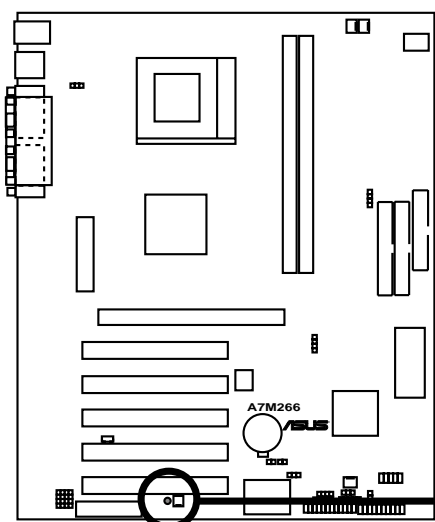
3.4 マザーボードの設定

この章では、スイッチやジャンパを用いたマザーボードの設定変更方法の詳細について述べます。

警告！ マザーボードや拡張カードは精細なICチップを用いています。静電気によるダメージを防ぐために、作業上、以下を守ってください。

1. コンピュータ内部に触れる場合は電源コンセントからプラグを抜いて下さい。
2. アースされたリストストラップを用いてください。それが無い場合は、電源シャーシ等、金属部分に触れて静電気を逃がしてください。
3. カード類を持つ時は、基板の端を持ち、基板やIC、コネクタ部分に触れないようにしてください。
4. 取り外したカード類はアースされたパッドの上に置いてください。例えば、カードが入っていた袋が有効です。
5. マザーボードの電源コネクタを接続する際には、ATX電源装置がオフであることを確認してください。

警告！ パーツを取り付けたり取り外したりする場合は、電源プラグを抜いてください。マザーボードや他のパーツにダメージを与える恐れがあります。オンボードのLEDは、サスペンオフやソフトオフ等、元電源が入っている状態で点灯します。



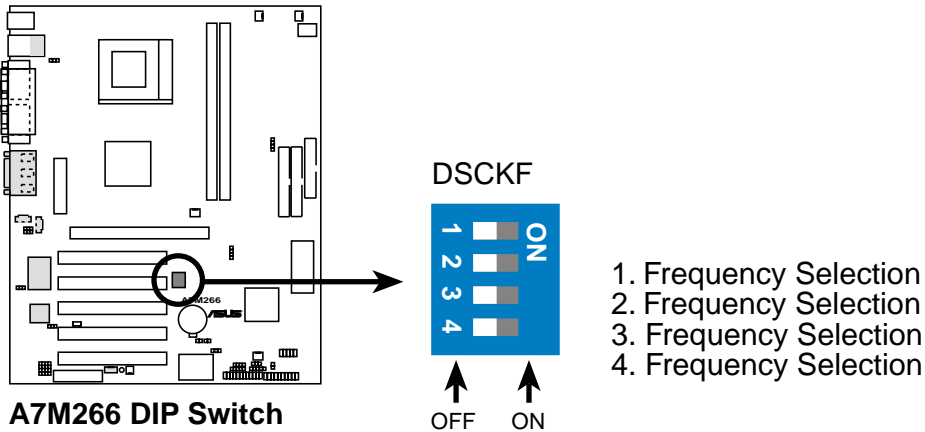
A7M266 Onboard LED



3. ハードウェア セットアップ

マザーボード機能の設定 (DIPスイッチ - DSCKF)

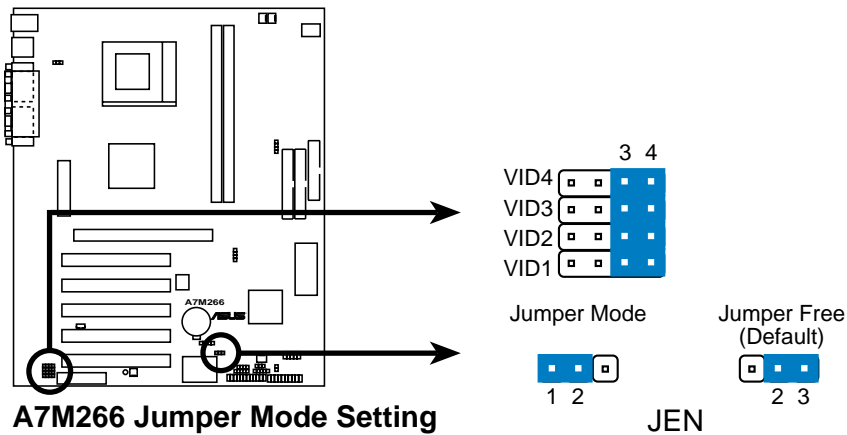
マザーボードの設定は、ジャンパーまたは、DIPスイッチを用いて行います。DIPスイッチの説明で白い四角は、スイッチの位置を示します。以下の例では、スイッチは全てオフの状態を示しています。



1) JumperFree™ モード(JEN)

このジャンパーでJumperFree™ モードを切り替えます。JumperFree™モードにすると、BIOSセットアップで設定を行えるようになります。(「4.4 Advanced Menu」参照。)

設定	JEN
JumperFree	[2-3] (デフォルト)
Jumper Mode	[1-2]



注意: JumperFree™モードでは、すべての VID1-4 ジャンパを[3-4]に設定してください。

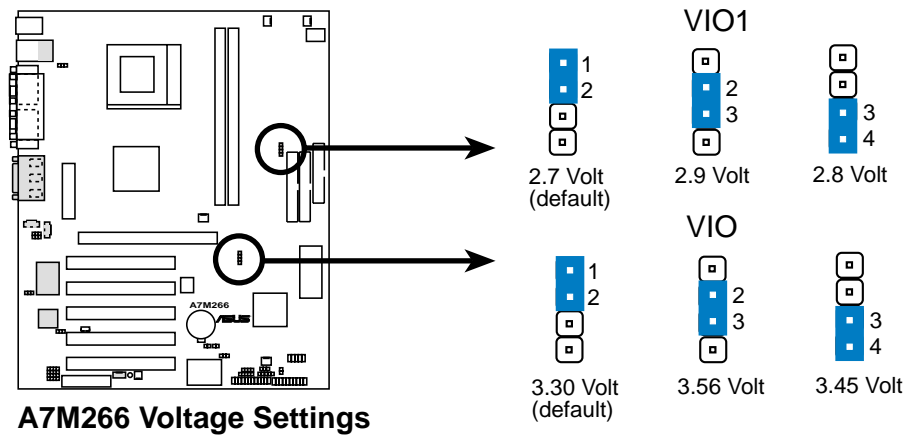
3. ハードウェア セットアップ

2) 電圧設定(VIO/VIO1)

VIOは クロック発生器に、VIO1(クロックアップ時のみ)は DDRメモリおよびチップセットに、それぞれ供給する電圧を設定します。クロックアップのために高い電圧設定が必要でない限り、安定性のためにデフォルトに設定してください。

設定	VIO
3.30V	[1-2] (デフォルト)
3.56V	[2-3]
3.45V	[3-4]

設定	VIO1
2.7V	[1-2] (デフォルト)
2.9V	[2-3]
2.8V	[3-4]

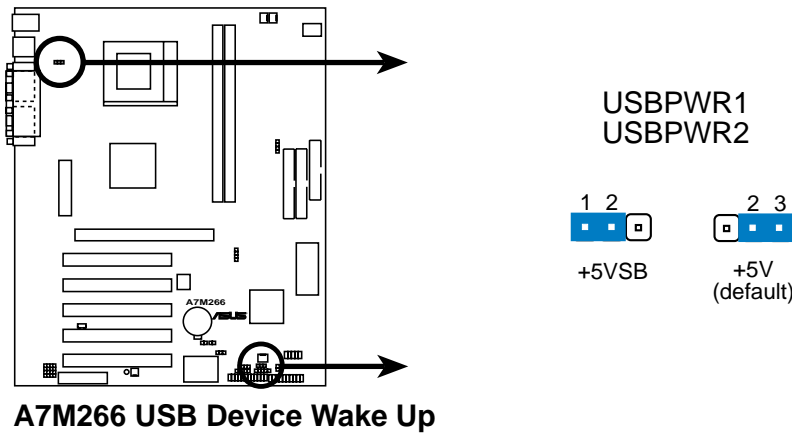


警告！ 高い電圧設定はクロックアップに有利ですが、コンピュータの部品の寿命を縮めます。デフォルトのままにしておくことをお勧めします。

3. ハードウェア セットアップ

- 3) USBデバイス Wake Up (USBPWR1, USBPWR2)
+5V に設定すると S1レベル(CPU停止・RAMリフレッシュ可能、低電力モード)のスリープモードから、+5VSB に設定すると S3レベル(CPUへの電力供給停止・RAMリフレッシュレート低下、省電力モード)のスリープモードから、それぞれUSB機器を用いての復帰が可能です。
+5VSB に設定した場合、ATX電源の+5VSBに最低2Aの容量が必要です。すべての電源がこの条件を満たすとは限りませんので、デフォルトは +5V です。適切な電源を用いずに+5VSB に設定すると電源が入らなくなります。

設定	USBPWR1, USBPWR2
+5V	[2-3] (デフォルト)
+5VSB	[1-2]

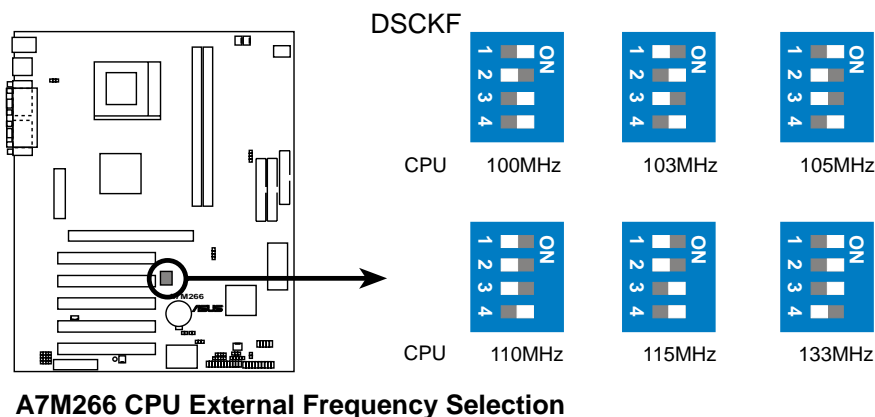


3. ハードウェア セットアップ

- 4) CPU 外部バス クロック周波数設定 (DSCKFスイッチ 1~4)
クロック発生器が、CPU・メモリおよびチップセットに供給する周波数を設定します。CPU外部バスの周波数を選択します。この周波数を規定の数だけ倍したものがCPUの内部(実効)周波数となります。

重要：

1. この機能を使用するには、JENジャンパを「Jumper mode [1-2]」に設定する必要があります。(「3. ハードウェアセットアップ」の「1) JumperFree™ モード (JEN)」参照。)
2. 「JumperFree」モードでは、すべてのスイッチ(DSCKF-1~DSCKF-4)を OFF にします。
3. 「JumperFree」モードでは、これらジャンパの代わりにBIOS設定を用います。(「4.4 Advanced Menu」の「Operating Frequency Setting」を「User Define」に設定し「CPU Frequency」で周波数を設定します。)



警告！ そのCPU推奨のクロック以外に設定するとシステムの安定性が保証されなくなります。クロックアップはお勧めできません。CPUの寿命を縮め、パフォーマンスがより低いクロック設定と同じ結果になる可能性があります。

3. ハードウェア セットアップ

CPU設定(手動時)

注意: JumperFreeモードを無効にした場合です。

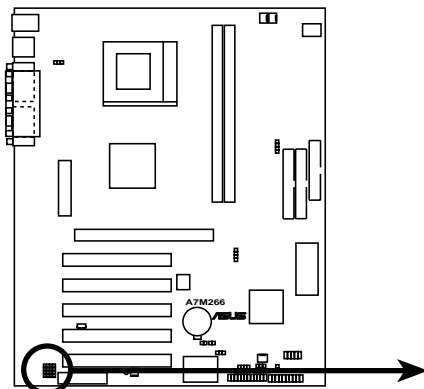
DIPスイッチにより、CPUの内部クロックは以下の様に設定されます。

CPU	クロック	倍率	外部バス	(CPUバス周波数)			
				1	2	3	4
Athlon	1.2GHz	9.0x	133MHz	[ON]	[ON]	[ON]	[OFF]
Athlon	1GHz	7.5x	133MHz	[ON]	[ON]	[ON]	[OFF]
Athlon	1.1GHz	11.0x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	1GHz	10.0x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	950MHz	9.5x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	900MHz	9.0x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	850MHz	8.5x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	800MHz	8.0x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	750MHz	7.5x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	700MHz	7.0x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	650MHz	6.5x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Athlon	600MHz	6.0x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Duron	750MHz	7.5x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Duron	700MHz	7.0x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
Duron	650MHz	6.5x	100MHz	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]

注: 最新のCPUの設定については、ASUSのWEBページをご覧ください。
(「ASUSサポート情報」参照)

3. ハードウェア セットアップ

- 7) レギュレータ出力電圧設定 (VID1, VID2, VID3, VID4)
 このジャンパで、CPUコア電圧を手動で設定できます。「CPU Default」に設定することをお勧めします。「CPU Default」は、コア電圧を CPU VID に従って設定します。使用するCPUにより、2種類のジャンパ設定があります。



A7M266 CPU Core Voltage Selection

	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
VID4	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID3	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID2	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID1	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
	1.85/1.825Volts				1.8/1.775Volts				1.75/1.725Volts			
VID4	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID3	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID2	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID1	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
	1.7/1.675Volts				1.65/1.625Volts				1.6/1.575Volts			
VID4	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID3	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID2	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID1	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
	1.55/1.525Volts				1.50/1.475Volts				1.45/1.425Volts			
VID4	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID3	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID2	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID1	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
	1.40/1.375Volts				1.35/1.325Volts				1.30/1.275Volts			
VID4	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID3	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID2	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID1	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
	1.25/1.225Volts				1.20/1.175Volts				1.15/1.125Volts			
VID4	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID3	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID2	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
VID1	■	■	□	□	■	■	□	□	■	■	□	□
	1.10/1.075Volts				CPU Default/ JumperFree (Default)							

3. ハードウェア セットアップ

3.5 メインメモリ (DDR DIMM)

本マザーボードは、DDR DIMM (Double Data Rate Dual Inline Memory Modules) のみサポートします。2本のソケットがあり、対応メモリは、2.5V、バッファなし(unbuffered)およびレジスタード(registered) DDR SDRAM、64MB・128MB・256MB・512MB・1GBモジュールです。合計メモリ容量は64MBから最大2GBまでです。DIMMの片面(サイド)が、マザーボードの「row」の1つに相当します。

ECC (エラー訂正機能)および非ECC、レジスタード(registered : サーバー用)およびバッファなし(unbuffered)の両方に対応しています。

注意 : DDRメモリのバスクロックは、CPUのFSBクロックと同じ周波数になります。

以下のいずれの組み合わせでも使用できます:

DIMMソケット	184ピン DIMM	計
ソケット1 (Rows 0&1)	64MB, 128MB, 256MB, 512MB, 1GB	x1
ソケット2 (Rows 2&3)	64MB, 128MB, 256MB, 512MB, 1GB	x1
合計メモリサイズ (最大 2GB)		=

ASUS A7M266 動作確認済みDDR DIMMリスト

以下は、本マザーボードでテスト・動作確認されたメモリモジュールの一覧です。

発売元	型式	タイプ/サイズ	製造元
Samsung	M368L1713BT1-CB0	PC2100 / 128MB	Samsung K4H280838B-TCB0
Samsung	M368L1713BT1-CA0	PC1600 / 128MB	Samsung K4H280838B-TCA0
Samsung	M368L3313BT1-CB0	PC2100 / 256MB	Samsung K4H280838B-TCB0
Samsung	M368L3313BT1-CA0	PC1600 / 256MB	Samsung K4H280838B-TCA0
Micron	MT8VDDT864AG-265A2	PC2100 / 64MB	Micron 46V8M8-75
Micron	MT16VDDT1664AG-265A2	PC2100 / 128MB	Micron 46V8M8-75
TwinMOS	N/A	PC2100 / 128MB	Hyundai HY5DU28822
HCD	N/A	PC2100 / 64MB	Micron 46V8M8-75
HCD	N/A	PC2100 / 128MB	Micron 46V8M8-75
HCD	N/A	PC2100 / 256MB	Samsung K4H280838B-TCB0

3. ハードウェア セットアップ

3.5.1 DIMMについて

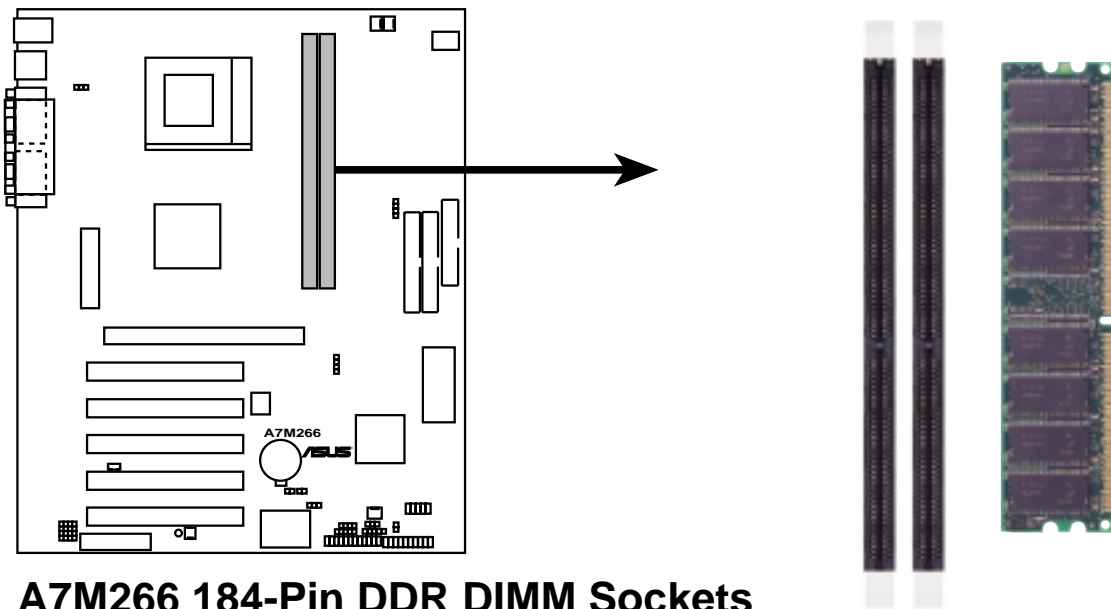
- ・ 本マザーボードでは、18個を越えるチップを搭載したDIMMモジュールはサポートしていません。
- ・ CPUバスクロックが200MHz/266MHzの場合、PC1600/PC2100準拠のDIMMのみを使用してください。
- ・ ASUS製マザーボードは、SPD (Serial Presence Detect) DIMMをサポートしています。このメモリは、速度と安定性に優れています。
- ・ 起動時のBIOSメッセージで SDRAM容量を確認できます。
- ・ 16, 32, 64, 128, 256MBのDIMMは、シングルサイド、32, 64, 128, 256, 512MBは、ダブルサイドが一般的です。

警告！ 使用できるDIMMは、特定のMHz数を持つDDR SDRAMのみです。これ以外の場合は、起動できなくなります。

3.5.2 メモリの取り付け

警告！ メモリや他のパーツの取り付け・取り外し時には、電源プラグを抜いてください。マザーボードや他のパーツに多大なダメージを与える恐れがあります。(「3.3 ハードウェアセットアップ手順」参照。)

以下の図を参照して取り付けてください。184ピン DDR SDRAM DIMMには中央に小さな刻み目があります。刻み目の両側のピンの数が違うので一方方向にしかささらないはずです。



A7M266 184-Pin DDR DIMM Sockets

本マザーボードは3種類のクロック数の違ったDIMMをサポートします。

3. ハードウェア セットアップ

3.6 CPU (中央演算処理装置)

本マザーボードは、Socket 462 あるいは Socket Aと呼ばれるCPUソケットを装備しています。CPUには、オーバーヒート防止のためヒートシンクとファンを必ず取り付けてください。もしなければ、別途お買い求めの上、システムの電源を入れる前に取り付けてください。

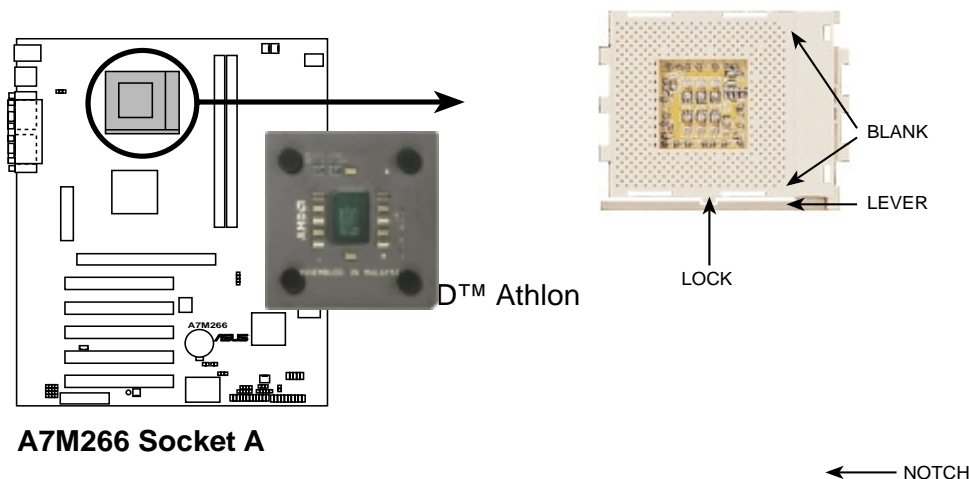
警告！ ヒートシンクがCPUにしっかりと取り付けられているかどうか確認してください。また、CPUファンにより、ヒートシンクに十分な風があたっていることを確認してください。十分な冷却風がない場合は、CPUがオーバーヒートして、マザーボードとCPUの両方にダメージを与える可能性があります。必要ならば補助のファンを用いてください。

まず電源を切ってから、ケースをあけてCPUを取り付けます。ソケット462の位置を確認したら、横手にあるレバーを一旦押し込んで横方向にずらし、90度の角度になるまで引き上げます。以下に示す通りにCPUを正しい向きに差し込みます。CPUの切り欠き(NOTCH)のある角が、レバーのそばの空白部分(BLANK)に向くように取り付けます。CPUの角2ヶ所にピンがついているため、正しい方向にしか差し込めないと必ずです。下図は参考用で、実際はCPU上面にファンが取り付けられています。ファンの重みを利用すれば、力を入れなくてもCPUは差し込まれます。差し込まれたことを確認したら、レバーを下げてCPUを固定します。

注意事項：

1. CPUを取り付け・取り外しする場合は、ソケットのレバーを十分(90度~100度)に起こしてから、CPUの水平を保つようにして行います。CPUを無理矢理ソケットに差し込まないでください。ピンが折れる危険性があります。CPUの向きがあっていても、CPUは力を入れなくてもソケットに自重で入るはずですが。
2. 外部バス周波数と倍率を正しく設定してください。設定が正しくないとシステムが起動できません。
3. ソケットAプロセッサは、ソケット内蔵のセンサで温度を検出します。

注意！ クランプ式のヒートシンクを取り付ける場合、マザーボード基板に傷をつけないように注意してください。



3. ハードウェア セットアップ

(MEMO)

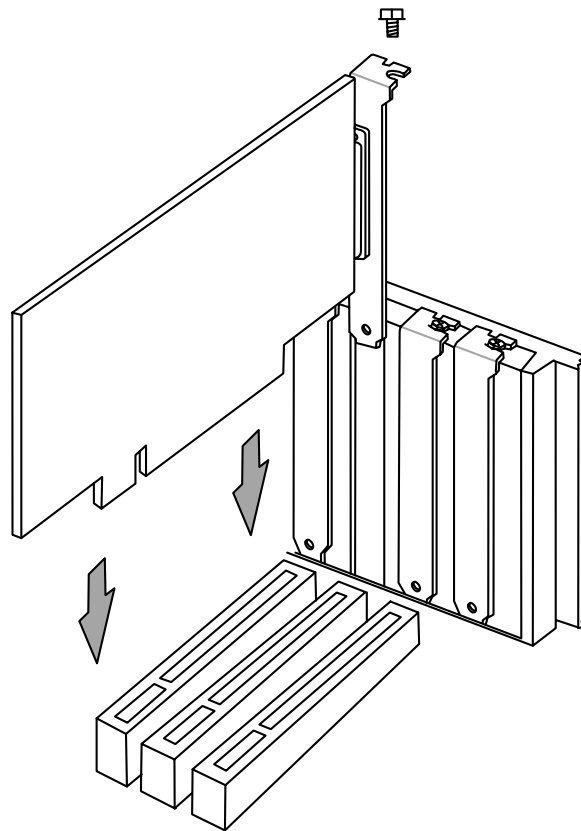
3. ハードウェア セットアップ

3.7 拡張カード

警告！ 拡張カードや他の部品を取り付け・取り外しする場合は、必ず電源プラグを抜いてください。マザーボードと拡張カードに多大なダメージを与える危険性があります。

3.7.1 拡張カードの取り付け方

1. 拡張カードのマニュアルをよく読んで、必要ならばジャンパなどのハードウェアおよびソフトウェアの設定を行います。
2. コンピュータのカバーを外し、使用するスロットのブラケットを外します。ブラケットは予備に取っておきます。
3. カードとスロットのコネクタの向きを合わせ、しっかりと押し込みます。
4. 上記で外したネジを用いて、カードを固定します。
5. コンピュータのカバーを取り付けます。
6. 必要に応じて BIOS の設定を行います。
(「4.4.3 PCI Configuration」の IRQ_{xx} Used By ISA: Yes など)
7. カードに必要なドライバ・ソフトウェアをインストールします。



3. ハードウェア セットアップ

3.7.2 拡張カードへのIRQ割り当て

拡張カードには、IRQを要求するものがあります。一般に1つのIRQは1つの目的のために割り当てられます。標準では、16個のIRQがありますが、システムが利用しているものもあるため、拡張カード用には6個のIRQが残っているだけです。オンボードのPCIサウンドが有効であるならば、追加のIRQが使用されています。オンボードのMIDIが有効になっていれば、さらに1個のIRQが使用され、残りは4個となります。

重要: IRQを共有するPCI スロットに複数のカードを挿す場合は、そのカードが「IRQ共有」に対応しているか、またはIRQを必要としないものか確認してください。IRQの衝突は、システムが不安定になったり、そのカードが使用できなくなったりします。次表は一般的なPCにおけるIRQの割り当て表です。この表を利用してIRQの割り当てと衝突の回避を行ってください。

一般的な割り込みの割り当て

IRQ	優先順位	一般的な機能
0	1	システムタイマ
1	2	キーボードコントローラ
2	N/A	プログラム可能な割り込み
3*	11	シリアルポート(COM2)
4*	12	シリアルポート(COM1)
5*	13	サウンドまたはパラレルポート2
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7*	15	パラレルポート(LPT1)
8	3	リアルタイムクロック
9*	4	ACPI モード
10*	5	PCIステアリング用IRQホルダ
11*	6	PCIステアリング用IRQホルダ
12*	7	PS/2マウス
13	8	コプロセッサ
14*	9	プライマリ IDE
15*	10	セカンダリ IDE

*これらのIRQは、通常PCIデバイス用のものです。

本マザーボードでの割り込み一覧表

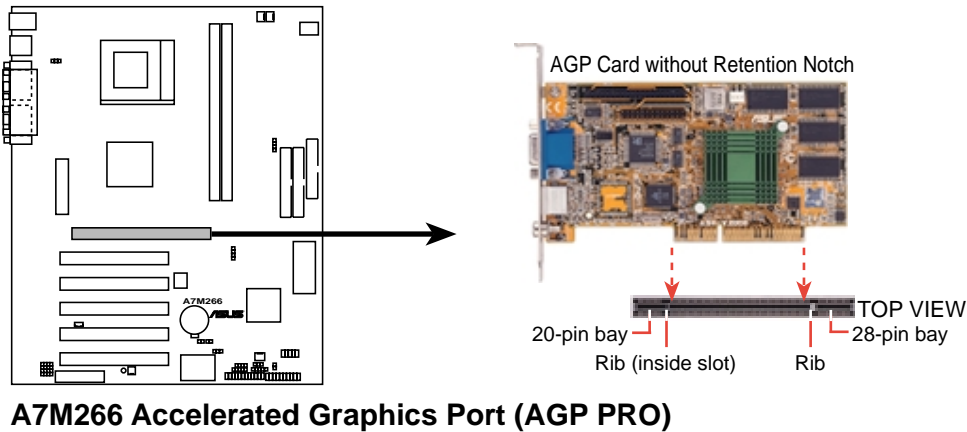
	INT-A	INT-B	INT-C	INT-D
PCI スロット1	共有	-	-	-
PCI スロット2	-	共有	-	-
PCI スロット3	-	-	共有	-
PCI スロット4	-	-	-	共有
PCI スロット5	-	-	-	共有
AGP Proスロット	共有	共有	-	-
オンボード PCI音源	-	共有	共有	-
AMRデバイス	-	-	共有	-
オンボードUSBコントローラ	-	-	-	共有

3. ハードウェア セットアップ

3.7.3 AGP Pro スロット

本マザーボードは、ASUS AGP-V7700などのAGP/AGP Proビデオカードに対応したAGP Proスロットを装備しています。

注意！ AGPカードに多大なダメージを与える場合がありますので、スロットにカードを挿す場合は、必ず電源プラグを抜いてください。



注意！ 出荷状態では、20ピン部分に警告シールが貼ってあります。リテンションノッチがないAGPカードを用いる場合は、このシールとその下に隠れている安全タブをはがさないでください。これを外すと、コネクタがずれて挿し込まれることになり危険です。AGP Proカードを用いる場合にのみ、はがしてください。はがす場合は、ペン先のような先の尖ったもので、慎重に外してください。

タブの外し方

The diagram shows a hand using a pointed tool to lift a safety tab from the 20-pin bay of the AGP Pro slot. The tab is attached to a warning seal.

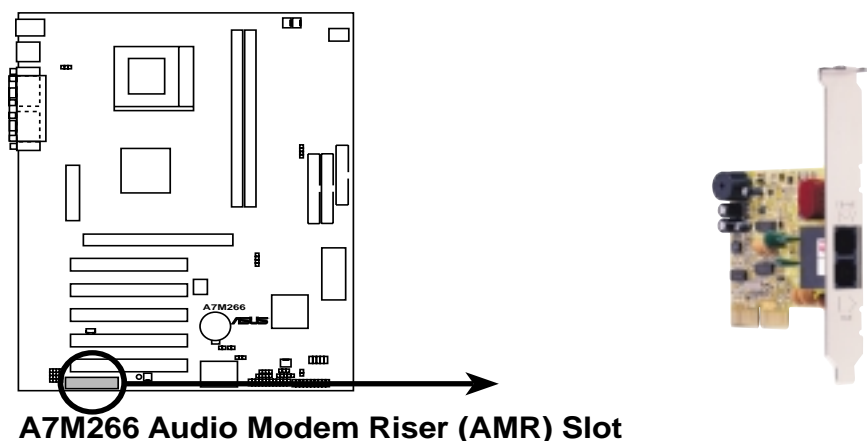
3. ハードウェア
拡張カード

3. ハードウェア セットアップ

3.7.4 オーディオモデムライザ(AMR) スロット

このコネクタは、AMRと呼ばれる特別に設計されたオーディオ/モデムカード用のものです。主な処理はソフトウェアで行われチップセットにより制御されます。これにより低コストなオーディオ/モデム環境を実現できます。

重要: 本マザーボードでのAMRスロットは、PCI スロット 5と兼用しています。このため、スロットはオプションの特別なAMRカードのみ使用可能です。一般的なAMRカードは、ブラケットがマザーボード基板側に向いていますが、特別なAMRカードは、拡張カードスロットに向いています。使用できるカードについては、販売店にお問い合わせください。



A7M266 Audio Modem Riser (AMR) Slot

3. ハードウェア セットアップ

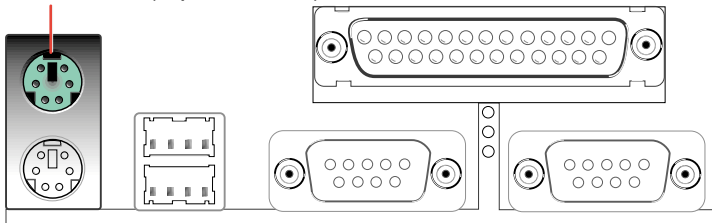
3.8 外部機器用コネクタ

警告！ いくつかのコネクタのピンは電源となっています。マザーボード上では、これらは明確に区別できるようになっています。このピンにジャンパキャップを挿してショートさせないようにしてください。

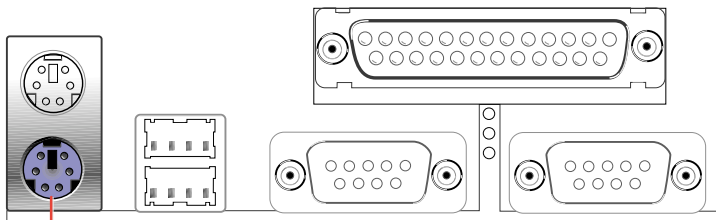
重要： フラットケーブルは通常1番ピン側が赤や青に塗られています。ハードディスクやCDドライブでは、通常電源コネクタ側が1番ピンとなっていますが、フロッピードライブは、逆の場合があります。接続前に、この例外がないか確認してください。IDE用フラットケーブルは、全長46 cm以内、機器側のコネクタ間の長さは、15cmを越えてはいけません。

- 1) PS/2 マウス コネクタ (緑色 6ピン PS2KBMS)
PS/2マウスが検出されると自動的にIRQ12が割り当てられます。PS/2マウスを用いない場合は、IRQ12を拡張カード用に使用できます。
(「4.4 Advanced Menu」の「PS/2 Mouse Function Control」参照)

PS/2 Mouse (6-pin Female)



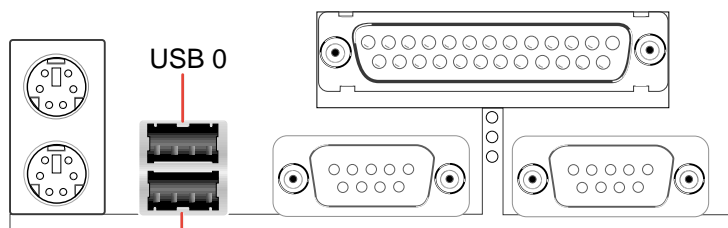
- 2) PS/2 キーボード コネクタ (紫色 6ピン PS2KBMS)
ミニDINと呼ばれるPS/2キーボードコネクタを接続します。ATタイプの大きなコネクタは接続出来ません。変換コネクタを用いてください。



PS/2 Keyboard (6-pin Female)

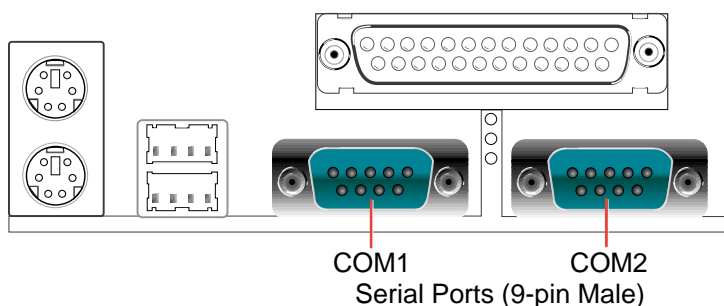
3. ハードウェア セットアップ

- 3) USBポート (黒色 4ピン×2 USB)
USB機器用に2個のUSBポートが使用可能です。それ以上のコネクタが必要な場合は、ケースに取り付けるUSB端子を用品います。



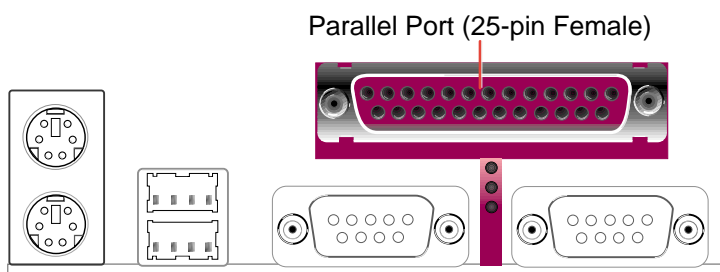
Universal Serial Bus (USB) 1

- 4) シリアルポート コネクタ (青緑色 9ピン COM1 / COM2)
マウスや他のシリアルデバイスのためのポートが2個あります。「4.4.2 I/O Device Configuration」の「Onboard Serial Port 1/2」参照。



Serial Ports (9-pin Male)

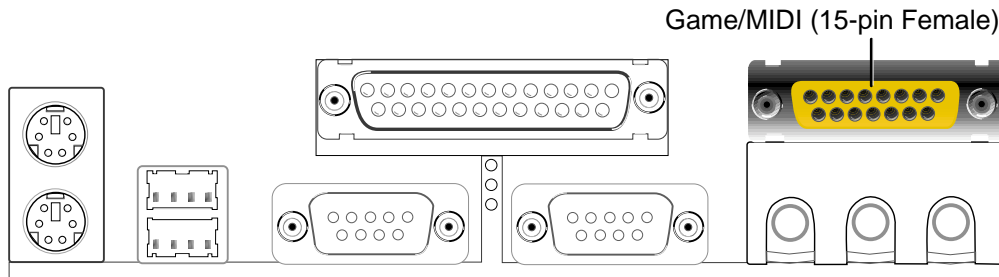
- 5) パラレルポート コネクタ (赤紫 25ピン PRINTER)
パラレルポートのIRQは、Onboard Parallel Port で設定できます。
(「4.4.2 I/O Device Configuration」参照)
注意：シリアルプリンタはシリアルポートに接続してください。



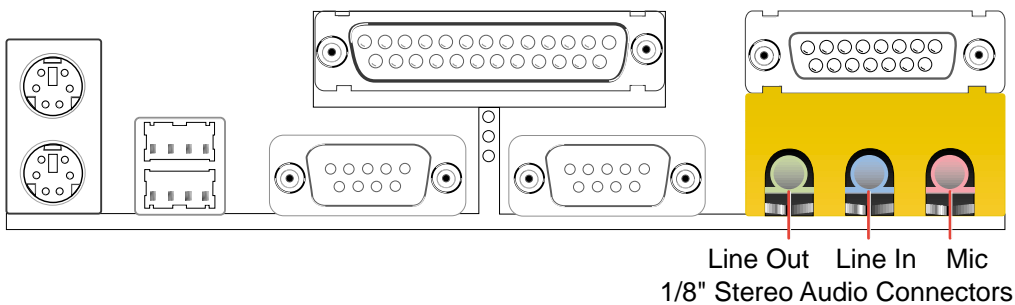
Parallel Port (25-pin Female)

3. ハードウェア セットアップ

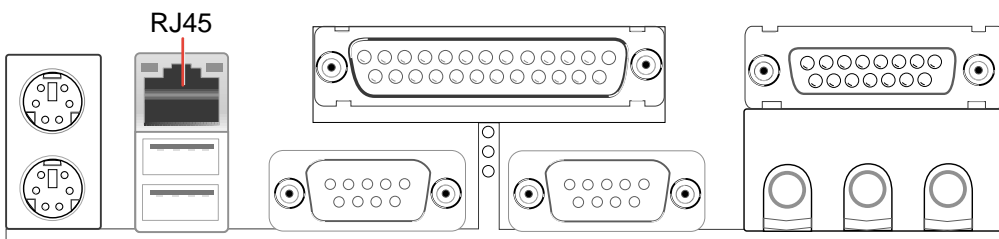
- 6) ゲーム/MIDIコネクタ (金色 15ピン GAME_AUDIO) (オプション)
ジョイスティックやゲームパッドなどを接続します。また、オーディオ再生・編集のためのMIDI機器を接続することができます。



- 7) オーディオコネクタ (ミニジャック×3 GAME_AUDIO) (オプション)
Line Out (緑)には、ヘッドホンやアンプ付きスピーカを接続します。
Line In (青)には、CDプレーヤーなどのオーディオ機器を接続し、コンピュータに録音したり、Line Out (緑)から出力できます。Mic (桃)には、音声入力のためのマイクロホンを接続します。

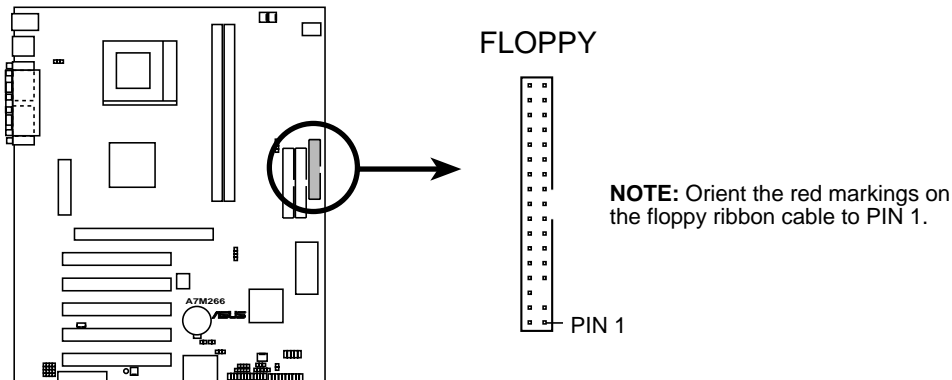


- 8) LANポートコネクタ (RJ45) (オプション)
USBコネクタの上には、RJ45コネクタがあります。このコネクタにイーサネット用のLANケーブルを接続します。このコネクタはオプションです。



3. ハードウェア セットアップ

- 9) フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンFLOPPY)
FDドライブのフラットケーブル接続用です。ケーブルのコネクタが1つだけついている端をマザーボードにつなぎ、反対側をFDドライブにつなぎます。(誤接続防止のため、ケーブル側の5番ピンが埋められている場合がありますので、このコネクタの5番ピンもありません。)

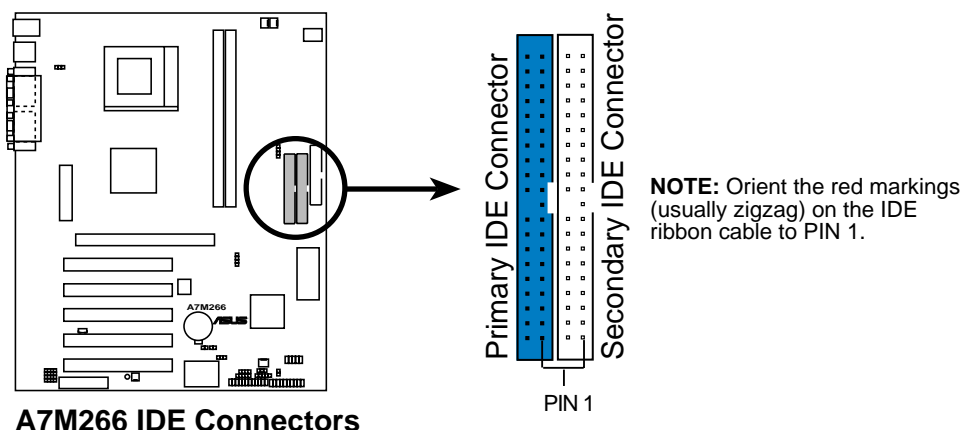


A7M266 Floppy Disk Drive Connector

- 10) プライマリ (青) /セカンダリIDEコネクタ(40-1ピンIDE×2)
IDEハードディスクのフラットケーブルをつなぐコネクタです。ケーブルを青いプライマリコネクタ(推奨)、または、セカンダリコネクタにつなぎます。反対側の灰色のコネクタをUltraDMA/100の slaveドライブ、黒のコネクタをmasterドライブに接続します。UltraDMA/100非対応のドライブはセカンダリに接続することを推奨します。1つのポートに2台のドライブを接続する時は、2台目がスレーブになるようにハードディスクのジャンパを設定します。ジャンパの設定方法は、ハードディスク自身を参照してください。BIOSで、特定のドライブからブートさせることができます(「4.6 Boot Menu」参照)。(誤接続防止のため、ケーブル側の20番ピンが埋められている場合がありますので、このコネクタの20番ピンもありません。)

ヒント：2台のHDDを1台はプライマリ、もう1台をセカンダリのそれぞれマスターとして設定できます。2種類のOSを、1つは、IDE、もう1つをSCSIドライブにインストールすればBIOS セットアップで、どちらをブートさせるか選択することが出来ます。

重要：UltraDMA/100デバイスで100MByte/secの性能を得るためには、40ピン80芯のケーブルを用いる必要があります。



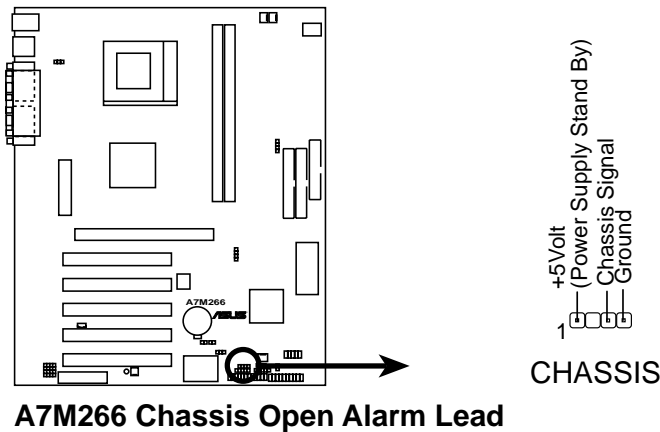
A7M266 IDE Connectors

3. ハードウェア セットアップ

11) ケース開放警報用コネクタ (4-1ピンCHASSIS)

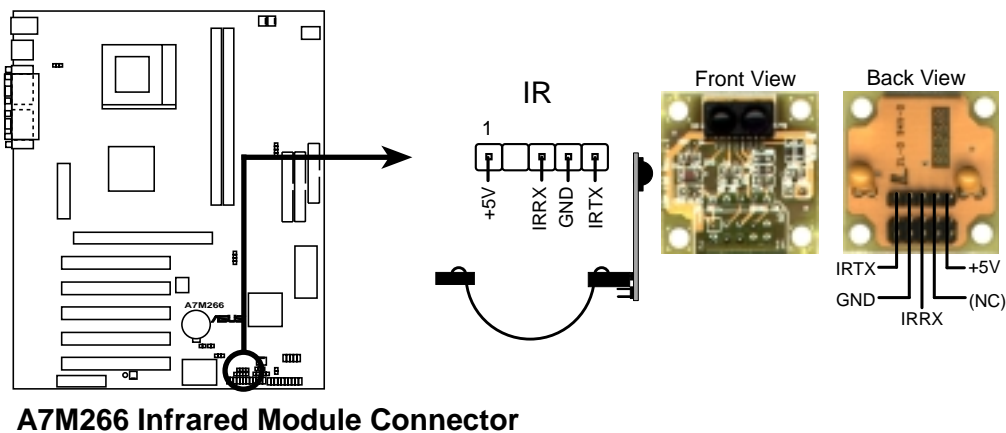
ケースが開放されたことを検出するためのコネクタです。ケースのカバーや他の取り外し可能な機器に市販のトグルスイッチを取り付けて利用します。2本の配線が必要です。内部のパーツが取り外されるとスイッチが開放されマザーボードにそのことが通報されます。さらにLDCM等のソフトウェアに知らされます。オプションの「ASUS CIDBケース開放検出モジュール」とともに使用します。詳しくは、取扱店にお問い合わせください。

注意：この機能を用いない場合は、ジャンパをはめて回路をショートさせておいてください。



12) 標準赤外線モジュールコネクタ (5-1ピンIR)

オプションの赤外線送受信モジュールを接続します。ケースに小さな穴を開けて、このモジュールを取り付けます。「UART2 Use Infrared」にて UART2を COM2で使用するか IrDAするかを設定します（「4.4.2 I/O device Configuration」参照）。下図の「Back View」にある5ピンのコネクタとマザーボード上のSIRコネクタの信号割り当てを参照して、フラットケーブルで接続します。

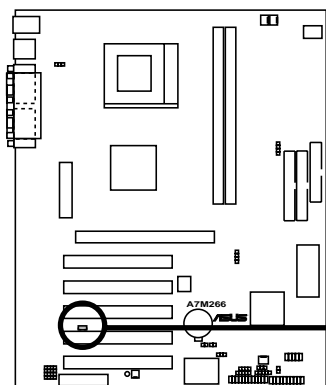


3. ハードウェア セットアップ

13) Wake-On-LAN用コネクタ (3ピンWOLCON)

ASUS PCI-L101などのWake-On-LAN対応LANカードを接続します。
(「7. 付録」参照。) LANカードを通して起動パケットや信号を受信すると、システムを自動起動させます。

重要! この機能を用いるには、BIOSのWake On LAN や PCIモデム項目を有効にする必要があります。(「4.5.1 Power Up Control」参照。) さらにATX電源の+5VSBに720mA以上の容量が必要です。



A7M266 Wake-On-LAN Connector

IMPORTANT: Requires an ATX power supply with at least 720mA +5 volt standby power

WOLCON

Ground

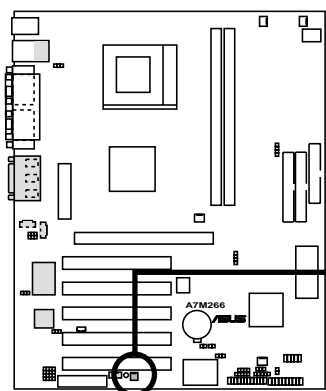


PME +5 Volt Standby

14) Wake-On-Ring用コネクタ(2ピンWOR)

Wake-On-Ring機能付の内蔵モデムを接続します。内蔵モデムを通し、RingUpパケットや信号を受信すると、システムを起動させます。
注意：外付けモデムを用いる場合、Wake-On-Ring信号は、COMポートを通して受信できます。

重要: この機能を用いるには、BIOSのWake On LAN や PCIモデム項目を有効にする必要があります。(「4.5.1 Power Up Control」参照。) さらにATX電源の+5VSBに720mA以上の容量が必要です。



A7M266 Wake-On-Ring Connector

WOR

1 2

Ground Ring#

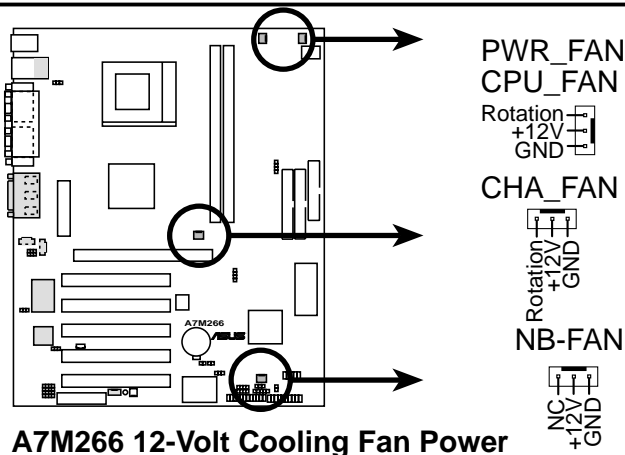
3. ハードウェア セットアップ

15) ケース, 電源, CPU およびチップセット ファンコネクタ
(3ピンCHA_FAN, PWR_FAN, CPU_FAN, NB_FAN)

350mA(4.2 W)以下のファンに対応しています。拡張カードではなく、マザーボード上のヒートシンクに風があたるように、ファンの向きを調節してください。ファンの種類により、取り付け方や配線は異なります。通常、赤がプラス、黒がグラウンドです。極性に注意してコネクタを接続してください。

注意： <回転>信号は特定のファンにのみ使用されています。毎分の回転数(RPM)は、ASUS iPanelおよびASUS PC Probeで直接読み取ることが出来ます。(「6. ソフトウェアリファレンス」参照。)

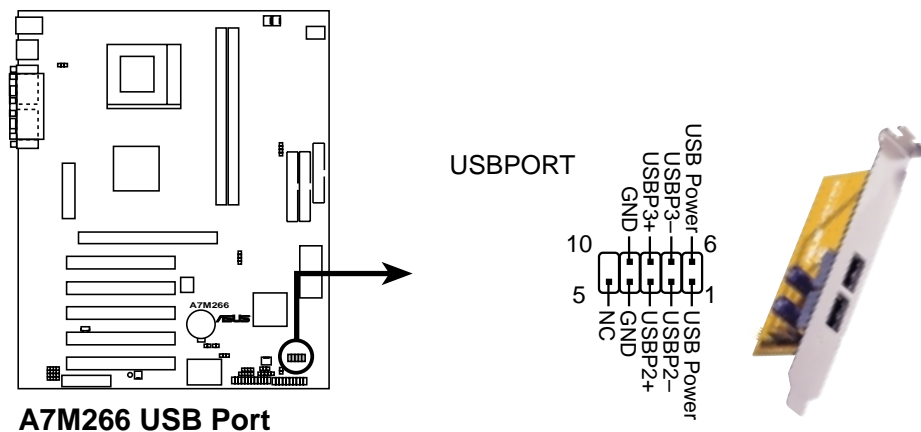
警告！ マザーボードのヒートシンクに風があたるようにしないと、オーバーヒートを起こします。ファンの極性を間違えるとファンやマザーボードにダメージを与えます。このコネクタはジャンパではありません。ジャンパキャップをはめないようにしてください。



3. ハードウェア セットアップ

16) USBポート増設用端子 (10-1ピンUSBPORT)

背面のUSBコネクタの数が足りない場合には、この端子により2個のUSBポートを増設できます。オプションのUSB増設コネクタセットのフラットケーブルをマザーボードの10-1ピンコネクタにつなぎ、コネクタセットを空きスロットに取り付けます。

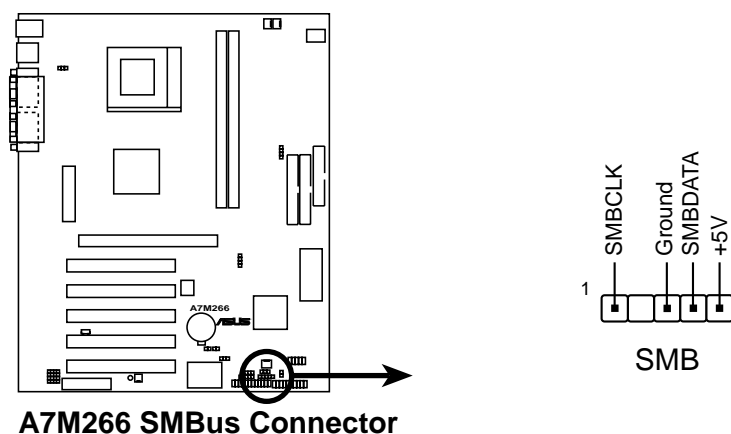


A7M266 USB Port

推奨: USBPORTコネクタには付属の2ポート増設コネクタセットのみを使用することを推奨します。

17) SMBコネクタ (5-1ピンSMB)

SMBus (System Management Bus) デバイス接続用コネクタです。SMBus デバイスは、SMBusホストとSMBus機器間の通信を行います。これは、I²Cバスとして定義されたマルチデバイスバスで、1つのバスに複数の機器を接続でき、それぞれが同時にマスタとしてデータ転送できます。

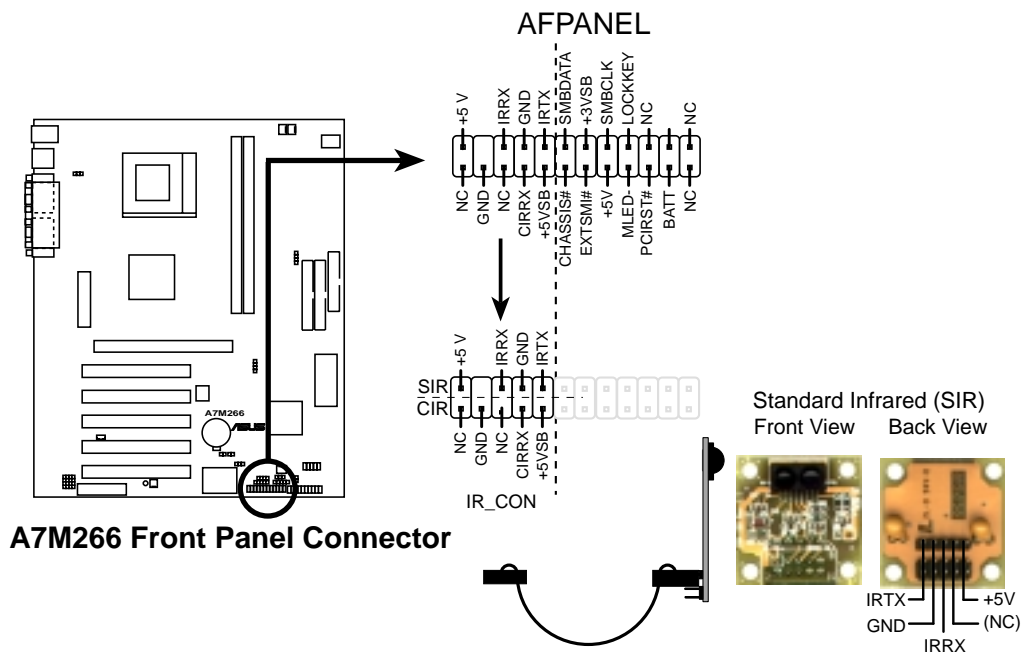


A7M266 SMBus Connector

3. ハードウェア セットアップ

18) ASUS iPanel用コネクタ(12-1ピンAFPANEL)

ASUS iPanel (オプション) 接続用のコネクタです。ドライブベイに取り付けて、I/Oコネクタ、監視LED、HDDのスペース確保に利用できます。ASUS iPanelを使わない場合は、SIRコネクタにオプションの赤外線モジュール、CIRとSIRコネクタに市販の赤外線コネクタを接続できます。双方とも、外部の赤外線機器と通信することができます。



A7M266 Front Panel Connector

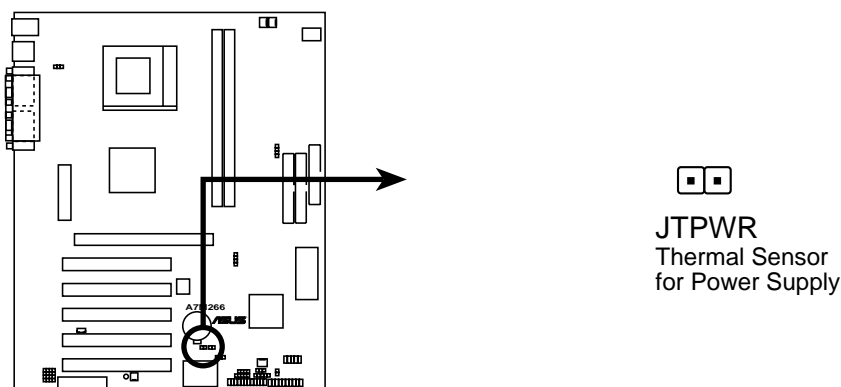
Standard Infrared (SIR)
Front View Back View

IRTX
GND
IRRX
+5V (NC)

3. ハードウェア
コネクタ

19) 電源用温度センサコネクタ(2ピン箱型JTPWR)

温度監視付きの電源などの温度センサのケーブルをここに接続します。



A7M266 Thermal Sensor Connectors

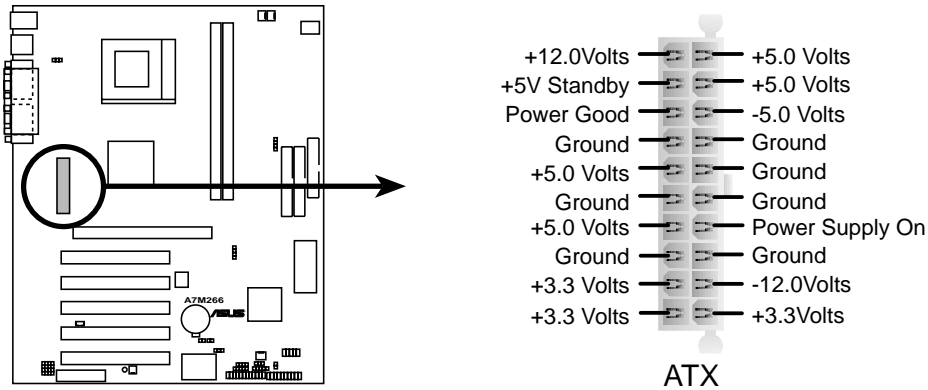
JTPWR
Thermal Sensor
for Power Supply

3. ハードウェア セットアップ

20) ATX電源コネクタ (20ピン箱型 ATXPWR)

ATX 12V 電源を接続します。電源装置の各コネクタは、各穴の形状が異なっていますので、一方向にしか挿さらないようになっています。正しい方向を確認して、しっかりと差し込みます。

重要： ATX電源の +5VSB端子に最低10mAの容量が必要です。容量が不足するとシステムが不安定になったり、起動しなくなります。Wake-On-LAN機能を使う場合、+5VSBに最低750mA必要です。

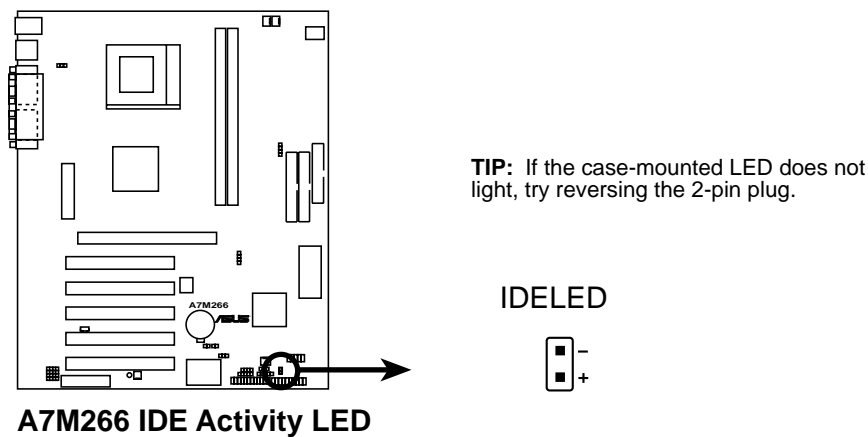


A7M266 ATX Power Connector

3. ハードウェア
コネクタ

21) IDEアクセス LED (2ピン HDDLED)

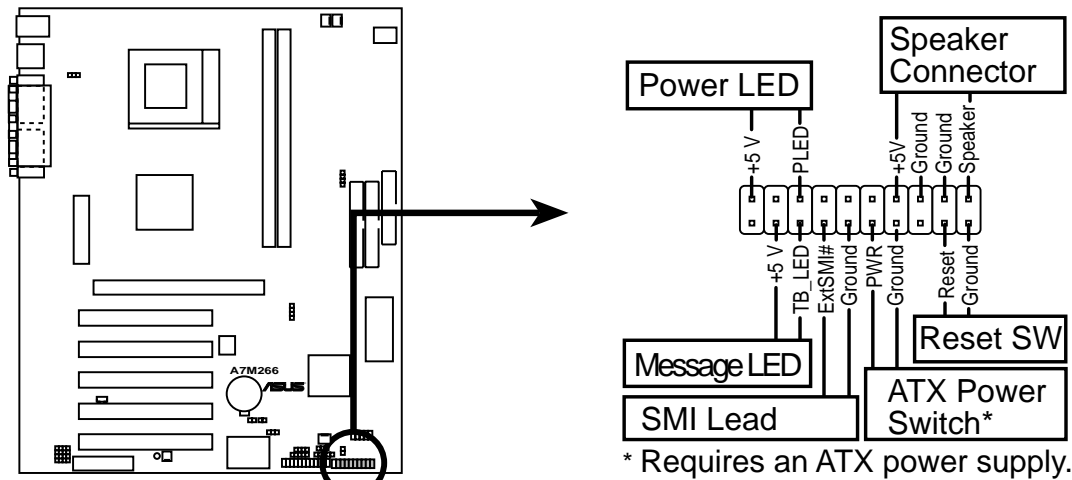
ケースの IDEアクセスLEDをつなぐコネクタです。プライマリ/セカンダリのIDEデバイスが読み書きを行っている間、LEDが点灯します。



A7M266 IDE Activity LED

3. ハードウェア セットアップ

22~27項参照図



A7M266 System Panel Connectors

22) 電源LED端子 (3-1 ピン PWRLED)

ケースなどの電源LEDを接続する端子です。システムの電源投入時に点灯し、スリープ状態の時には点滅します。

23) ビープ音用スピーカ端子 (4ピン SPEAKER)

ケース付属のスピーカに接続します。

24) システムメッセージLED端子 (2ピン MSG.LED)

ファックスやモデムからの受信メッセージ表示用端子です。LEDは、通常点灯しており、メッセージがあると点滅します。この機能を用いるには、ACPI対応OSとそのドライバが必要です。

25) システム管理割り込み用端子 (2ピン SMI)

システムを手動でサスペンドモードや「グリーン」モードにできる端子です。コンピュータを使っていない時の節電やパーツの延命措置に有効です。ケースのサスペンドスイッチの2端子のコネクタを接続します。

26) ATX 電源/ソフトオフスイッチ用端子 (2ピン PWRSW)

ここにモーメンタリ型スイッチを接続してシステムの電源をオンオフできます。スイッチを一度押すとオンし、もう一度押すとソフト的にオフになります。電源オン時に4秒以上押すと、完全にオフにできます。電源LEDによりオンオフ状態を確認できます。

27) リセットスイッチ用端子 (2ピン RESET)

ケースのリセットスイッチを接続します。システムを電源を切らずに再起動します。これは、電源ユニットの寿命を延ばすのために適切な再起動方法です。

3. ハードウェア セットアップ

(MEMO)

3. ハードウェア
コネクタ

3. ハードウェア セットアップ

3.9 最初の電源投入時に

1. すべての結線を確認し、ケースのカバーを閉じます。
2. すべてのスイッチがオフ(○印で表現されている場合があります)になっていることを確認します。
3. AC電源コードを電源のマニュアルに従って、コンピュータに接続します。
4. AC電源コードをサージプロテクタ付きのコンセントに接続します。
5. 以下の順番で機器の電源を入れます。
 - a. ディスプレイ
 - b. 外付けSCSI装置(コンピュータから遠い順番に)
 - c. コンピュータ本体。ATX電源の場合は、電源自身に電源スイッチがあるものがあります。ケース前面のスイッチを入れる前に、これをオンにします。
6. ケース前面の電源LEDが点灯します。ATX電源の場合は、ATX電源スイッチを押した時点で点灯します。ディスプレイの電源は、「グリーン」モードやスタンバイモードに従って緑や橙に点灯/点滅します。システムはパワーオンテスト(POST)に移行します。テスト中にBIOSはビーブ音を発したり、画面にメッセージを表示します。電源投入後、30秒たっても画面に何も表示されない時は、パワーオンテストに失敗しています。ジャンパやコネクタの接続を今一度チェックし、必要ならば販売店にご相談ください。

ビーブ音 (Award BIOS)

ビーブ音	意味
短い音 1 回 (ロゴ表示中)	正常(エラーなし)
長い音の繰り返し	メインメモリの異常
短い音 3 回 +長い音 1 回	ビデオカードまたはそのメモリの異常
短い音の繰り返し (コンピュータ稼働中)	CPUのオーバーヒート (システム周波数を下げている状態)

3. ハードウェア セットアップ

7. 起動中に<Delete>キーを押すと、BIOSセットアップモードになります。「4. BIOSセットアップ」を参照してください。
- * コンピュータの電源の切り方。スイッチで電源を切る前にOSをシャットダウンしてください。ATX電源の場合、OSを終了させてから、スイッチで電源を切ることができます。Windows 9XやWindows2000の場合、「スタート」ボタンをクリックし「Windowsの終了」を選択し、そして「電源を切れる状態にする」を選択します。Windowsが終了すると同時にコンピュータの電源も自動で切れます。

注: ATX電源使用時には「コンピュータの電源を切る準備ができませんでした」というメッセージは表示されません。

4. BIOS SETUP

4.1 BIOSの取り扱いとアップデート

4.1.1 最初にお使いになる前に

再インストールに備えて、AFLASH.EXE等のユーティリティを用いて、オリジナルのBIOSをブート可能なフロッピーディスクにバックアップすることを推奨します。AFLASH.EXEは、フラッシュメモリの書き込みツールで、BIOSアップデート時に新しいBIOSを書き込むのにも使います。これは、DOS専用のアプリケーションです。現在のBIOSのバージョンを知るには、起動画面の左上に表示される4桁の数字を見ます。数字が大きいほど、新しいバージョンです。

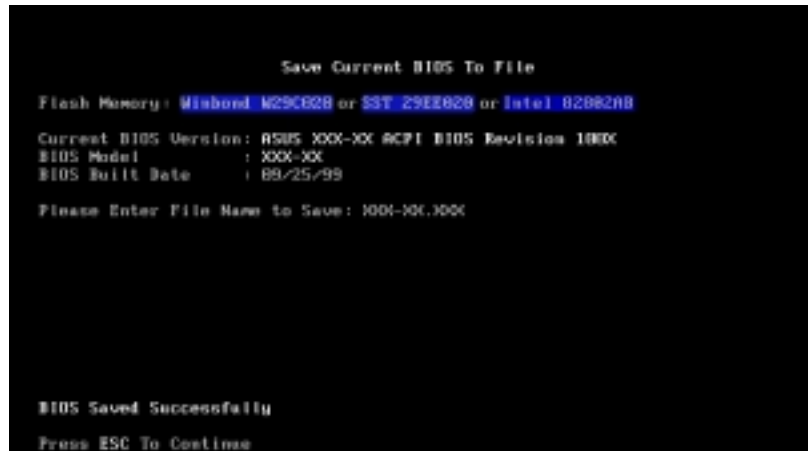
1. ブート可能なフロッピーを作成するため、DOSプロンプトでFORMAT A:/Sを実行します。AUTOEXEC.BATとCONFIG.SYSは、コピーしないでください。
2. 上記のフロッピーにAFLASH.EXEをコピーします。
例：COPY E:¥AFLASH¥AFLASH.EXE A:¥ (Eは、CD-ROMドライブのドライブレター)。
注意：AFLASHはDOSモード専用です。WindowsのDOSプロンプトやハードディスクから起動したメモリマネージャを含むDOSでは動きません。フロッピーから起動させてお使いください。
3. 上記のフロッピーでコンピュータを再起動します。
注意：「BIOSセットアップ」の「boot sequence」メニューで、「first item」にFloppyを設定しておいてください。
4. DOSプロンプトに対しA:¥AFLASH <Enter>と入力します。



重要！ Flash Memory 項目に「unknown」と表示された場合は、メモリチップが、ACPI BIOSに対応しておらず、フラッシュメモリ書き込みツールでの書き込みは不可能です。

4. BIOS セットアップ

5. メインメニューで「1. Save Current BIOS to File」を選択し、<Enter>キーを押します。「Save Current BIOS To File」画面に切り換わります。

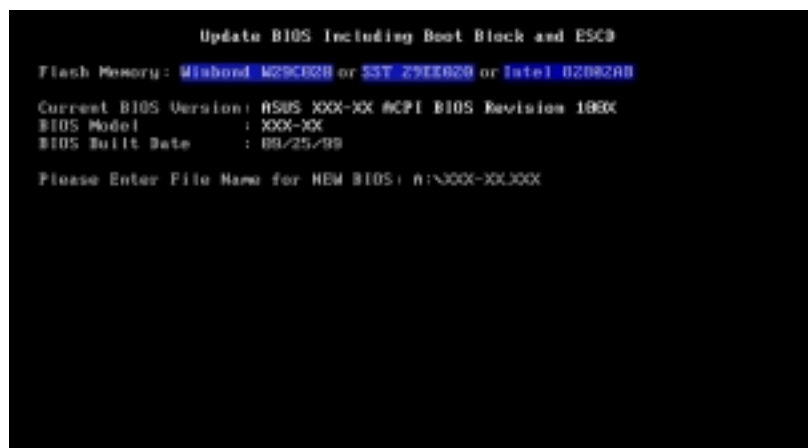


6. パスとファイル名を入力します。例)A:¥XX-XX.XXX<Enter>

4.1.2 BIOS アップデート手順

警告！ BIOSアップデートは、マザーボードに問題があり新しいBIOSでそれが解決出来る場合に行ってください。不用意なアップデートは、問題をさらに拡大させる可能性があります。

1. インターネットのWWWまたはFTPサイトから、BIOSファイルをダウンロードし、先に作成したフロッピーに保存します。(詳細は「ASUS サポート情報」(P.3)参照。)
2. そのフロッピーディスクでコンピュータを起動します。
3. A:¥>プロンプトに対し、AFLASH<Enter>と入力します。
4. Main Menuで2 <Enter>と入力します。「Update BIOS Including Boot Block and ESCD」画面に切り換わります。
5. 新しいBIOSのパスとファイル名を入力します。
例:A:¥XXX-XX.XXX<Enter>
注：この操作を取り消すには、<Enter>を押します。



4. BIOS セットアップ

6. 確認メッセージに対して、Y を押すとアップデート開始です。

```
Update BIOS Including Boot Block and ESCD
Flash Memory: Winbond W25Q080 or SST 29EE000 or Intel B260240
BIOS Version
[Current] ASUS 1001-XX ACPI BIOS Revision 100X
[Next] ASUS 1001-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model
[Current] 1001-XX
[Next] 1001-XX
Date of BIOS Build
[Current] 05/25/09
[Next] 05/25/09
Check sum of 1001.010 is F255.
Are you sure (Y/N) Y [Y]
Press ESC To Return to Main Menu
```

7. フラッシュROMに新しいBIOSの情報が書き込まれます。ブートブロックについては、必要に応じて自動で更新されます。これは、アップデート失敗による再起動不能のリスクを最小限に押さえます。「Flashed Successfully」と表示されたら、プログラミング終了です。

```
Update BIOS Including Boot Block and ESCD
Flash Memory: Winbond W25Q080 or SST 29EE000 or Intel B260240
BIOS Version
[Current] ASUS 1001-XX ACPI BIOS Revision 100X
[Next] ASUS 1001-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model
[Current] 1001-XX
[Next] 1001-XX
Date of BIOS Build
[Current] 05/25/09
[Next] 05/25/09
Check sum of 1001.010 is F255.
Are you sure (Y/N) Y [Y]
Block Erasing -- Done
Programming -- 3FFFF
Flashed Successfully
Press ESC To Continue
```

8. 画面の指示に従って続けます。

```
ASUS ACPI BIOS
FLASH MEMORY WRITER V2.00
Copyright (C) 1994-99, ASUSTEK COMPUTER INC.
Flash Memory: Winbond W25Q080 or SST 29EE000 or Intel B260240
Current BIOS Version: ASUS 1001-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model : 1001-XX
BIOS Build Date : 05/25/09
Choose one of the followings:
1. Save Current BIOS To File
2. Update BIOS Including Boot Block and ESCD
Enter choice: 113
You have flashed the EPROM. It is recommended that you turn off
the power, enter SETUP and Load Setup Defaults to have CMOS
updated with new BIOS when exits.
Press ESC To Exit
```

警告！ アップデート中に問題が発生しても、絶対に電源を切ってはいけません。再起動不可能になります。もう一度同じ手順を繰り返して、それでも問題あるなら、保存してある元のBIOSファイルを用いてください。BIOSファイルが完全に書き込まれない状態で中断すると、コンピュータは起動できなくなります。もし、この状態になった場合は修理が必要になります。

4. BIOS セットアップ

(MEMO)

4. BIOS セットアップ

4.2 BIOS セットアップ プログラム

本マザーボードは、書換え可能なEEPROMを用いており、「4.1 BIOSの取り扱いとアップデート」で述べたツールでアップデート可能です。

このツールは、マザーボードの交換、システムの再構築、または「Run Setup」と表示された時に使います。この章では、このツールを用いたシステム構築方法について述べます。

セットアッププログラムを使うように表示されない場合でも、将来コンピュータの設定を変える必要が出てくるかもしれません。例えば、セキュリティのためにパスワードを設定したり、省電力の設定を変えたりできます。システム設定を変更するには、BIOSセットアップを用いて、変更をコンピュータに教え、EEPROMのCMOSメモリに書き込む必要があります。

マザーボードのEEPROM内にセットアッププログラムが内蔵されています。コンピュータのパワーオンテスト(POST)中に、<Delete>キーを押すことにより、このプログラムを呼び出すことができます。もし、少しでもキーを押すのが遅れた場合は、自己診断が続行されセットアッププログラムを呼び出すことができません。この場合は、<Ctrl> + <Alt> + <Delete>またはリセットボタンを押してシステムを再起動してください。または、電源を一旦切って再起動してもいいですが、これは、先の2つの方法に失敗した時にしてください。

セットアッププログラムは、できる限り使いやすいようにデザインされています。メニュー方式になっており、様々なサブメニューから目的の項目を選択することができます。

BIOSセットアップを呼び出すには、コンピュータのパワーオンテスト(POST)中に<Delete>キーを押します。

注意： BIOSは、常に最新のものにアップデートされているため、次ページからの画面は一例であり、実際のものとは異なる場合があります。

4. BIOS セットアップ

4.2.1 BIOSメニューバー

最初の画面には、以下のメニューがあります。

MAIN	基本的なシステム設定の変更
ADVANCED	さらに詳細なシステム設定の変更
POWER	電源管理の設定と変更
BOOT	起動デバイスの設定
EXIT	現在のメニューを終了し、設定の保存方法について変更

メニューを選択するには、左右の矢印キーを用いて、目的のメニュー項目が強調表示されるようにします。

4.2.2 リジентバー

画面の下端には、古い方式のメニューがあります。キー操作によって直接セットアッププログラムを操作する方式です。以下は、キーのリストとそれに相当するメニューの機能の一覧です。

操作キー	機能の説明
<F1> or <Alt + H>	ヘルプ画面の呼び出し(どのメニューからでも有効)
<Esc>	Exitメニューの呼び出し、または、親メニューに戻る
←または→(矢印キー)	左右のメニュー項目(カテゴリ)の選択
↑または↓(矢印キー)	上下のメニュー項目(カテゴリ)の選択
-(マイナス)	選択中の項目を1つもどす
+(プラス)、スペース	選択中の項目を1つすすめる
<Enter>	選択項目の選択肢を呼び出す
<Home> or <PgUp>	最初の項目へ
<End> or <PgDn>	最後の項目へ
<F5>	画面に表示されている項目をデフォルトにもどす
<F10>	保存して終了

4. BIOS セットアップ

General Help (ヘルプ)

「Item Specific Help」ウィンドウに加え、BIOSセットアッププログラムは、General Help画面を持っています。この画面は、どのメニューからでも <F1> または <Alt> + <H> キーで呼び出すことができます。General Help画面には、キー操作による操作方法が記されています。

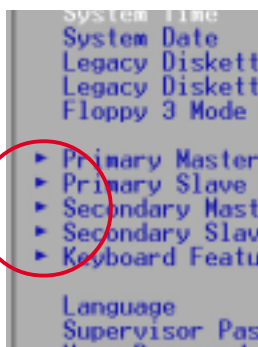
Saving Changes and Exiting the Setup Program

設定の変更と終了方法の詳細については「4.7 Exit Menu」をご覧ください。

スクロールバー

ヘルプ画面の右にスクロールバーが現れた時は、そこには画面に表示しきれない情報があることを示しています。<PgUp> および <PgDn>、または、上下の矢印キーを用いると、画面をスクロールさせてすべての情報が見れます。<Home>キーで最初のページ、<End>キーで最後のページ、<Enter> または<Esc>キーで終了です。

サブメニュー



特定の項目に右矢印(左図参照)が表示されることがあります。これは、この項目にサブメニューがある印です。サブメニューにその項目の追加項目があります。サブメニューを呼び出すには、その項目を強調表示させ<Enter>キーを押します。サブメニューが表示されます。サブメニュー内の操作方法は、メインメニューのものと同じです。<Esc> キーでメインメニューに戻ります。

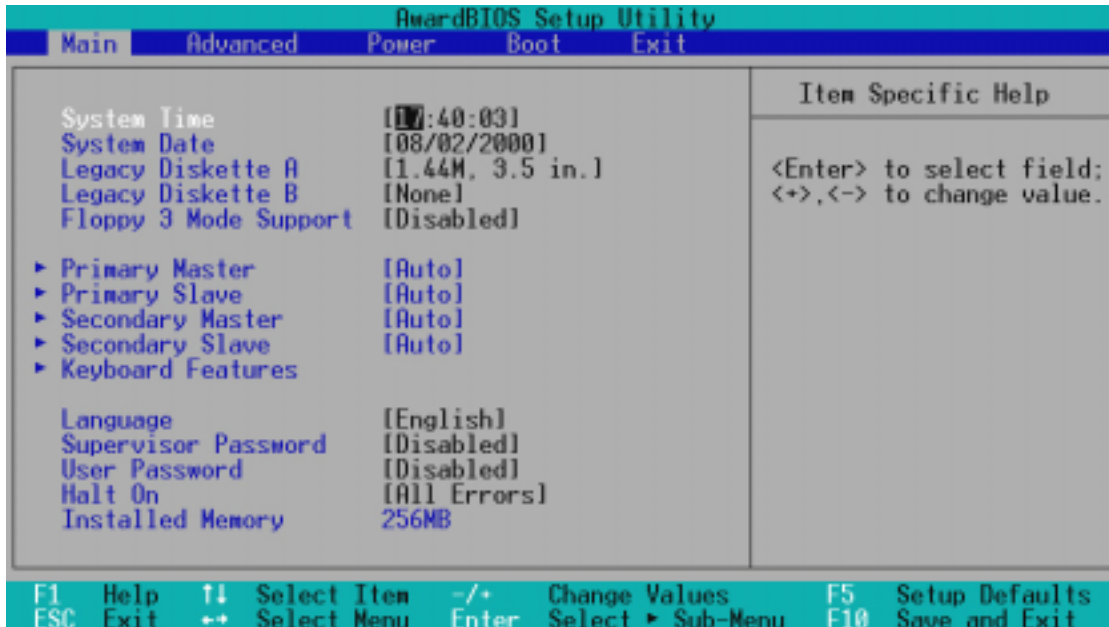
どのキーが何の機能を持つのか、いろいろなメニューやサブメニューについて、少し練習してみてください。もし、項目に間違った変更を加えてしまった時は、<F5>キーを押すと、デフォルト値に戻ります。セットアッププログラムでは、各項目が強調表示されている時、右側のウィンドウにヘルプ画面 (Item Specific Help) が表示されます。これは、その強調表示されている項目についての説明です。

注意：これ以下の項目にある角括弧内は、デフォルト値を表しています。

4. BIOS セットアップ

4.3 Mainメニュー

セットアッププログラムを起動すると以下の画面になります。



System Time [XX:XX:XX]

現在の時刻をセットします。時、分、秒の順になっています。設定できる値の範囲は、時が00から23、分が00から59、秒が00から59です。<Tab>キーまたは<Shift> + <Tab>キーで、時分秒の項目間を移動できます。

SystemDate [XX/XX/XXXX]

現在の日付をセットします。月、日、年の順で、設定できる値の範囲は、月が1から12、日が1から31、年が西暦の下2桁です。<Tab>キーまたは<Shift> + <Tab>キーで月日年の項目間を移動できます。

LegacyDisketteA [1.44M, 3.5 in.], LegacyDisketteB [None]

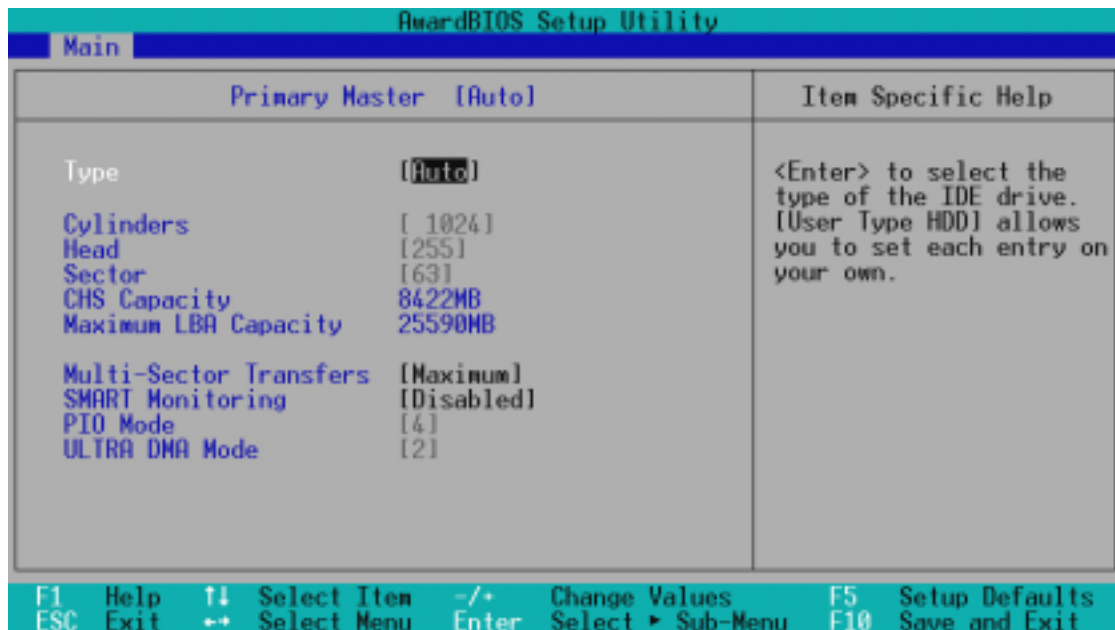
フロッピーディスクドライブの種類を設定します。設定できる値は：[None] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]です。

Floppy 3 Mode Support [Disabled]

NEC98シリーズの1.2MBフロッピーを読み書きする場合に設定します。設定出来る値は：[Disabled] [Drive A] [Drive B] [Both]です。

4. BIOS セットアップ

4.3.1 Primary & Secondary Master/Slave (IDEハードディスク)



注意：ハードディスクドライブ(HDD)の設定を行う前に、そのドライブ付属の説明書を読んで設定方法を確認してください。ドライブ自身の設定が間違っているとBIOSで認識されません。本BIOSは、[Auto]を選択することにより、HDDを自動認識する機能を持っています。

Type[Auto]

[Auto] を選択することにより、IDE HDDを自動認識します。自動認識が成功すると、サブメニューに正しい値が表示されます。もし失敗する場合は、そのHDDが古い形式のものか、または最新のものである可能性があります。BIOSをアップデートするか、手動でパラメータを入力してみてください。

注意：BIOSでIDE HDDを認識させたあと、そのディスクを読み書きするためには、FDISK等を用いてパーティションを設定し、さらにフォーマットする必要があります。また、ブートパーティションは、FDISKで*active*に設定する必要があります。

Type 項目の他のオプション：

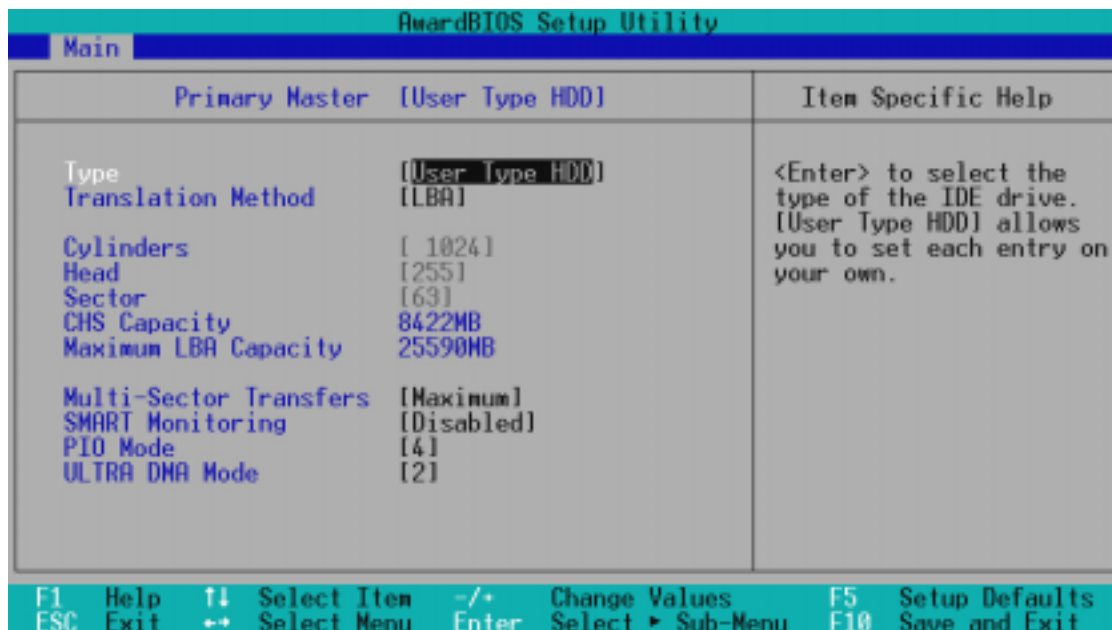
[None] - IDE デバイスを無効にする

4. BIOS セットアップ

重要: 別のコンピュータで使用していたフォーマット済みのハードディスクの場合は、間違ったパラメータで認識される可能性があります。手動でパラメータを入力するか、データが失われていいのなら、ローレベルフォーマットする必要があります。

もし以前使用していたものとパラメータが違った場合は、そのディスクを読むことはできません。[User Type HDD]で、以前用いていたパラメータに設定してください。

[User Type HDD]



The screenshot shows the 'AwardBIOS Setup Utility' interface. The 'Main' menu is selected, and the 'Primary Master [User Type HDD]' option is highlighted. The configuration table is as follows:

Item	Value	Item Specific Help
Type	[User Type HDD]	<Enter> to select the type of the IDE drive. [User Type HDD] allows you to set each entry on your own.
Translation Method	[LBA]	
Cylinders	[1024]	
Head	[255]	
Sector	[63]	
CHS Capacity	8422MB	
Maximum LBA Capacity	25590MB	
Multi-Sector Transfers	[Maximum]	
SMART Monitoring	[Disabled]	
PIO Mode	[4]	
ULTRA DMA Mode	[2]	

At the bottom, the function key legend is displayed:

F1 Help	↑ Select Item	-/+ Change Values	F5 Setup Defaults
ESC Exit	→ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

シリンダ・ヘッド・セクタの値を手動で入力します。ドライブ自身に書かれている値を参照してください。もし、ドライブをインストールしない場合や、取り外した場合は、[None] を選択してください。

Translation Method [LBA]

ハードディスクの種類を設定します。LBAモードの場合、シリンダ・ヘッド・セクタの値に関らず、28ビットアドレッシングが採用されます。504MB以上のドライブには、LBAモードが必要です。設定できる値は：[LBA] [LARGE] [Normal] [Match Partition Table] [Manual] です。

Cylinders

シリンダ値を設定します。ドライブを参照して正しい値を入力してください。注：この項目を変更するには、Type 項目が [User Type HDD] に、Translation Method 項目が [Manual] に設定されている必要があります。

4. BIOS セットアップ

Head

ヘッド値を設定します。ドライブを参照して正しい値を入力してください。
注：この項目を変更するには、Type 項目が [User Type HDD] に、Translation Method 項目が [Manual] に設定されている必要があります。

Sector

セクタ値を設定します。ドライブを参照して正しい値を入力してください。
注：この項目を変更するには、Type 項目が [User Type HDD] に、Translation Method 項目が [Manual] に設定されている必要があります。

CHS Capacity

この項目は、設定したドライブ情報をもとに、BIOSが自動で計算した最大CHS数が表示されます。

Maximum LBA Capacity

この項目は、設定したドライブ情報をもとに、BIOSが自動で計算した最大LBA数が表示されます。

Multi-Sector Transfers [Maximum]

この項目は、ドライブがサポートする最大のブロックあたりのセクタ数が自動でセットされます。これを手動で設定することもできます。自動で設定された値がドライブが最も性能を発揮する値とは限らないことに注意してください。ハードディスク付属の資料を参考にして最適な値を設定してください。設定できる値は： [Disabled] [2 Sectors] [4 Sectors] [8 Sectors] [16 Sectors] [32 Sectors] [Maximum] です。

注：この項目を変更するには、Type が、[User Type HDD] に設定されている必要があります。

SMART Monitoring [Disabled]

S.M.A.R.T. の有効/無効を設定します。これは、Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technologyの略で、内蔵HDD診断プログラムです。リソース節約のため、通常は無効になっています。設定できる値は： [Disabled] [Enabled] です。

PIO Mode [4]

PIOモードのIDEデバイスの設定を行います。値が大きいほど高速です。設定できる値は： [0] [1] [2] [3] [4] です。

Ultra DMA Mode [Disabled]

Ultra DMAは、IDE完全互換のデータ転送高速化技術です。[Disabled] に設定するとUltra DMA機能を無効にします。設定できる値は： [0] [1] [2] [3] [4] [Disabled] です。

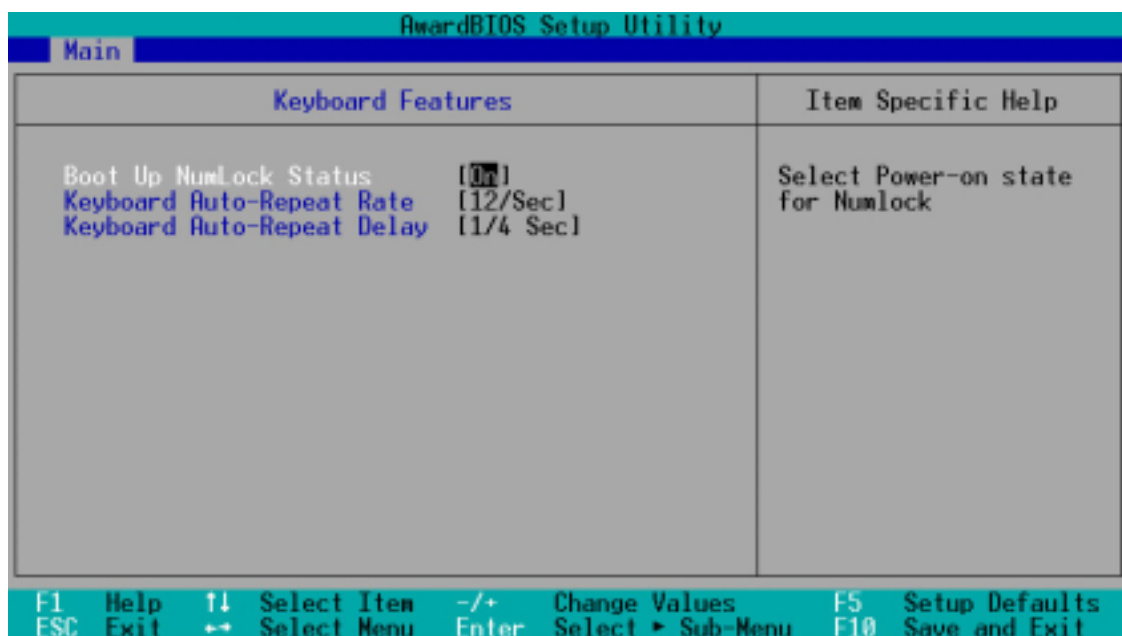
注：この項目を変更するには、Type 項目が、[User Type HDD] に設定されている必要があります。

4. BIOS セットアップ

「Type:」項目の他のオプションは、
[CD-ROM] - IDE CD-ROM ドライブ
[LS-120] - LS-120(スーパーディスク)互換ドライブ
[ZIP-100] - ZIP-100 互換ドライブ
[MO] - IDE光磁気ドライブ(MO)
[Other ATAPI Device] - その他のIDEドライブ

このサブメニューで設定を行ったら、<Esc>キーでメインメニューにもどります。メインメニューにもどったら、ハードディスクの項目が設定した値に変わっていることを確認してください。

4.3.2 Keyboard Features (キーボード)



Boot Up NumLock Status [On]

起動時のNumLockの状態を設定します。設定できる値は：[Off] [On]です。

Keyboard Auto-Repeat Rate [12/Sec]

キーを押し続けた時、文字が連続で入力されるスピードを設定します。設定できる値は：[6/Sec][8/Sec][10/Sec][12/Sec][15/Sec][20/Sec][24/Sec][30/Sec]です。

Keyboard Auto-Repeat Delay [1/4 Sec]

上記のオートリピートが開始されるまでの時間です。設定できる値は：[1/4 Sec][1/2 Sec][3/4 Sec][1 Sec]です。

4. BIOS セットアップ

Language [English]

BIOSメッセージの言語を選択します。Englishのみ有効です。

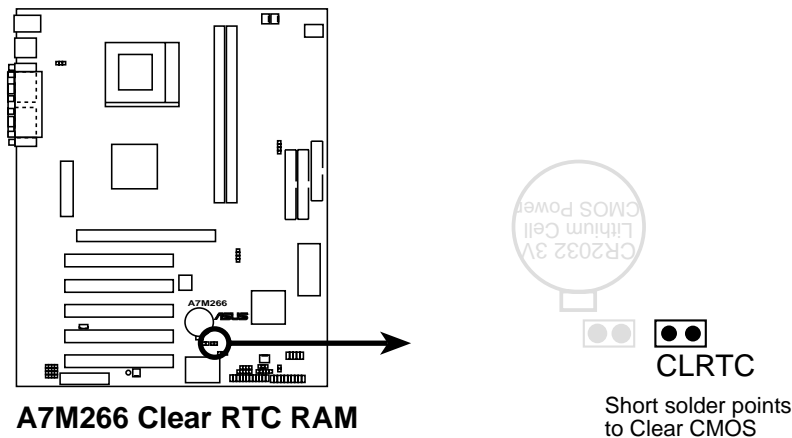
Supervisor Password [Disabled] / User Password [Disabled]
パスワードの設定です。該当する項目を強調表示させ、<Enter>を押します。パスワードを入力して<Enter>を押します。8文字の英字が有効です。記号や他の文字は無視されます。確認のためもう一度入力して<Enter>を押します。これで、パスワードが *Enabled* に設定されます。このパスワードでBIOSのすべてが設定できます。パスワードをクリアするには、該当する項目を強調表示させ、<Enter>を押します。上記の入力欄が表示されますので、<Enter>を押します。これで、パスワードが *Disabled* に設定されます。

パスワードに関する注意

BIOSセットアップのメインメニューでパスワード入力が必要です。パスワードを入力するとセットアップメニューが有効になります。大文字小文字の区別は、ありません。Supervisor password(管理者用)と User password(ユーザー用)の2種類があります。パスワードを設定しないと、誰もがBIOSセットアップを行うことができます。有効にすると、BIOSセットアップを行い設定を変更するのに、パスワードが必要になります。

パスワードを忘れたら？

パスワードを忘れたら、CMOSクリア を行ってください。CMOSメモリには、バッテリーバックアップされたパスワードが記録されています。CMOSをクリアするには：(1) コンセントから電源プラグを抜く(2) 下図の場所をショートさせる(3) 電源を入れる(4) <Delete>キーを押しながら起動させ、BIOSを再設定する。



Halt On [All Errors]

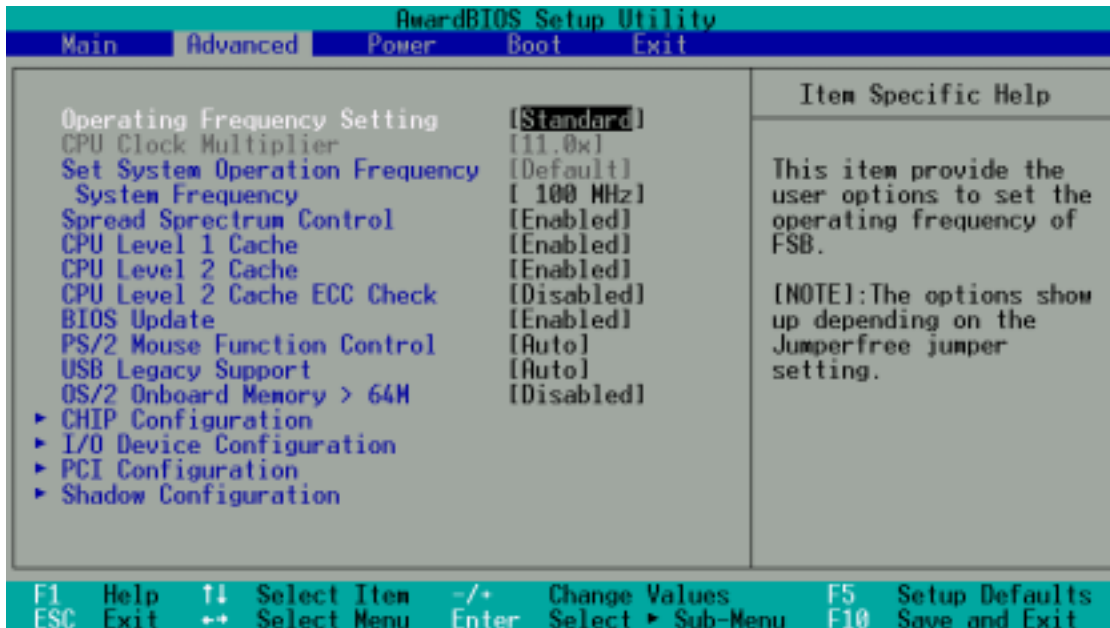
どのような種類のエラーでシステムを停止させるかを設定します。設定できる値は： [All Errors] [No Error] [All but Keyboard] [All but Disk] [All but Disk/Keyboard]です。

Installed Memory [XXX MB]

システムが起動時に検出したメインメモリ容量を表示します。値を変更する必要はありません。

4. BIOS セットアップ

4.4 Advanced (詳細)メニュー



Operating Frequency Setting [Standard]

JumperFreeモードでは、CPUの外部クロックを設定するだけです。CPU Frequency 項目を変更したい場合は、[User Define]を選択します。[Standard] を選択した場合は、CPU外部クロックは100MHzに固定されます。設定できる値は：[Standard] [User Define]です。

CPU Clock Multiplier

(「Operating Frequency Setting」が[User Define]の場合)
CPUの内部クロックと外部クロックの周波数比(倍率)を表示します。

Set System Operation Frequency

(「Operating Frequency Setting」が[User Define]の場合)
外部クロック周波数を1MHzごとに設定可能です。

System Frequency [100MHz]

クロック発生器がシステムとPCIバスに供給する周波数を設定します。バス(外部)クロックを規定倍するとCPU(内部)クロックとなります。CPUの規定クロックより高い値にするとシステムがハングアップしたりクラッシュする可能性があります。「システムハングアップ」参照。

Spread Spectrum Control [Enabled]

デフォルトのままにしておいてください。この機能は、電磁妨害(EMI)を8dB~10dB低減します。

4. BIOS セットアップ

CPU Level 1 Cache, CPU Level 2 Cache [Enabled]

CPU内蔵の1次および2次キャッシュを無効にすることができます。通常は [Enabled] ですが、[Disabled]にするとキャッシュが無効になります。設定できる値は： [Disabled] [Enabled]です。

CPU Level 2 Cache ECC Check [Disabled]

CPU 2次キャッシュのECCエラー訂正機能を設定します。設定できる値は： [Disabled] [Enabled]です。

BIOS Update [Enabled]

この機能は、BIOSに組み込まれたアップデートプログラムとして、CPUへそれが要求するデータを供給します。デフォルト値は [Enabled]で、BIOSは起動時にすべてのプロセッサ上へアップデート値をロードします。設定できる値は： [Disabled] [Enabled]です。

PS/2 Mouse Function Control [Auto]

デフォルトは[Auto]で、起動時にPS/2マウスを検出します。検出されると、IRQ12が割り当てられます。PS/2マウスを使わない時のみIRQ12を拡張カードのために使用できます。[Enabled]にするとPS/2の検出如何に関らずIRQ12が使用されます。設定できる値は： [Enabled] [Auto]です。

USB Legacy Support [Auto]

本マザーボードは、USB機器をサポートします。デフォルトの[Auto]の場合、起動時にUSB機器を自動検出します。検出されるとUSBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないと無効になります。[Disabled]に設定すると、USB機器の有無にかかわらずレガシーモードは無効になります。設定できる値は： [Disabled] [Enabled] [Auto]です。

OS/2 Onboard Memory > 64M [Disabled]

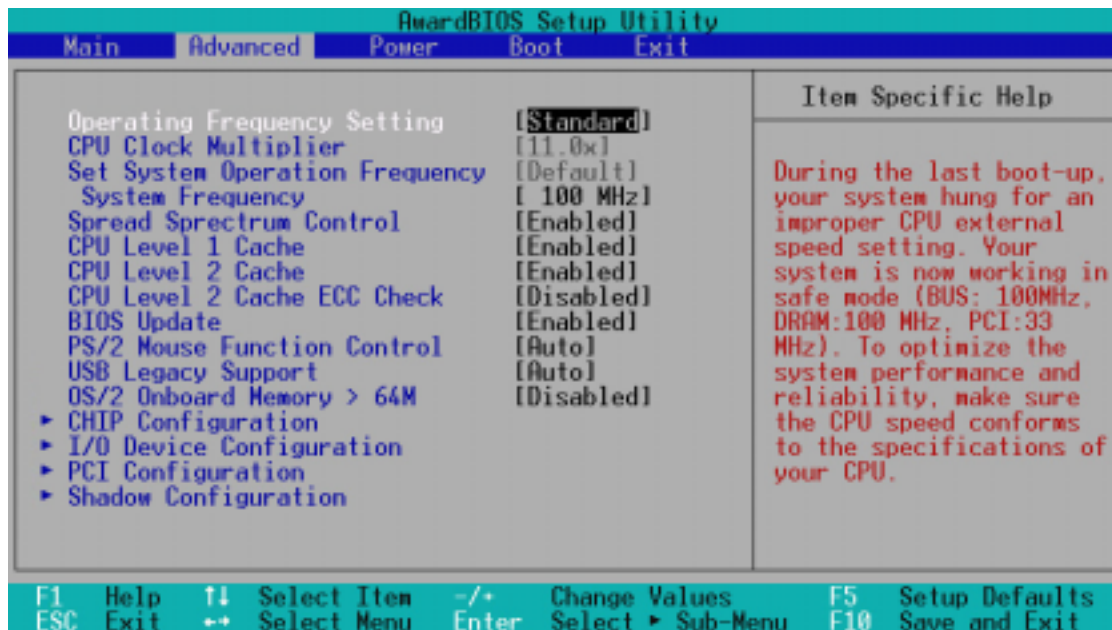
OS/2で、64MB以上のメモリを搭載している場合は [Enabled]に、それ以外は [Disabled]にします。設定できる値は： [Disabled] [Enabled]です。

4. BIOS セットアップ

JumperFreeについて

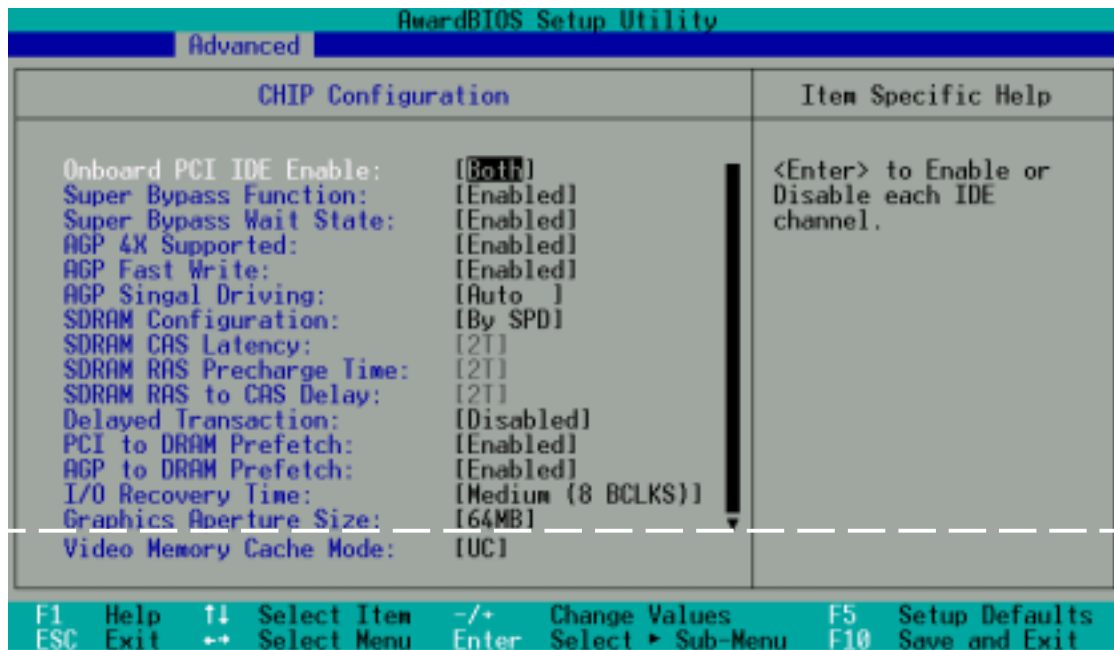
システムハングアップ

もし、不適切なクロック設定をして、システムが動かなくなってしまった場合は、速やかに電源を切り再起動させてください。システムは、「DRAM-to-CPU frequency ratio」が 3:3、外部クロック100MHzで起動し、BIOSセットアップ画面が自動で呼び出されます。



4. BIOS セットアップ

4.4.1 Chip Configuration (チップセット)



(スクロールさせるとさらに項目があります。)

Onboard PCI IDE Enable [Both]

オンボードの IDEコントローラを設定します。プライマリ・セカンダリについて個別に設定できます。設定できる値は： [Both] [Primary] [Secondary] [Disabled]です。

Super Bypass Function [Enabled]

[Enabled]に設定すると、AMD-761チップセットは、メモリからCPUへの特定のパイプ処理を内部でバイパスし、最適な性能を得ることができます。設定できる値は： [Enabled] [Disabled]です。

Super Bypass Wait State [Enabled]

設定できる値は： [Enabled] [Disabled]です。

AGP 4X Supported [Enabled]

設定できる値は： [Enabled] [Disabled]です。

AGP Fast Write [Enabled]

AGPの「Fast-Write」機能を設定します。AGP4Xモードに対してパフォーマンスが約30%向上します。設定できる値は： [Enabled] [Disabled]です。

AGP Single Driving [Enabled]

設定できる値は： [Enabled] [Disabled]です。

4. BIOS セットアップ

AGP Drive Strength P Ctrl [C]
(「AGP 4X Drive Strength」が[Manual]の場合)
設定できる値は : [0] [1] [2]...[F]です。

AGP Drive Strenght N Ctrl [5]
(「AGP 4X Drive Strength」が[Manual]の場合)
設定できる値は : [0] [1] [2]...[F]です。

AGP Data Strobe P Ctrl [F]
(「AGP 4X Drive Strength」が[Manual]の場合)
設定できる値は : [0] [1] [2]...[F]です。

AGP Data Strobe N Ctrl [F]
(「AGP 4X Drive Strength」が[Manual]の場合)
設定できる値は : [0] [1] [2]...[F]です。

SDRAM Configuration [By SPD]
実装されているメモリの最適なタイミングが設定されます。デフォルトは [By SPD]で、SPD (Serial Presence Detect)内の値により、以下の3項目の値が決まります。メモリモジュール内のEEPROMに書き込まれているメモリの種類・サイズや最適な速度・電圧・バンク値などの臨界値に従って最適なタイミングが設定されます。設定できる値は : [User Define] [7ns (143MHz)] [8ns(125MHz)] [By SPD]です。

SDRAM CAS Latency
CAS遅延(CL) : メモリにアドレスを与えてから、実際に読み取りを行えるまでの時間です。注: この項目は、SDRAM Configurationが [User Define]の場合のみ設定できます。

SDRAM RAS Precharge Time
行プリチャージ時間 (t_{AC}) : 行アドレスを与えてから、再び行アドレスを入力できるようになるまでの時間です。注: この項目は、SDRAM Configurationが [User Define]の場合のみ設定できます。

SDRAM RAS to CAS Delay
RAS-CAS遅延時間 (t_{RCD}) : 行アドレスを与えてから列アドレスを与えるまでの時間です。注: この項目は、SDRAM Configurationが [User Define]の場合のみ設定できます。

Delayed Transaction [Disabled]
デフォルトのままにしておいてください。[Enabled]に設定すると、8ビットISAデバイス(これは、PCI遅延処理なしに50~60 PCIクロックを消費します)にアクセスした時に、PCIバスを開放します。ISAバスのために [Disabled]を選ぶと、PCI 2.1互換性がなくなります。設定できる値は : [Disabled] [Enabled]です。

4. BIOS セットアップ

PCI to DRAM Prefetch [Enabled]

設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。

AGP to DRAM Prefetch [Enabled]

設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。

I/O Recovery Time [Medium (8 BCLKS)]

「back-to-back I/O」のための時間を設定します。[Disable]に設定すると、システムのパフォーマンスは向上しますが、安定性のためにデフォルトのままにしておいてください。設定できる値は : [Disable] [Medium (8 BCLKS)] [Normal 13 BCLKS)] です。

Graphics Aperture Size [64MB]

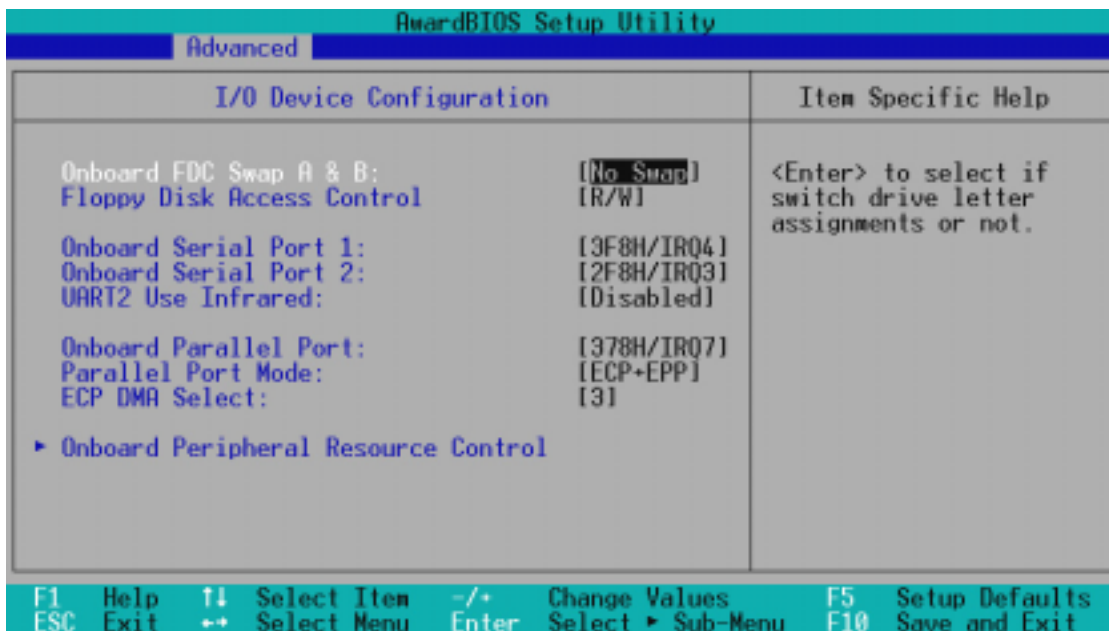
AGPがテキストチャッピングのためにメインメモリを使用する容量です。設定できる値は : [4MB] [8MB] [16MB] [32MB] [64MB] [128MB] [256MB] です。

Video Memory Cache Mode [UC]

USWC (Uncacheable, Speculative Write Combining) は、ビデオメモリのための新しいキャッシュ技術です。描画データをキャッシュすることにより表示速度を飛躍的に向上させます。この機能に対応していないビデオカードを用いる場合は、UC (UnCacheable)にセットしないとコンピュータが起動しなくなる可能性があります。設定できる値は : [UC] [USWC] です。

4. BIOS セットアップ

4.4.2 I/O Device Configuration (周辺機器)



Onboard FDC Swap A & B [No Swap]

フロッピードライブのドライブレターを入れ替えることができます。設定できる値は： [No Swap] [Swap AB]です。

Floppy Disk Access Control [R/W]

[Read Only]にするとFDドライブにライトプロテクトがかかり、書き込み禁止となります。デフォルト値は[R/W]で読み書き可能です。設定できる値は： [R/W] [Read Only]です。

Onboard Serial Port 1 [3F8H/IRQ4]

Onboard Serial Port 2 [2F8H/IRQ3]

オンボードのシリアルポートのアドレスを設定します。シリアルポートの1と2は、それぞれ別の値にしなければいけません。設定できる値は： [3F8H/IRQ4] [2F8H/IRQ3] [3E8H/IRQ4] [2E8H/IRQ10] [Disabled]です。

UART2 Use Infrared [Disabled]

[Enabled]にすると、標準赤外線機能が有効となり、セカンドシリアルUARTによりオンボードの赤外線コネクタが有効となります。オンボードのCOM2コネクタを使用している場合は、[Enabled]にしても赤外線機能は動作しません。設定できる値は： [Disabled] [Enabled]です。「3.8 外部機器用コネクタ」の「IrDA-Compliant Infrared Module Connector」参照。

4. BIOS セットアップ

Onboard Parallel Port [378H/IRQ7]

オンボードの平行コネクタのアドレスを設定します。[Disabled]にすると、以下のParallel Port Mode とECP DMA Select 設定も無効になります。設定できる値は：[Disabled] [378H/IRQ7] [278H/IRQ5]です。

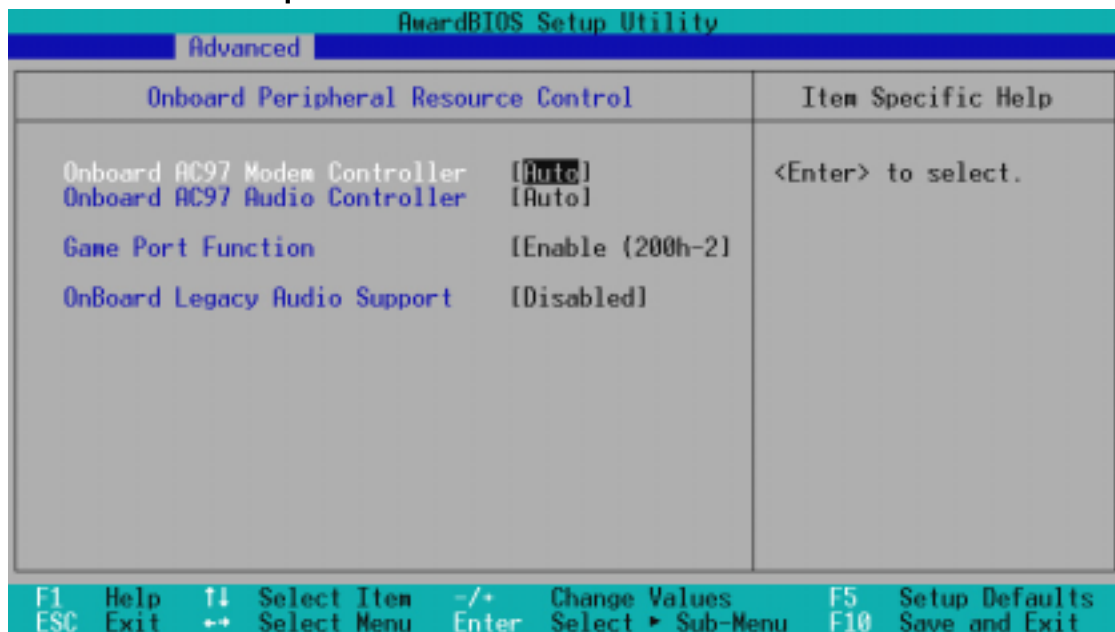
Parallel Port Mode [ECP+EPP]

平行ポートの動作モードを設定します。[Normal]は一方向の通常速度の通信、[EPP]は双方向通信、[ECP] は双方向でDMAモード、[ECP+EPP]は双方向で通常速度に設定します。設定できる値は：[Normal] [EPP] [ECP] [ECP+EPP]です。

ECP DMA Select [3]

ECP モードで、平行ポートが使用するDMAチャンネルを指定します。上記のParallel Port Modeで[ECP]または[ECP+EPP]を選択した場合のみ有効です。設定できる値は：[1] [3]です。

Onboard Peripheral Resource Control



Onboard AC97 Modem Controller [Auto]

Onboard AC97 Audio Controller [Auto]

[Auto]にするとモデムまたはサウンド機器を自動検出します。それらが検出されるとオンボードのモデム/サウンドコントローラが有効になり、検出されないと無効になります。オンボードのコントローラを使用しない場合は、[Disabled]にします。設定できる値は：[Disabled] [Auto]です。

4. BIOS セットアップ

Game Port Function [Disabled]

オンボードのゲームポートを使用する場合は、Enableに設定します。設定できる値は：[Disabled] [Enable (200h-207h)]です。

Onboard Legacy Audio Support [Disabled]

オンボード音源は、SoundBlaster Pro互換です。この互換機能を使う場合には、この項目を[Enable]にします。追加のサウンドカードを使う場合には、[Disabled]にしないといけません。注：以下の項目を表示するには、[Enable]にする必要があります。

Game Port Function	[Enable (200h-207h)]
OnBoard Legacy Audio Support	[Enabled]
Sound Blaster Emulation	[Enabled]
Sound Blaster I/O Base Address	[220h-22Fh]
Sound Blaster IRQ	[IRQ5]
Sound Blaster DMA	[DMA 1]
MPU 401	[Enabled]
MPU 401 I/O Base Address	[330h-333h]
FM Enable (388h-38Bh)	[Enabled]

Sound Blaster Emulation [Disabled]

Sound Blaster互換のエミュレーション機能を用いる場合は、[Enabled]にします。

Sound Blaster I/O Base Address [220h-22Fh]

Sound Blaster IRQ [IRQ5]

Sound Blaster DMA [DMA 1]

Sound Blasterの I/Oアドレス、IRQおよび DMAチャンネルを設定します。

MPU 401 [Enabled]

オンボードの MIDI 機能を使用する場合、[Enable]に設定します。

MPU 401 I/O Base Address [300h-303h]

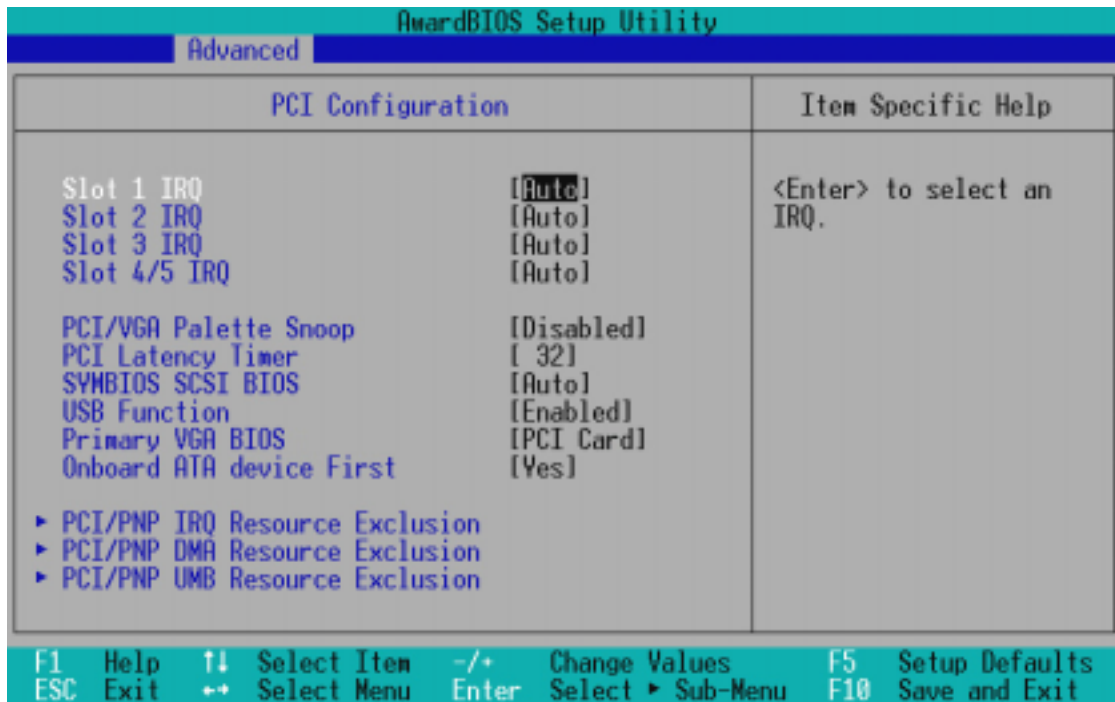
オンボードMIDI の I/Oアドレスを設定します。

FMEable (388h-38Bh) [Disabled]

オンボードの FM機能の有効・無効を切り替えます。

4. BIOS セットアップ

4.4.3 PCI Configuration



Slot 1, Slot 2, Slot 3, Slot 4/5 IRQ [Auto]

IRQをどのようにPCIスロットに割り付けるか設定します。デフォルトは [Auto] で、IRQは自動で割り付けられます。設定できる値は： [Auto] [NA] [3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15] です。

PCI/VGA Palette Snoop [Disabled]

MPEGビデオカードのような非標準のVGAカードでは、適切に色を再現できません。この項目を [Enabled] にすると、この問題を解決できます。それ以外は [Disabled] にします。設定できる値は： [Disabled] [Enabled] です。

PCI Latency Timer [32]

性能と安定性のため、デフォルトのままにしておいてください。

SYMBIOS SCSI BIOS [Auto]

[Auto] にするとBIOSが、どのようなSymbios SCSIコントローラが搭載されているかを検出します。検出されるとSymbios BIOSが有効になります。検出されないと無効になります。

[Disabled] にするとオンボードのSymbios SCSI BIOSは無効になり、拡張カード上のBIOSが使用されます。この場合、BIOSが搭載されていないSymbios SCSIカードは機能しません。設定できる値は： [Auto] [Disabled] です。

4. BIOS セットアップ

USB Function [Enabled]

本マザーボードに搭載されているUSB機能を使う場合には [Enabled] に設定します。設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。

Primary VGA BIOS [PCI Card]

PCI と AGP ビデオカードを 2 枚差した場合、どちらをプライマリに設定するかを決めます。デフォルトは [[PCI Card] で PCI 優先、[AGP Card] にすると AGP がプライマリコントローラとなります。設定できる値は : [PCI Card] [AGP Card] です。

Onboard ATA device First [Yes]

[Yes] に設定すると、オンボードの ATA/100 デバイスから起動できるようになります。設定できる値は : [No] [Yes] です。

PCI/PNP IRQ Resource Exclusion

PCI/PNP IRQ Resource Exclusion		Item Specific Help
IRQ 3	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	Select [Yes] if this IRQ is required by a legacy add-on card and you are not using ICU; otherwise, select [No/ICU].
IRQ 4	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 5	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 7	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 9	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 10	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 11	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 12	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 14	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	
IRQ 15	Reserved for Legacy Device [No/ICU]	

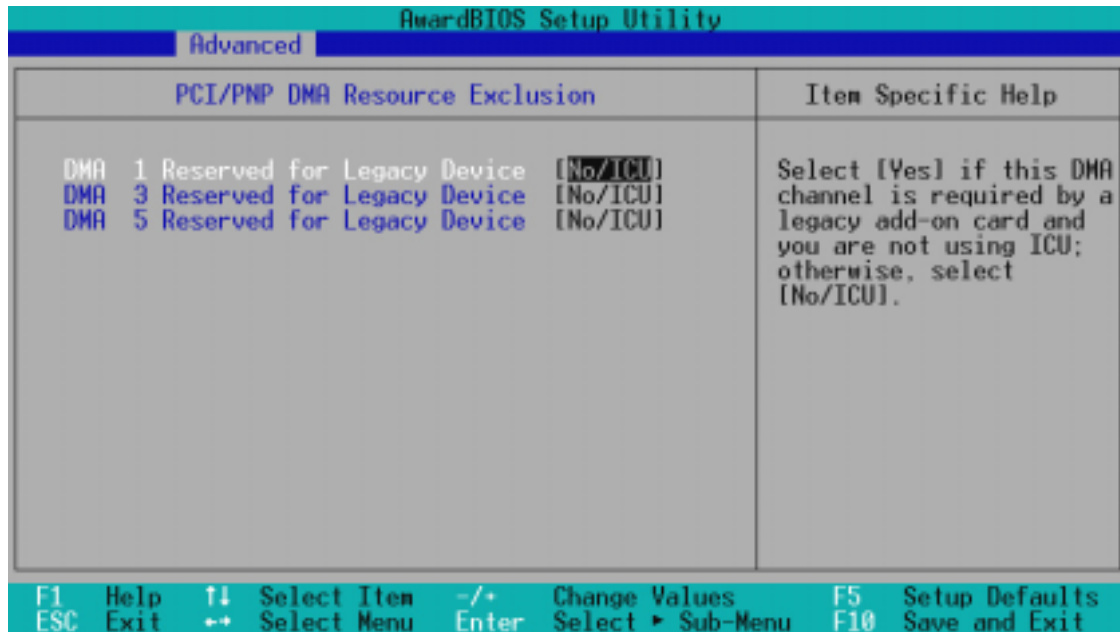
F1 Help ↑ Select Item +/- Change Values F5 Setup Defaults
ESC Exit ↓ Select Menu Enter Select Sub-Menu F10 Save and Exit

IRQ XX Reserved for Legacy Device [No/ICU]

表示されている IRQ の値がオンボードのレガシー(非PnP)ISAデバイスで使用されることを示します。デフォルトでは、IRQ は使用しない、または ICU (ISA Configuration Utility) が自動で割り付ける、となっています。設定できる値は : [No/ICU] [Yes] です。

4. BIOS セットアップ

PCI/PNP DMA Resource Exclusion

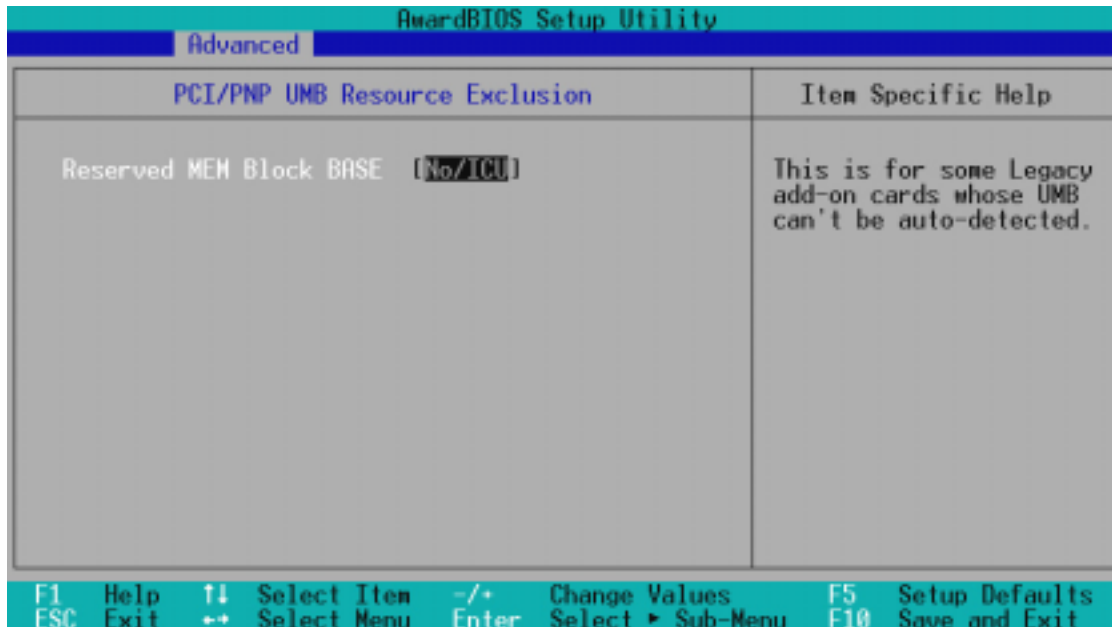


DMA x Reserved for Legacy Device [No/ICU]

表示されているDMAチャンネルの値がオンボードのレガシー(非PnP)ISAデバイスで使用されることを示します。デフォルトでは、DMAは使用しない、またはICU(ISA Configuration Utility)が自動で割り付ける、となっています。設定できる値は：[No/ICU] [Yes]です。

4. BIOS セットアップ

PCI/PNP UMB Resource Exclusion



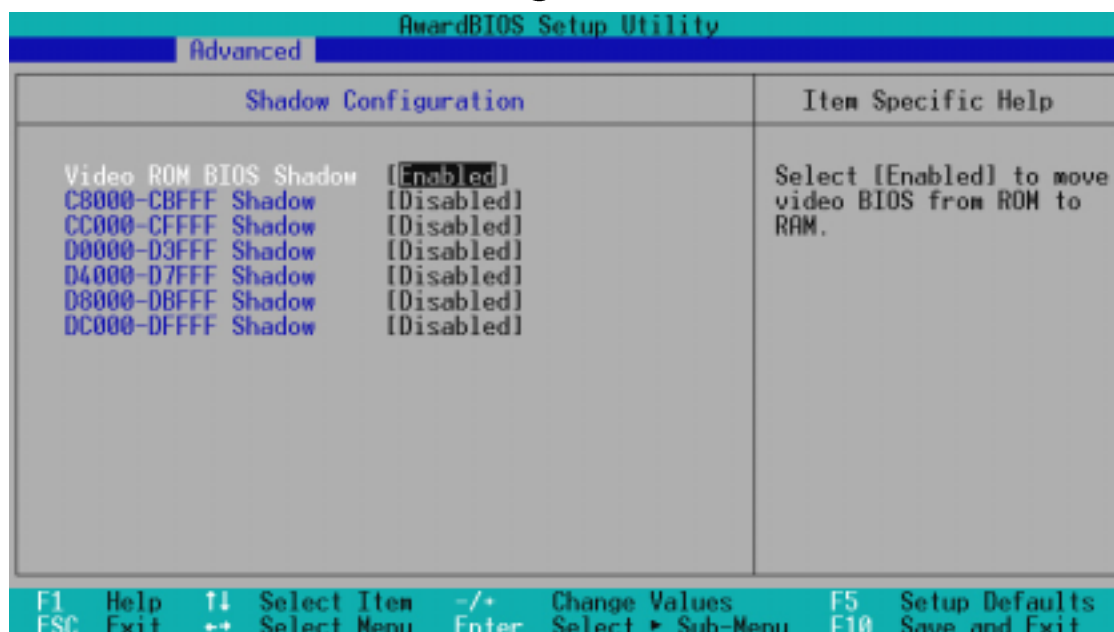
Reserved MEM Block BASE [No/ICU]

メモリセグメントのC800からDFFFを使用しているオンボードレガシーISAデバイスのベースアドレスとブロックサイズを設定します。もし、そのようなデバイスを使用していて、ICUによる自動割り付けを用いないのなら、6個のオプションからベースアドレスを選択してください。

「Reserved MEM Block SIZE」が表示されるので、ブロックサイズを選択します。上記に該当するレガシーISAデバイスが2個以上ある時は、ブロックサイズを8K, 16K, 32K, または64Kと増やすことができます。ICUの自動割り付けを用いる場合は、「Reserved MEM Block BASE」をデフォルトの [No/ICU] のままにしておきます。設定できる値は：[No/ICU] [C800] [CC00] [D000] [D400] [D800] [DC00]です。

4. BIOS セットアップ

4.4.4 Shadow Configuration



Video ROM BIOS Shadow [Enabled]

ビデオBIOSの所在をROMからRAMへ移します。RAMは、ROMよりアクセススピードが速いので、パフォーマンスを向上させることができます。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

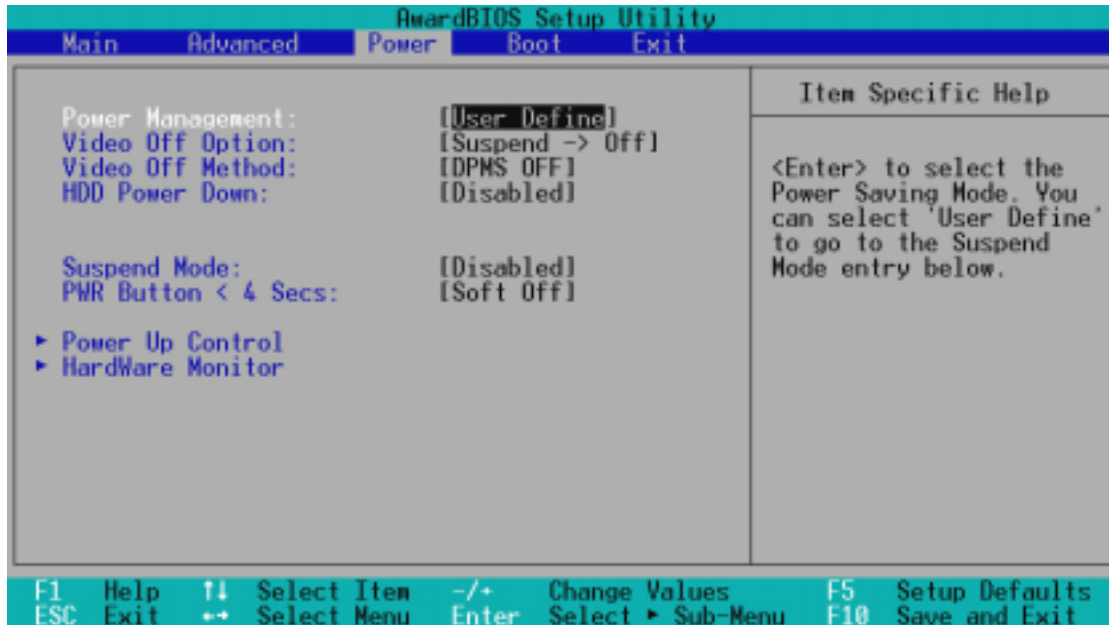
C8000-DFFFF Shadow [Disabled]

拡張カードのROMをRAMに置き換える(シャドウする)かどうかを設定します。ROMが搭載された拡張カードをインストールする場合、それがどのアドレスを用いるかを知る必要があります。RAMに置き換えると640Kから1024Kまでのメモリの使用量を節約することができます。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

4. BIOS セットアップ

4.5 Power (電源管理) メニュー

Powerメニューは、省電力のための設定です。一定時間使われていないディスプレイやハードディスクの電源を自動で切ります。



Power Management [User Define]

以下の省電力設定を使う場合には有効にします。[Disabled]にすると他の項目の設定に関らず省電力機能は働きません。[User Define]で独自の設定ができます。[Max Saving]にすると最大に節電できます。Suspend Mode欄は、最大に節電できるようにあらかじめ設定されています。

この項目は節電機能の総合的な設定です。[Max Saving]では少しの時間で節電モードに入ります。[Min Saving]は、[Max Saving]と同じ内容で節電しますが、節電モードに入るまでの時間が長くなります。[Disabled]は節電機能を無効にします。[User Define]は、各項目を独自に設定できます。設定できる値は：[User Define] [Disabled] [Min Saving] [Max Saving]です。

重要： サスペンド中のシステムの時計を維持するためにAdvanced Power Management (APM) がインストールされている必要があります。DOS環境では、CONFIG.SYS に DEVICE=C:\¥DOS¥POWER.EXE の行が必要です。Windows 3.x と Windows 95では、WindowsのAPM機能をインストールします。Windows 98以降では、APMは自動でインストールされます。コントロールパネルの「電源の管理」アイコンをクリックし「詳細」タブを選択して設定します。

4. BIOS セットアップ

Video Off Option [Suspend -> Off]

ビデオ信号をオフにするかしないかを設定します。設定できる値は：[Always On] [Suspend -> Off]です。

Video Off Method [DPMS OFF]

ビデオ信号オフの内容を設定します。DPMS (Display Power Management System : ディスプレイ電源管理システム)は、DPMS対応のディスプレイをBIOSがコントロールします。[Blank Screen]は単に黒い画面にします。(節電機能に対応していないモニタに使用します。スクリーンセーバーに[Blank Screen]項目がなくなります。) [V/H SYNC+Blank]は、黒い画面にして垂直水平同期信号もオフにします。設定できる値は：[Blank Screen] [V/H SYNC+Blank] [DPMS Standby] [DPMS Suspend] [DPMS OFF] [DPMS Reduce ON]です。

HDD Power Down [Disabled]

この項目の時間だけ、IDEハードディスクがアクセスされなかった場合、ハードディスクの回転を停止させます。SCSIハードディスクには影響ありません。設定できる値は：[Disabled] [1 Min] [2 Min] [3 Min]...[15 Min]です。

Suspend Mode [Disabled]

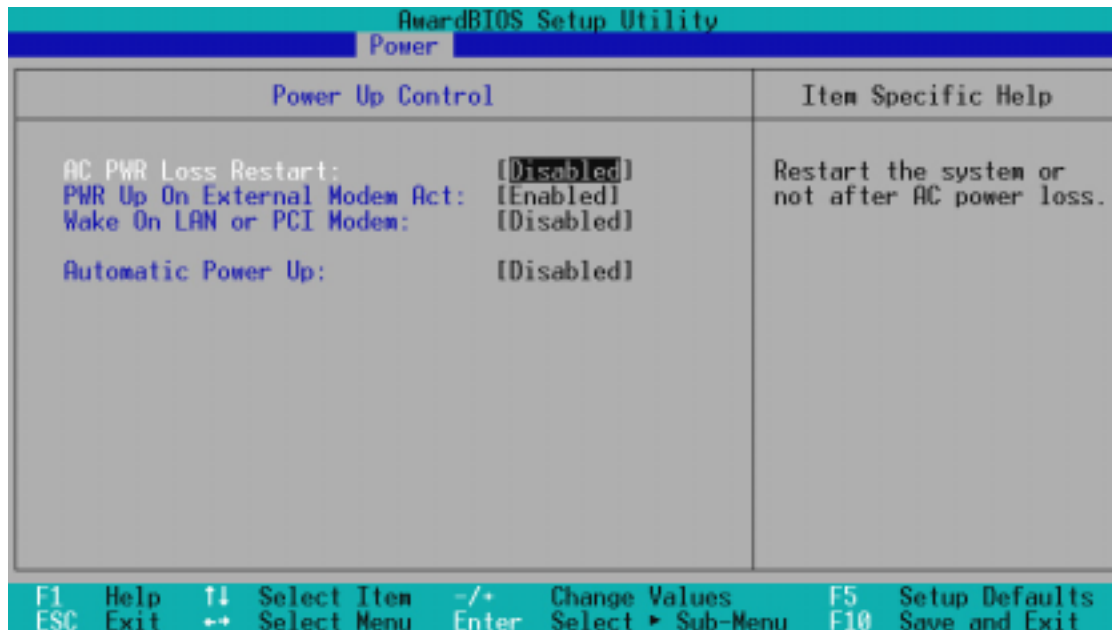
サスペンドモードに移行するまでの時間を設定します。設定できる値は：[Disabled] [30 Sec] [1 Min]... [40 Min]です。

PWR Button < 4 Secs [Soft Off]

[Soft off]に設定すると、ATX電源スイッチは、4秒間以下押された時、通常のオフボタンとして作用します。[Suspend]の場合は、4秒以下押された場合、スリープモードに移行します。どちらの場合でも、4秒以上押した場合は、電源オフになります。設定できる値は：[Soft off] [Suspend]です。

4. BIOS セットアップ

4.5.1 Power Up Control



AC PWR Loss Restart [Disabled]

AC電源が一旦切れて復旧した場合、システムをどうするかを設定します。[Disabled]の場合、オフのままです。[Enabled]の場合、必ず再起動します。[Previous State]の場合、AC電源が切れる前の状態に従います。設定できる値は：[Disabled] [Enabled] [Previous State]です。

PWR Up On External Modem Act [Enabled]

コンピュータがソフトオフの時、外付けモデム着信で起動するかどうか設定します。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

注意：コンピュータが起動を完了するまで、データ受信はできません。従って最初のコールでは接続できません。また、コンピュータがソフトオフの時、外付けモデムの電源を入れなおすと、モデムから初期化信号が入り、これによってもコンピュータが起動してしまいます。

Wake On LAN or PCI Modem [Disabled]

別のコンピュータからネットワークを通して、起動信号を送ることによって、コンピュータを起動させることが出来ます。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

重要： Wake-On-LAN対応のネットワークカードが必要で、さらに、ATX電源の+5VSBに最低720mAの容量が必要です。

4. BIOS セットアップ

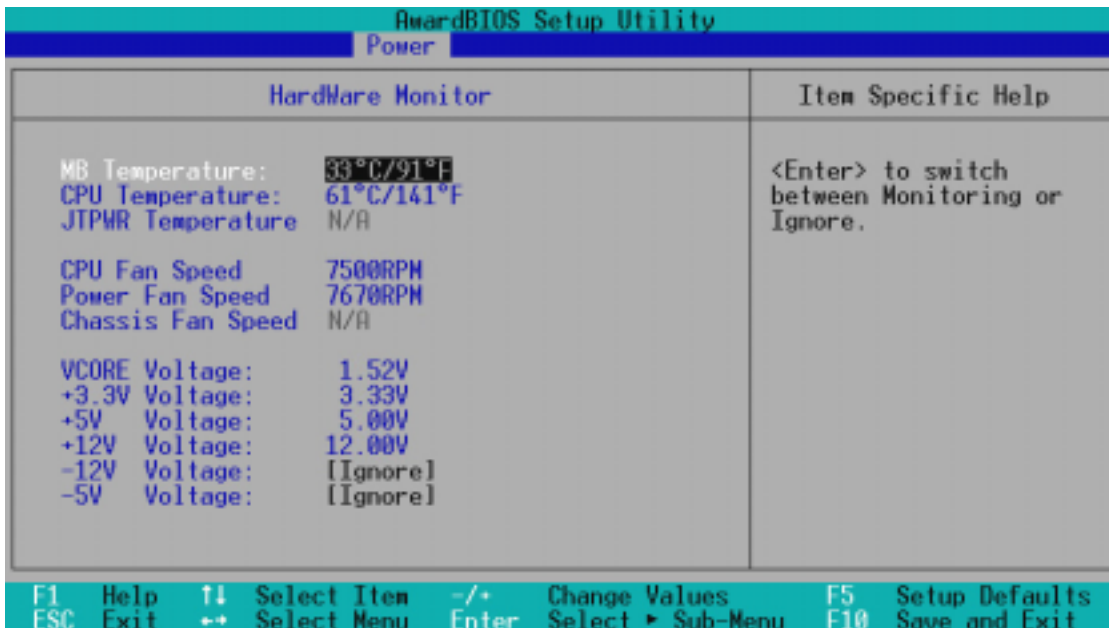
Automatic Power Up [Disabled]

コンピュータを無人状態で自動で起動します。[Everyday]で毎日の決まった時間に、[By Date]で決まった日付の決まった時間に起動できます。設定できる値は：[Disabled] [Everyday] [By Date]です。

注意：「Automatic Power Up」は、ACPIを有効にした OS (Windows 98/2000/Millennium) によってシャットダウンされた場合には、機能しません。

4. BIOS セットアップ

4.5.2 Hardware Monitor



MB Temperature [xxxC/xxxF]

CPU Temperature [xxxC/xxxF]

JTPWR Temperature [xxxC/xxxF]

マザーボード(MB)、CPU、電源(JTPWR)の温度を検出します。無視する必要がある場合のみ、[Ignore]にしてください。

CPU Fan Speed [xxxxRPM]

Power Fan Speed [xxxxRPM]

Chassis Fan Speed [xxxxRPM]

CPU・電源・ケースのファンの毎分あたりの回転数をRPMで表示します。ファンが接続されているかどうかは自動で検出されます。無視する必要がある場合のみ、[Ignore]にしてください。

V CORE Voltage, +3.3V Voltage, +5V Voltage,

+12V Voltage [xx.xxV]

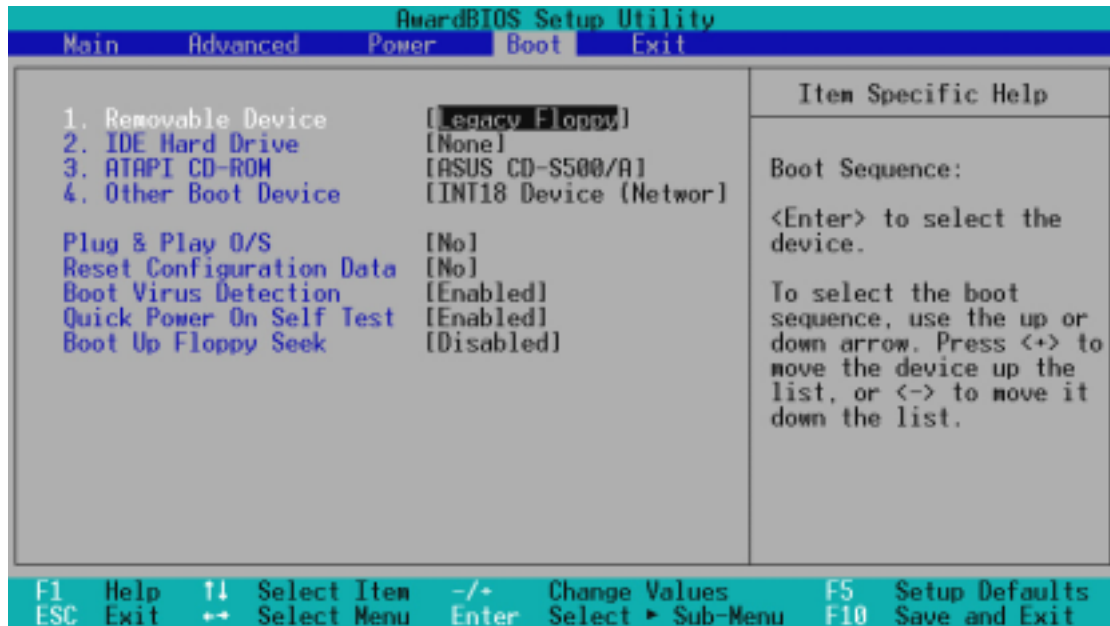
-12V Voltage, -5V Voltage [Ignore]

マザーボードのレギュレータが発生する各電圧をモニタします。無視する必要がある場合のみ、[Ignore]にしてください。

注意：各項目において上下限を越えた値になった場合は「Hardware Monitor found an error. Enter Power setup menu for details」というエラーメッセージが表示されます。<F1>キーで続行、キーでBIOSセットアップ画面になります。

4. BIOS セットアップ

4.6 Boot (起動) メニュー



Boot Sequence

4種類の起動デバイスを選択できます。上下矢印キーで選択します。<+>または<Space>で1つ上へ、<->で1つ下に移動できます。上下の移動は起動デバイスの優先順位を変更するということです。項目としては、Removable Devices、IDE Hard Drive、ATAPI CD-ROM、Other Boot Deviceがあります。

Removable Device [Legacy Floppy]

リムーバブルデバイスの選択です。設定できる値は：[Disabled] [Legacy Floppy] [LS120] [ZIP-100] [ATAPI MO] です。

IDE Hard Drive

ブートさせるIDEハードディスクを選択します。[Enter]キーを押すと接続されているドライブ名が表示されます。

ATAPI CD-ROM

ブートさせたいATAPI CD-ROMドライブを選択します。[Enter]キーを押すと接続されているATAPI CD-ROMドライブ名が表示されます。

4. BIOS セットアップ

Other Boot Device Select [INT18 Device (Network)]

その他のデバイスです。設定できる値は：[Disabled] [SCSI Boot Device] [INT18 Device (Network)] [LANDesk (R) Service Agent] です。

Plug & Play O/S [No]

プラグアンドプレイ(PnP)対応OSがBIOSに代わってPCIバスを設定できるようにすることができます。[Yes]に設定すると、OSがIRQを割り当てるようになります。PnP非対応OSや、OSによるIRQの再割り当てを行わない場合は、[No]に設定します。設定できる値は：[No] [Yes] です。

Reset Configuration Data [No]

ESCD(拡張システム設定データ)は、PnP非対応ISAデバイスの情報を持っています。また、最後に起動した時のシステムの設定情報も保持しています。POST(起動時の自己診断)中にこのデータを破棄させたい場合にのみ、[Yes]を選択してください。設定できる値は：[No] [Yes]です。

Boot Virus Detection [Enabled]

ブートセクタに感染するウィルスの検出を行います。ウィルスが検出されるとシステムは停止し、警告メッセージが表示されます。そのまま続行するか、ウィルス除去を行うか決めます。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

Quick Power On Self Test [Enabled]

[Enabled]にすると、メモリチェック等の起動時の自己診断(POST)を簡単にします。通常4回行うところを1回にします。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

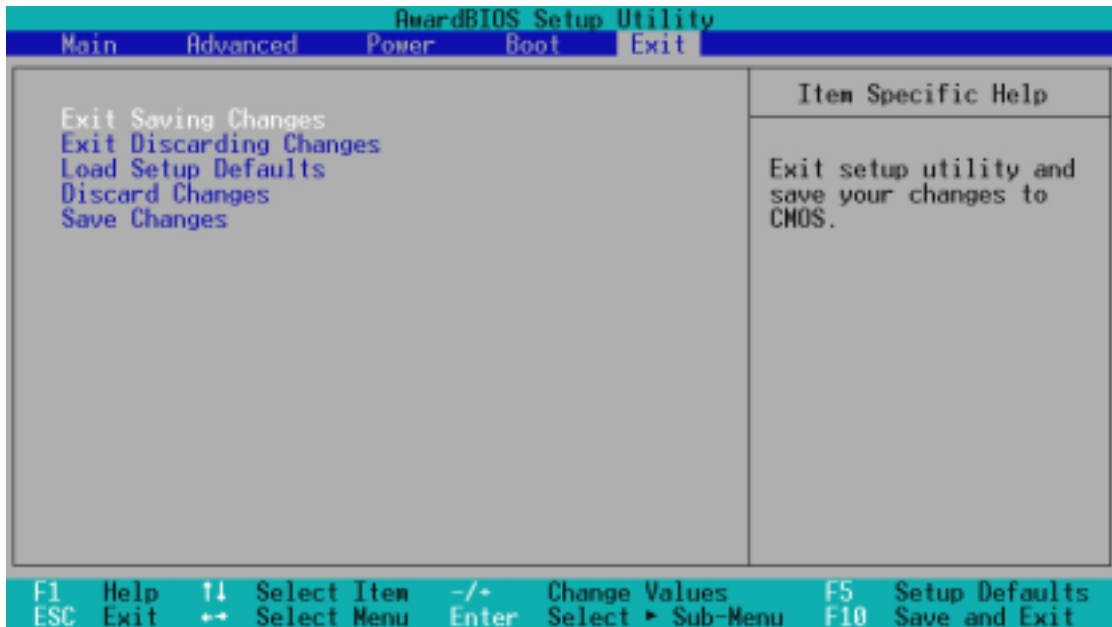
Boot Up Floppy Seek [Disabled]

[Enabled]にすると、フロッピーディスクが、40トラックか80トラックかを検出します。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

4. BIOS セットアップ

4.7 Exit (終了) メニュー

BIOSの各項目の設定を変更したら、それを保存して終了する必要があります。メニューバーでExit を選ぶと以下のメニューが表示されます。



注意：<Esc>では、このメニューから抜けることはできません。いずれかの項目を選択するか<F10>で終了させます。

Exit Saving Changes

各項目で設定した値をCMOSメモリに書き込み終了する場合は、このメニューを選択します。このメモリはバッテリーバックアップされているので、コンピュータの電源を切ってもその内容は保存されています。確認メッセージが表示されますので、[Yes]を選んで保存終了します。

注意：設定変更を保存せずにBIOSセットアップを終了しようとした場合も確認メッセージが出ますので、保存する場合は、<Enter>を押して設定変更を保存します。

Exit Discarding Changes

設定変更を保存せずに終了する場合は、このメニューを選んでください。システムの日付時刻、パスワードの変更以外の場合、確認メッセージが表示されます。

4. BIOS セットアップ

Load Setup Defaults

これは、各設定項目について、そのデフォルト(既定)値を読み込むものです。<F5>キーを押した場合も同様です。確認メッセージが出ますので、デフォルト値にもどしたいのなら、[Yes]を選択します。このあと、Exit Saving Changes で終了したり、改めて変更を加えて、保存終了したりできます。

Discard Changes

今回の設定変更を破棄し、変更前の値にもどします。確認メッセージが出ますので、前回の変更値にもどすなら、[Yes]を選択します。

Save Changes

終了せずに、変更値の保存のみを行います。続けて、BIOSセットアップの作業を行うことができます。確認メッセージが出ますので、ここで設定を保存するのなら、[Yes]を選択します。

5. ソフトウェア セットアップ

5.1 OSのインストール

本マザーボードのすべての機能を利用するには、最新のOSを使用する必要があります。Windows 98/2000/Millenniumは、すべてのバージョンで問題ありませんが、Windows 95は OSR 2.0以降、Windows NT 4.0は、サービスパック(SP)3.0以降が必要です。

5.2 Windowsスタート

マザーボードをセットアップしたあと最初にWindowsを起動した時に、Windowsはプラグアンドプレイデバイスを検出します。「新しいハードウェアの追加」ウィザードに従って必要なドライバをインストールします。「再起動しますか?」に対して「いいえ」を選択して、次章からの手順に従いセットアップを行います。

注意：マザーボードの設定やオプション、拡張カードには様々な種類があります。次章からの説明は一般的な例で、お使いのシステムと一致するとは限りません。

5.3 A7シリーズマザーボード サポートCD

注意：サポートCDの内容は、予告なしに変更される場合があります。サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにCDを挿入するだけです。インストールメニューが自動起動します。メニューが起動しない場合は、E:¥ASSETUP.EXE (CD-ROMドライブがE:の場合) を実行します。

5.3.1 Installation Menu (インストールメニュー)



5. ソフトウェア セットアップ

- ・ VIA 4 in 1 drivers: バスマスタ PCI IDEドライバ、AGP VxDドライバ、VIAチップセット機能レジストリ情報、IRQルーティングミニポートドライバをインストールします。
- ・ AMD Miniport Driver: Windows 9xでのAGPの不具合の修正に必要なミニポートドライバです。
- ・ USB patch file for AMD K7: USB機器には、Windows 98 Second Editionで動作しないものがあります。Windows 98 SEでUSB機器を用いるための修正プログラムです。
- ・ Install ASUS PC Probe Vx.xx: コンピュータのファン回転数・CPU温度・電圧を監視するユーティリティです。
- ・ ASUS Update Vx.xx: (現時点では、本マザーボードには対応していません。)
- ・ PC-Cillin 98 Vx.xx: PC-cillinアンチウィルスソフトです。詳しくはオンラインヘルプを参照してください。
- ・ ADOBE Acrobat Reader Vx.xx: PDF形式のマニュアルを閲覧するために必要な Adobe Acrobat Readerです。ASUSのサイトには、最新版や他言語で書かれたマニュアルが、PDF形式で掲載されています。
- ・ Install Cyberlink Video and Audio Applications: Cyberlink PowerPlayer SE、PowerDVD試用版、Cyberlink VideoLive Mailをインストールします。
- ・ Intel LDCM Administrator Setup: ネットワーク上のコンピュータを監視するプログラムです。administrator(親機)用コンピュータには、このAdministratorと次のClientの両方をインストールします。
- ・ Intel LDCM Client Setup: 監視プログラムのClient(子機)用プログラムです。監視機能を用いる場合、インストールします。

(以下の項目を表示するには、メインメカユー右下にある右矢印をクリックしてください。)

- ・ ASUS BIOS Flash Utility for LDCM: Intel LDCM Administrator機に接続されたClient機のBIOSをリモート操作でアップデートするユーティリティです。
- ・ Show Motherboard Information: マザーボードの情報、製品名、BIOSバージョン、搭載CPUの種類を見ることができます。
- ・ Browse Support CD: このCDの内容を表示します。
- ・ ReadMe: このCDに含まれるファイルの一覧とサポート情報です。
- ・ Exit: 終了。

(メインメカユーにもどるには、サザメカユー右下にある左矢印をクリックしてください。)

追加内容：AFLASHホルダにBIOS書き込み用ユーティリティがあります。

5. ソフトウェア セットアップ

5.4 プログラムのアンインストール(削除)

Windowsの「アプリケーションの追加と削除」を用います。ソフトウェアが独自のアンインストールプログラムを持たない場合、これを利用します。



5. ソフトウェア セットアップ

(MEMO)

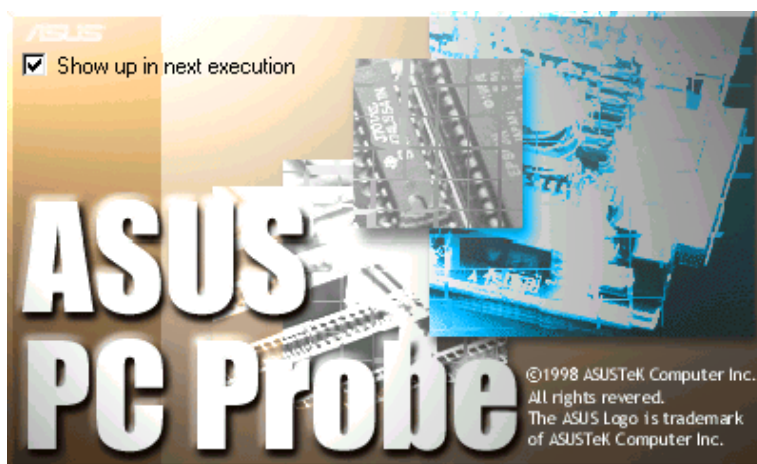
6. ソフトウェア リファレンス

6.1 ASUS PC Probe


「ASUS PC Probe」は、コンピュータの重要な部品の電圧・温度およびファンの回転数をモニタできる便利なユーティリティです。さらに「DMI Explorer」を用いて、ハードディスクの空き量、メモリの使用状況、CPUの種類・内部/外部クロックを知ることができます。

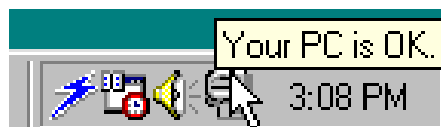
6.1.1 ASUS PC Probe スタート

「ASUS PC Probe」を起動すると、オープニングビデオが始まります。これは次回の起動時に表示しないようにもできます。表示しないようにするには「Show up in next execution」のチェックを外します。



「ASUS PC Probe」を起動するには、Windowsの「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「Probe Vx.xx」と選択します。

「PC Probe」のアイコン  がタスクバーに表示され「ASUS PC Probe」が動作していることを示します。このアイコンにマウスポインタを重ねると、コンピュータの状態を表示します。



6. ソフトウェア リファレンス

6.1.2 ASUS PC Probeを使う

Monitoring

Monitor Summary

モニタ中のアイテムの概要を表示します。



Temperature Monitor

コンピュータ各所の温度です
(対応CPUのみ)

警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させます。)



Fan Monitor

各ファンの回転数を表示します。

警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させます。)



Voltage Monitor

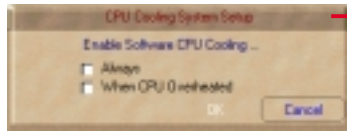
コンピュータ各所の電圧です。



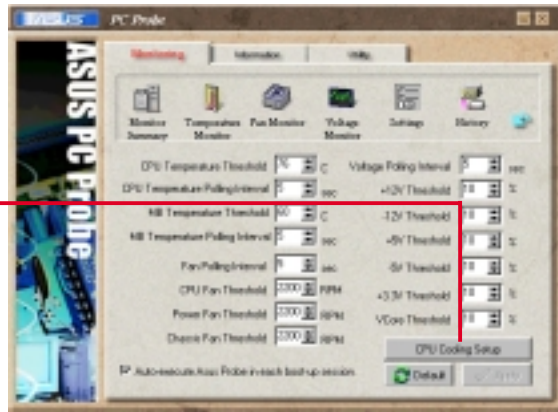
6. ソフトウェア リファレンス

Settings

各上下限値を数値で設定できます。また、モニタリングの周期・表示の更新間隔を変更できます。

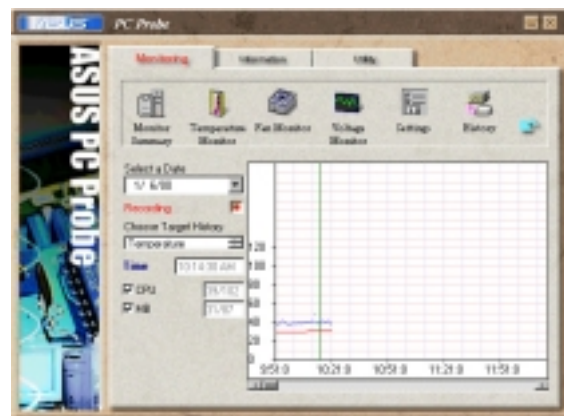


CPU Cooling System Setup
ソフトウェアによるCPU冷却の設定です。「CPU Overheated」が選択されると、CPU温度が上限を越えた場合、この機能が稼働を始めます。



History

現在の状況を保存します。参考値として保存しておく場合などに使います。



Fan Control

「Smart」ファンコントロールの設定です。CPU温度の上限値設定に従って、ファンの回転数を自動で調節します。



Information

Hard Drives

ハードディスクの使用状況・空き容量・ファイルアロケーションテーブル(FAT)の状態・ファイルシステムの種類などを表示します。



6. ソフトウェア リファレンス

Memory

メモリの使用状況、仮想メモリの状態などを表示します。



Device Summary

接続されているデバイスの概要を表示します。



DMI Explorer

CPUの種類・内部/外部クロック周波数、メモリ容量など、コンピュータに関する情報を表示します。



Utility

「ASUS Probe」から別のプログラムを起動する場合に用います。「Execute Program」をクリックします。

注：現在、この機能は無効になっています。



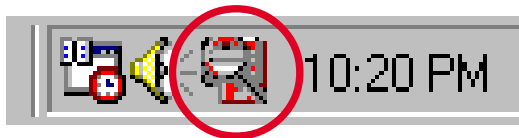
6. ソフトウェア リファレンス

6.1.3 ASUS PC Probe タスクバーアイコン

「PC Probe」アイコンを右クリックするとメニューが現れ、ウィンドウを開いたり、プログラムとモニタリングを終了させたり、再開させたりできます。



「ASUS PC Probe」がコンピュータに異常を発見した場合は、アイコンの一部が赤く変わり、ビープ音が鳴り、モニタ画面が開きます。



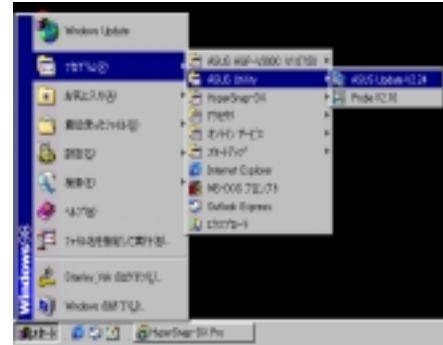
6. ソフトウェア リファレンス

6.2 ASUS Update

「ASUS Update」は、マザーボードのBIOSとドライバを自動更新するユーティリティです。これを利用するためには、インターネットに接続している必要があります。

1. ASUS LiveUpdate スタート

Windowsの「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「ASUS LiveUpdate」で起動します。



2. アップデート方法を選択します。



3. 「updating/downloading」を選択した場合、インターネットからファイルをダウンロードします。ダウンロード先のサイトを選択します。適当なURLを選ぶか「Auto Select」で自動選択します。



「Update from a file」は、ファイルからアップデートします。アップデートファイルがある場所を指定してください。




6. ソフトウェア リファレンス


6.3 YAMAHA XGPlayer



「XGplayer」は、マルチメディアプレイヤーです。「XGplayer」は、MIDIファイル(.mid, .rmi)、オーディオ(.wav, .mp3)、ムービー(.avi, .mpg)、音楽CDを1つのプログラムで再生できます。MIDIの場合、アレンジしたり、E-mailにファイルを添付したりできます。WEB上の音楽再生や配信に対しても強かにサポートします。

6.3.1 YAMAHA XGPlayerを使う

「S-YXG50 SoftSynthesizer」をシステムの性能(音質とCPU負荷のバランス)に合わせて設定するには、「スタート」-「プログラム」-「YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50」-「XGPlayer」-「S-YXG50 Setup」をクリックします。または、タスクバーの「YAMAHA SXG Driver」アイコン  を右クリックして「SoftSynthesizer Setup」を選択します。

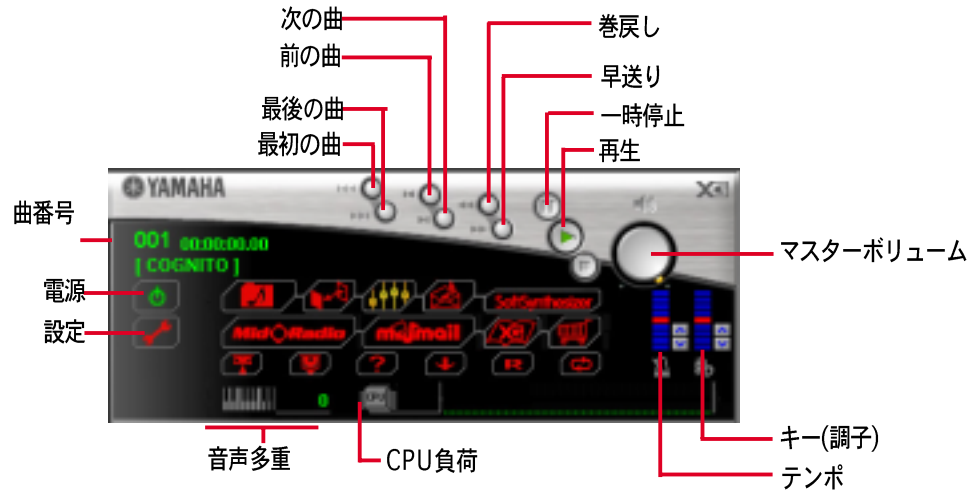
「SoftSynthesizer」設定に関するヘルプを見るには、「スタート」-「プログラム」-「YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50」-「S-YXG50 Help」をクリックします。

「YAMAHA XGplayer」は、「スタート」-「プログラム」-「YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50」-「XGPlayer」で起動します。または、「YAMAHA SXG Driver」アイコン  を右クリックして「XGplayer」を選択します。

「YAMAHA XGplayer」についての詳細を見るには、メインパネルで、ヘルプアイコン  をクリックします。または、「YAMAHA SXG Driver」アイコン  を右クリックして「SoftSynthesizer Help」を選択します。

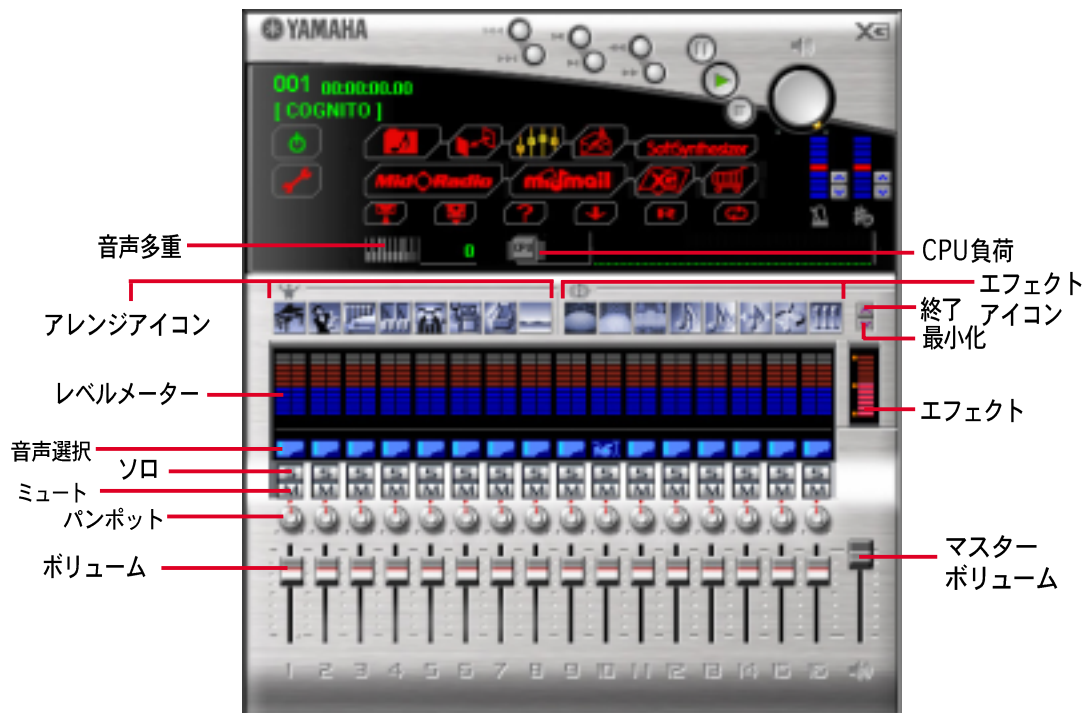
6. ソフトウェア リファレンス

6.3.2 YAMAHA XGstudio Playerコントロールパネル




6.3.3 YAMAHA XGstudioミキサーコントロールパネル

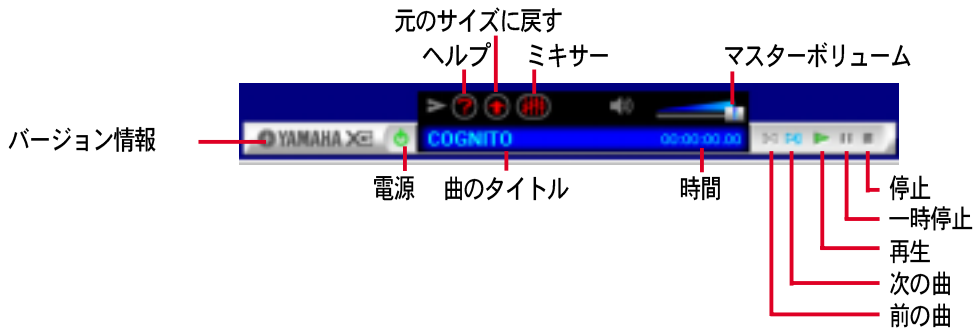
ミキサーパネルを開くにはメインパネルの  アイコンをクリックします。



6. ソフトウェア リファレンス

6.3.4 YAMAHA XGplayer最小化パネル

パネルを最小化するにはメインパネルの  アイコンをクリックします。



6.3.5 トラブルシューティング

インストールできません

- ・ 動作環境は条件を満たしていますか？メモリ容量、ハードディスク容量、OSのバージョンなどを確認してください。
- ・ ハードディスク容量が不足しているとインストールできません。不要なファイルを削除してインストールに必要な空き容量を確保してください。

起動できません

- ・ 動作環境は条件を満たしていますか？メモリ容量、ハードディスク容量、OSのバージョンなどを確認してください。
- ・ 正しい手順でインストールしましたか？一度、アンインストールして、再度インストールし直してみてください。
- ・ 「Softsynthesizer」設定画面の「ドライバ」項目がOFFになっていませんか？これをONにしてください。
- ・ SXGドライバが、他のMIDIプレーヤーなどで使用中になっていませんか？

音が鳴りません

- ・ コンピュータ、アンプ、スピーカなどのボリュームが上がっているか確認してください。
- ・ コンピュータのMIDI設定で、「YAMAHA SXG Driver」が選択されていますか？
- ・ コントロールパネルのマルチメディアのMIDI タブの設定を確認してください。
- ・ SXGドライバが、他のMIDIプレーヤーなどで使用中になっていませんか？

6. ソフトウェア リファレンス

- ・ 試用版の場合、試用期限が過ぎていると音は鳴りません。また、8ビットのサウンドカードには対応していません。

テンポが狂う、音色が変わる、マウスの動きが遅くなった

- ・ 他のアプリケーションを実行したり、フロッピーディスクやCD-ROMにアクセスしたり、CPUの負荷がかかっている状態で、この現象が起きます。
- ・ 使用しているCPUの能力が十分ではありません。SoftSynthesizer設定画面で、音源の数を減らしたり、音質を下げてください。

MIDI 対応のゲームで音が鳴らない

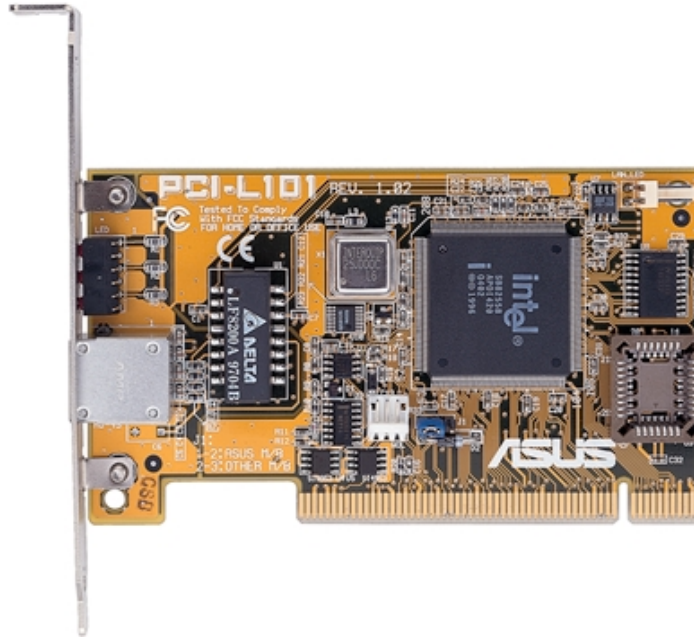
- ・ S-YXG 50 は、DOSモードやDOSプロンプトでは使用できません。
- ・ MIDI対応ゲーム自身が生成しているサウンドは、遅れて再生されます。
- ・ DirectSoundに対応していないゲームには、Wave(音声)データが遅れて再生されるものがあります。

再生中にノイズが混入する

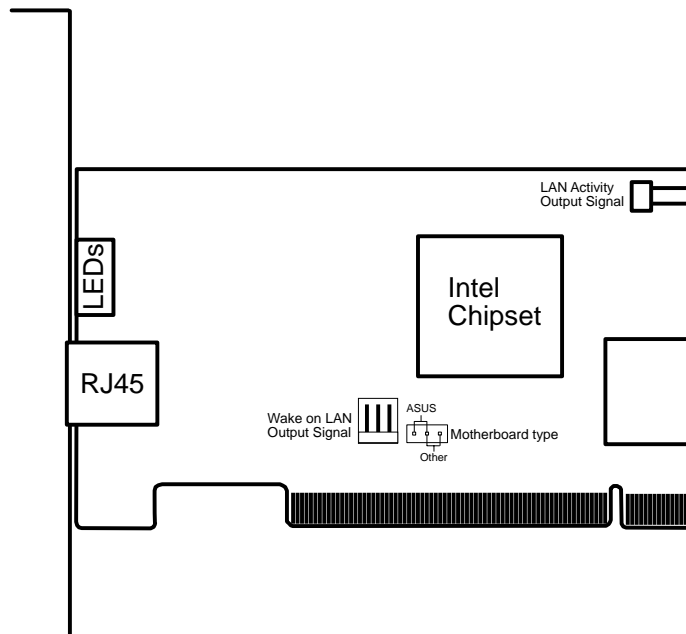
- ・ DirectX2 がインストールされたコンピュータでは、再生中にノイズが発生する場合があります。MIDIサウンド再生時に自動で、音質が11k、DirectSound が ON に設定されます。DirectX3 または 5 をインストールしてください。DirectX2を用いるならば、DirectSound 機能をOFFに設定してください。
- ・ CPU の負荷が増えると CODECのデータ転送のタイミングに誤差を生じる場合があります。この結果、ノイズが生じます。この場合は「SoftSynthesizer」設定画面を開き「OK」をクリックしてください。これで、タイミングのずれがリセットされます。

7. 付録

7.1 PCI-L101 Fast Ethernet カード



7.付録
ASUS LANカード



ASUS PCI-L101をASUS製マザーボードで使う場合には、ジャンパをデフォルトの「ASUS.」にします。他社製マザーボードの場合は「Other.」にセットします。Wake on LAN (WOL)機能を使うためには、WOL出力信号をマザーボードの WOL_CON端子に接続します。LAN_LED(LANアクセス中)信号をケースの LAN_LEDにつなぎます。LANにアクセス中に点灯します。

7. 付録

7.1.1 特徴

- ・ Intel 82558 Ethernet LAN コントローラ (10BASE-T/100BASE-TX 対応)
- ・ Wake-On-LAN 機能搭載
- ・ PCI Local Bus Rev. 2.1 仕様 バスマスタ
- ・ MAC & PHY (10/100Mbps) インターフェイス
- ・ IEEE 802.3 10BASE-T および IEEE 802.3u 100BASE-TX 対応
- ・ 1つのRJ45ジャックで10BASE-Tと100BASE-TXに対応
- ・ 32-bit Bus Master / PCI Rev. 2.1 対応
- ・ ACPI & APM 対応
- ・ PCI Bus Power Management Interface Rev. 1.0, ACPI Rev. 1.0 および Device Class Power Management Rev. 1.0
- ・ IEEE 802.3u オートネゴシエーション、転送速度 10Mbps/100Mbps
- ・ 状態表示 LED 内蔵
- ・ プラグ アンド プレイ

7.1.2 対応ドライバ/ソフトウェア

- ・ NetWare ODI ドライバ - Novell Netware 3.x, 4.x, DOS, OS/2 Client
- ・ NDIS 2.01 ドライバ - Microsoft LAN Manager, Microsoft Windows 3.11, IBM LAN Server
- ・ NDIS 3.0 ドライバ - Microsoft Windows NT, Microsoft Windows 95, Microsoft Windows 3.11

7.1.3 よくある質問(Q&A)

Q: Wake-On-LAN とは何ですか？

A: Wake-On-LAN は、起動用のフレームを送信することで、遠隔地の対応システムの電源を投入する機能です。例えば、回線の空いている時に、データを送受信する、といった用途に使えます。

Q: Wake-On-LAN で何ができますか？

A: Wake-On-LAN を使うとシステム管理に要する労力を削減し、また、柔軟なシステムを構築できます。もちろん、作業時間やコストの削減にも有利です。

Q: Wake-On-LAN を利用するには何が必要ですか？

A: Wake-On-LAN を実現するには、対応するLANカードと、対応するクライアントマシン、そして、起動フレームを送出できるソフトウェア：LDCM Rev. 3.10 などがが必要です。

7. 付録

7.2 モデムライザー

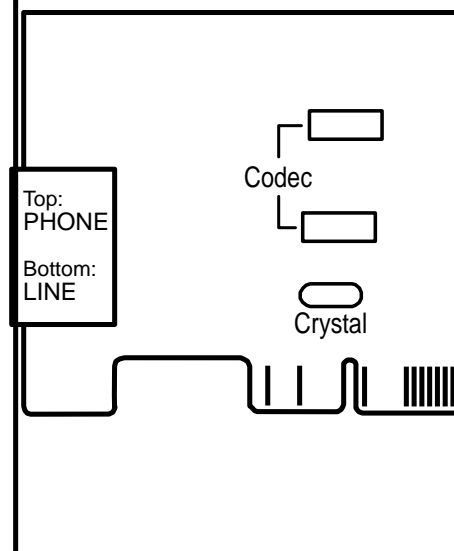
7.2.1 56Kソフトウェアモデム

モデムライザー(MR)は高速通信機器で、AMC' 97/MC' 97に準拠しています。このソフトウェアモデムを使うと遠隔地とV.90またはK56flexモードで56 Kbpsの通信が可能です。

7.2.2 プライマリ/セカンダリMR

モデムライザーには、プライマリとセカンダリの2種類あります。プライマリには、水晶発振器が搭載されていますが、セカンダリにはありません。マザーボードに音源があり、PCIオーディオチップはない場合、セカンダリのもので使用できます。それ以外はプライマリを使用してください。

プライマリMRレイアウト



7.付録
モデムライザー

7.2.3 ハードウェア セットアップ手順




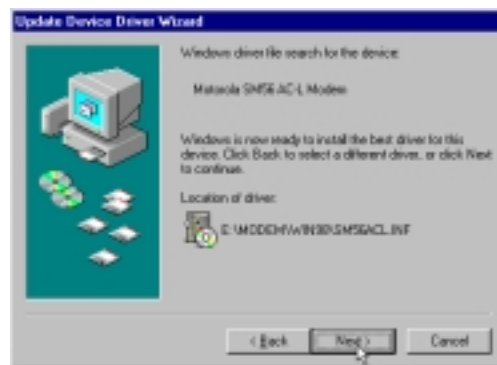
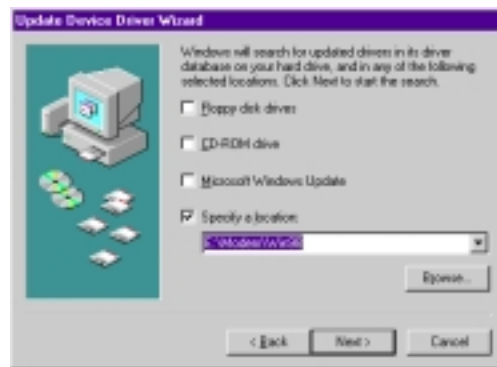
1. コンピュータの電源を切ります。
2. ケースを開けて、AMRスロットのブラケットを取り外します。
3. MRカードのコネクタとAMRスロットの向きに注意して、しっかりと挿し込みます。
4. 2.で取り外したネジでMRカードをしっかりと固定します。
5. MRカードのLINE コネクタと壁の電話コンセントを接続します。PHONE コネクタを電話機(オプション)に接続します。
6. ケースのカバーを戻します。

7. 付録

7.2.4 ソフトウェアセットアップ(Windows 98)

モデムライザーはプラグアンドプレイに対応しています。自動でMRと通信ソフトに最適な設定が行われます。以下の手順に従って、モデムのドライバをインストールしてください。

1. カードの取り付けが終わったら、コンピュータの電源を入れます。
2. Windows98が「新しいハードウェア」としてPCI Cardが見つかったというメッセージを表示します。
3. 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選び「次へ」をクリックします。
4. マザーボード付属のサポートCDをドライブに挿入し「E : ¥Modem¥Win98」(CD-ROMドライブがE:の場合)と指定します。
5. ドライバが読み込まれたら、「次へ」をクリックし「完了」をクリックします。
6. 再起動します。右下にあるモデムアイコン  をダブルクリックします。
7. 「Settings」タブを選択します。国と言語を選択して「OK」をクリックします。
8. 「コントロールパネル」を呼び出し「モデム」をダブルクリックします。「一般」タブの「Motorola SM56 AC-L Modem」をクリックします。
9. 「Diagnostic」を選択し指定されたCOMポートをクリックします。
10. 「More Info...」をクリックします。モデムが正常に動作していれば、メッセージが表示されます。



7. 付録

7.3 用語説明

1394

1394は、IEEE規定の高速シリアルバスで、12.5、25、50MBytes/秒のスピードを持つ。このシリアルバスは、バックプレーンに用いられる物理層と、機器間をケーブルで接続するための仮想バスによって定義されている。主な用途は、パーソナルコンピュータでの安価で安定した高速な統合された接続環境の構築である。1394規格は、新しい機能も提供しており、ディスクドライブ・プリンタ・スキャナやデジタルカメラといった周辺機器を電源を入れたまま抜き差しできることが可能。この新しい規格は、低速なUSBインターフェイスを補完し、より高度なSCSIインターフェイスに匹敵するものである。

AC97 (Audio Codec '97)

オーディオコーデック'97：パソコンにオーディオ機器に匹敵する音質を持たせることを可能とした新世代の技術。その仕様は、DVD、3Dマルチプレイヤーゲーム、インタラクティブミュージックといった新世代のアプリケーションに対応したコスト的にも有利なオプションにより定義されている。さらに、モデムやモバイル用のドッキングベイといった新しい拡張性についても定義されており、新技術を素早く低コストで導入できる。ソフトウェアエミュレーションを用いているが、PCI SoundBlasterの仕様に匹敵するように設計されている。

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface)

ACPIは、多くのOSをサポートするクロスプラットフォームなインターフェイスとしてデザインされている。柔軟で抽象的なハードウェアとして定義されており、ハードウェア、OS、アプリケーションを含めたコンピュータシステムの統合的電源管理方法の標準である。CD-ROM、ネットワークカード、ハードディスク、プリンタ、さらには、ビデオデッキ、TV、電話、ステレオといった家電機器をも、自動でオンオフできるシステムが実現可能。この技術を用いると、周辺機器がパソコンの電源を入れることもできる。例えば、ビデオデッキにテープを挿入すると、パソコンのスイッチが入り、それにより、TVの大画面とHiFiオーディオが動きだす。

AGP (Accelerated Graphics Port)

高性能3Dグラフィックス描写を可能とするインターフェイス。必要十分なデータ転送帯域幅とテクスチャマッピングメモリをメインメモリにおく機能を持つ。

バス名	クロック	帯域幅	データ転送速度
PCI	33MHz	33MHz	133MByte/秒
AGP 1X	66MHz	66MHz	266MByte/秒
AGP 2X	66MHz	133MHz	512MByte/秒
AGP 4X	66MHz	266MHz	1024MByte/秒

BIOS (Basic Input/Output System)

バイオス：基本入出力システムという意味。メモリ、ディスク、ビデオをいった基本構成要素間のデータ転送を制御する。BIOSは、コンピュータのROM上におかれる。そのパラメータはセットアッププログラムにより変更可能で、EEPROM書き込みツールでアップデート可能である。

Bit (Binary Digit)

ビット：コンピュータ上で使われるデータ量を表す最少単位。0または1の値を持つ。

Boot

ブート：メインメモリにOSをロードすることにより、コンピュータを起動することを言う。「起動する」「立ち上げる」とも言う。マニュアルに「ブートしなさい」とあれば、それはコンピュータの電源を投入することを意味する。「リブート」は、再起動のこと。Windows95以降では、スタート→シャットダウンに「リブート」メニューがある。

7. 付録

Bus Master IDE

バスマスタ：PIO(プログラム可能なI/Oの意味)の場合は、機械的なタイミングでデータを読み書きしている。バスマスタでは、CPUに割り込みをかけることなく、データの転送が可能である。バスマスタ対応のハードディスクとドライバを用いるには、バスマスタ対応IDEモードが必要である。

Byte (Binary Term)

バイト：8bitで1Byteである。「B」とも書く。

COM Port

COMとは、シリアルポート(これはハードウェア的な名前)用に定義された「論理的」な名前である。ポインティングデバイス(マウス)、モデム、赤外線デバイスが接続可能である。各COMポートには、別々のIRQが必要である。

Concurrent PCI

CPU、PCI、ISAの動作性能を同時に(コンカレントに)最大にする。マルチトランザクションタイミング(長期間のバースト転送よりも短期間のものを優先する)、拡張書き込み能力(データをバッファリングしてCPUを早期に開放する)、パッシブリリースメカニズム(ISAバスからのデータ待ちの間にPCIをロックせず開放する)およびPCI2.1準拠の遅延処理(複数のデータ転送を並行処理する)を含む。データ帯域の拡大、システム待ち時間の減少、ビデオ・オーディオ性能の強化、ホストベースのアプリケーション処理能力の改善がなされている。

CPU (Central Processing Unit)

中央演算処理装置：「プロセッサ」とも表記される。コンピュータの頭脳にあたる。処理に割り込みをかけ、命令を実行し、データをメモリに保存する。Socket 423=Pentium4 用、Socket 370=FCPGA Pentium III およびPPGA Celeron 用、Slot 1=Pentium II および III用、Slot A=Athlon用、Socket A = Athlon および Duron用がある。

Device Driver

デバイスドライバ：単にドライバともいう。ビデオ、サウンド、プリンタ、モデムといった機器をOSで制御できるようにする、それ専用の命令のセット。デバイスは装置の意味。

DOS (Disk Operating System)

ドス：Windowsを含むすべてのプログラムとアプリケーションソフトウェアの基礎となるもの。メモリ、CPU時間、ディスクスペース、周辺機器といったすべてのシステムリソースに関係する。このため、DOSは、コンピュータと人間の基本的なインターフェイスと言える。

DRAM (Dynamic Random Access Memory)

動的な、読み書き可能な記憶装置。EDO DRAM(ハイパーページモード)、SDRAM(同期読み出し)、RDRAM(ラムバス)などの種類がある。

Flash ROM

プログラムを格納し、特殊な方法で更新できるROM(不揮発性メモリ)。FlashROMには、BIOSプログラムが格納されハードウェアデバイスの初期化と必要なパラメータのセットアップを行う。FlashROMは書換可能なので、ユーザーがBIOSをアップデートできるわけである。

IDE (Integrated Drive Electronics)

ハードディスク等のIDEデバイスは、その装置自身に制御回路が搭載され、SCSIのような個別のアダプタカードを必要としない。UltraDMA/33の33は、33MB/秒のデータ転送速度を持つことを示している。

LPT Port (Line Printer Port)

DOSによって予約されたコンピュータの平行ポートの論理的な名前。各LPTポートには、異なるIRQとアドレスを割りつける必要がある。

7. 付録

MMX

SIMDと呼ばれる技術に基づく57個の拡張命令。P55CやペンティアムII (Klamath) 以降のx86互換プロセッサに搭載されている。MMX命令は、3Dグラフィックス、3Dサウンド、ビデオ再生などのマルチメディア、コミュニケーションアプリケーションのためにデザインされている。

OnNow

包括的、総合的なシステムと各装置の電源制御方法。コンピュータの電源がオフに見える状態でも、実際は電源が入っており、ユーザーなどの要求にすぐ応答できる。OnNowは、Windowsやドライバ、ハードウェア、アプリケーションの動作を統率し、また、ACPIと密接に関連している。

PC100

インテル主導で取り決めた100MHzバス対応のSDRAMの規格。それまでメモリは、形状のみによる規定であったが、これは初めてのタイミングに関する規定である。PC100 SDRAMは、クロックの立ち上がりタイミングを合わせて制御信号やデータを入出力する。最近では同期クロックを高くしたPC133,PC150も登場している。

PCI Bus (Peripheral Component Interconnect Local Bus)

データ転送用の32ビットバスとして定義される。今日では、拡張カードの標準となっている。

PCI Bus Master

PCIバスマスタ。CPUの助けなしにデータ転送をおこない、CPUでさえバスマスタ装置の1つとして取り扱う。PCI2.1規格では、CPUとバスマスタを同時処理できるコンカレントPCIをサポートしている。

Plug and Play BIOS

プラグ・アンド・プレイ：PnPと略記する。ISAバスでは、メモリ、I/Oアドレス、DMAチャンネル、IRQを割り当てる必要があった。しかも、これらの設定をジャンパで電気回路的に行っていた。さらに、システムの設定ファイルもこれに合わせて書き換える必要があった。ユーザーは、IRQやアドレスの衝突の解決にマニュアル片手に頭を悩ましたものである。プラグ・アンド・プレイBIOSは、この問題を軽減する。このBIOSは、各カードの状態を記憶しておく場所をもっており、ユーザーはカードのIRQなどを手動でも自動でも変更できる。

POST (Power On Self Test)

ポスト：電源投入時の自己診断。コンピュータの電源を入れた時、一番最初に実行される。POSTは、メモリ、マザーボード回路、ディスプレイ、キーボード、ディスクドライブ、および他の入出力装置をチェックする。

PS/2 Port

IBM社のマイクロ・チャンネル・アーキテクチャにもとづく。これは、16ビットまたは32ビットバスによるデータ転送機構である。ATXマザーボードでは、PS/2マウスとPS/2キーボードを使うことができる。

RDRAM (Rambus DRAM)

ラムバス社によって開発されたメモリ。最大1.6GB/秒のデータ転送速度を誇る。CMOS DRAM、メモリコントローラ、ビデオのVLSIをチップレベルで直接取り扱うことができるプロトコル型の規格である。

ROM (Read Only Memory)

読み取り専用メモリ。特定のコンピュータ部品において固定プログラム（ファームウェア）を格納するのに使われる不揮発性のメモリ。FlashROMおよびEEPROMは、プログラムの書換えが可能となっている。

7. 付録

SCSI (Small Computer System Interface)

ANSI X3T9.2で定義された高速多重 I/O インターフェイス。数多くの装置を接続できる。最初の規格では、転送速度 10 MBytes/秒だったが、今日では、160 MB/秒にまで達している。

SDRAM (Synchronous DRAM)

クロックの立ち上がりタイミングに合わせてデータの入出力を行う DRAM である。クロックに同期することによって、簡単な機構で高性能を得ることができた。SDRAM は、CPU と独立してメモリアクセスを行い、次のデータ要求のためにメモリにアクセスするまで、CPU は別の処理を行うことができる。これは、独自のクロックで動くので、システムの他の部分のクロックを上げることが出来る。ビデオカードやメインメモリ用に最適化された種類がある。

SPD for SDRAM module

Serial Presence Detect (SPD) は、SDRAM の ID 検出に似ている。DIMM モジュールに対して、その設定情報を EEPROM に保存しておく仕組みである。この固有情報検出機能には、2 MB EEPROM が用いられる。DIMM 製造メーカーによってプログラムされ、SDRAM の構成やアクセスパラメータ情報が書き込まれている。

SSE (Streaming SIMD Extensions)

3D ジオメトリパイプラインに追加された新しい仕組み。ビデオのリアルタイム編集や音声認識に用いられる。

System Disk

システムディスク：OS の基本ファイルを含み、コンピュータと OS を起動するのに用いられる。

UltraDMA

インテルによってデザインされた同期 DMA 技術である。PIIX4 チップセットに実装されている。従来の IDE データ転送では、タイミング信号の立ち上がりのエッジしか用いてなかったが、Ultra DMA では、立ち上がりと立ち下りの両方のエッジを用いる。PIO4 に比べて 2 倍の転送速度になる計算である。Ultra ATA/66 と書く。

Ultra DMA/66 および UltraDMA/100 は、Ultra DMA/33 の拡張である。Ultra DMA/66 は 66.6 Mbytes/秒、Ultra DMA/100 は 100 Mbytes/秒のデータ転送速度を持つ。

USB (Universal Serial Bus)

4 芯のケーブルに最大 127 台の機器が接続できるインターフェイス。キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、プリンタ、モデム、ディスプレイなどのデータを 1 種類の信号で共有できる、トークン方式のインターフェイスである。他の機器が稼働中でもケーブルの抜き差しが出来る。同じケーブルで同期、非同期に対応しており、最大転送速度は、12 Mビット/秒である。USB2.0 では、スピードが倍に上がり、これは、1394 規格に匹敵する。

Wake-On-LAN

ウェイク・アップ・オン・ラン：コンピュータが、ソフトオフ、サスペンド、スリープ中に、ネットワークを通して、それ用のパケットを受け取ることによって、自動で起動する仕掛け。

ASUS®で快適モバイル

S8300/S8200シリーズ

Ultra Slim and Light Notebook PC

- ・ 13.3インチまたは12.1インチTFTカラー
- ・ CPU : 600MHz~850MHz+
- ・ メモリ : 64MB~192MB
- ・ 外部AiBoxモジュールベイ
- ・ モデム/LAN内蔵



L8400シリーズ

Compact Professional Notebook PC

- ・ 14.1インチTFTカラー
- ・ CPU : 500MHz~850MHz+
- ・ メモリ : 64MB~256MB
- ・ 2X AGP 3D 8MB VRAM
- ・ 100MHz FSB
- ・ モデム/LAN内蔵



M8300/8200シリーズ

Thin & Light Convertible Notebook PC

- ・ 13.3インチまたは12.1インチTFTカラー
- ・ CPU : 500MHz~650MHz+
- ・ メモリ : 64MB~192MB
- ・ モデム/LAN内蔵
- ・ 外部ポートドックモジュールベイ



L7300/7200シリーズ

All-in-One Compact Notebook PC

- ・ 13.3インチまたは12.1インチTFTカラー
- ・ CPU : 500MHz~650MHz+
- ・ メモリ : 64MB~192MB
- ・ モデム内蔵



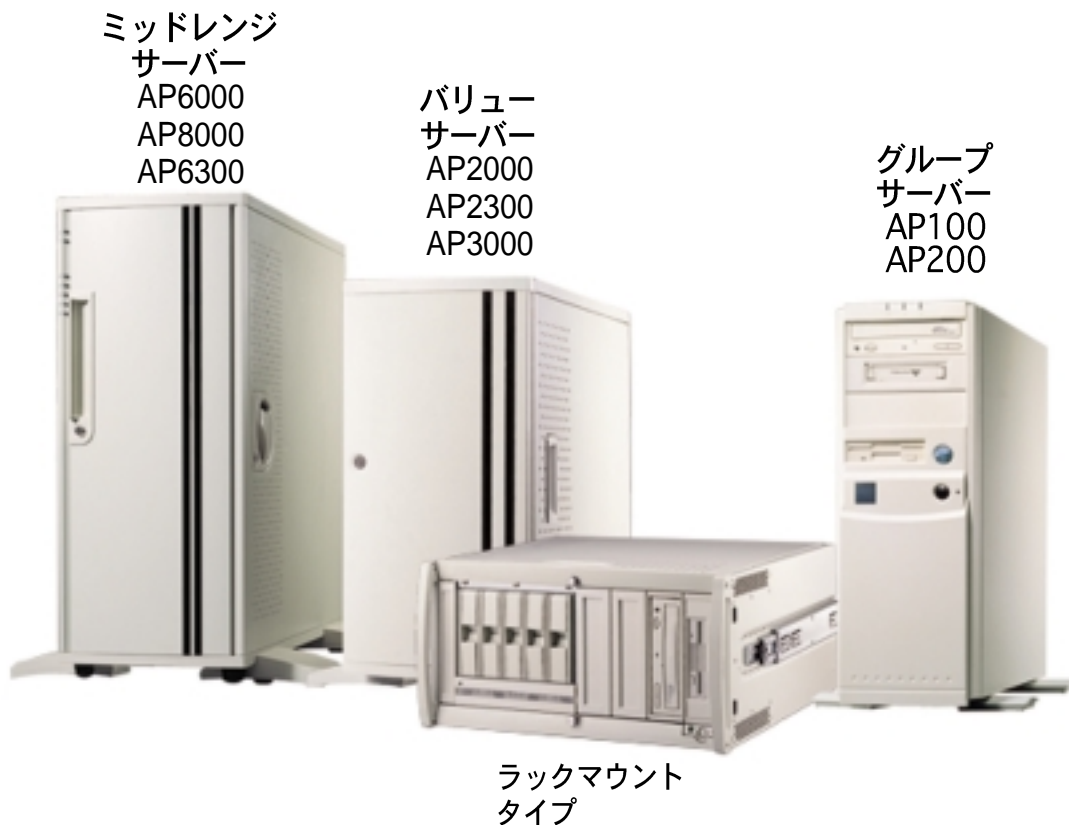
最新情報は www.asus.com をご覧ください

ASUS® ベアボーンサーバー

	Pentium ^(R) III Pentium ^(R) II Support	最大 メモリ (GB)	Ultra2 SCSI オンボード (チャンネル)	5.25インチ 固定ディスク Devices	ホットスワップ トレイ
AP100	1 Slot1	1	1	3	0
AP200	2 Slot1	1	1	3	0
AP2000	2 Slot1	1	1	4	3 or 5*
AP3000	2 Xeon™	2	2	4	3 or 5*
New! AP2300	2 Socket370	4	2	4	3 or 5*
AP6000	2 Slot1	1	1	4	8**
AP8000	2 Xeon™	2	2	4	8**
New! AP6300	2 Socket370	4	2	4	8**

* 1.6インチ×3 または、1インチ×5 SCA-2 SCSI ハードディスク

** 1.6インチまたは1インチ SCSI ハードディスク×8

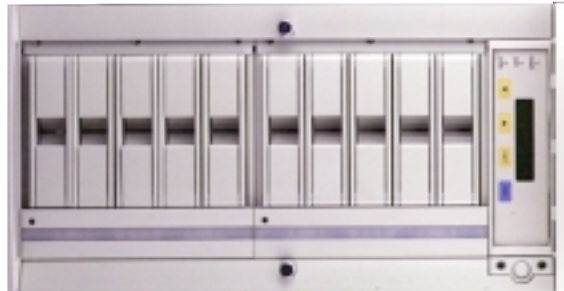


最新情報は www.asus.com をご覧ください

ASUS AR1000 RAID サブシステム

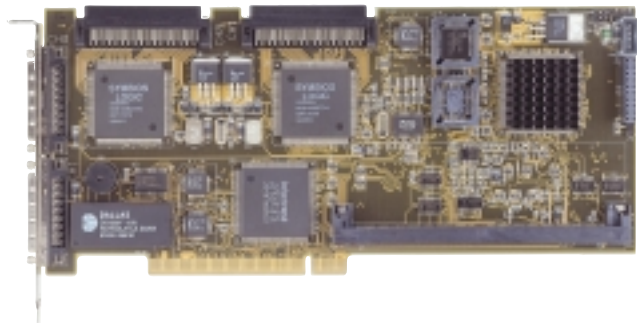
DA3000 SCSI-to-SCSI RAID コントローラ付属

- ・ 5x86 RAID プロセッサおよび72ピン SIMMソケット 2基、最大キャッシュメモリ128MB
- ・ Ultra2 SCSI×3チャンネル、最大転送速度80MB/秒
- ・ マルチホスト/ドライブチャンネル
- ・ リダンダント コントローラ
- ・ RAIDなし、RAID 0, 1, 0+1, 3, 5 対応
- ・ オンラインでディスクの修復・再構築可能
- ・ 自動修復機能、ローカル/グローバル予備ドライブ対応
- ・ オンライン増設可能
- ・ SAF-TE (SCSI Accessed Fault-Tolerant Enclosure) 機能
- ・ RAID設定用液晶パネルおよびRS-232ポート
- ・ 1.0インチまたは1.6インチ×6 Ultra2 SCSI SCA-2ベイ(ホットスワップ可)
- ・ 19インチラック (高さ: 5U)
- ・ ハードディスク電源/状態モニタ用液晶パネルLED
- ・ 8cmシステムファン×2および6cmドライブファン×4
- ・ 放熱性に優れたアルミ製
- ・ 350Wリダンダント電源



ASUS PCI-DA2200シリーズ SCSI RAID カード

- ・ 5x86-133プロセッサ対応
- ・ 72ピン SIMM ソケット×1、最大キャッシュメモリ128MB
- ・ RAID levels 0, 0+1, 3, 5, RAIDなし
- ・ シングルチャンネルUltra2 SCSIインターフェイス (PCI-DA2200A)
- ・ デュアルチャンネルUltra2 SCSIインターフェイス (PCI-DA2200B)
- ・ 論理ドライブ最大8台および各ドライブ8パーティション; 各論理ドライブのドライブ数に制限なし
- ・ グローバルおよびローカルなディスク交換に対応
- ・ バッドセクタ自動修復機能
- ・ バックグラウンド再構築
- ・ PCI rev. 2.1準拠



最新情報は www.asus.com をご覧ください

ASUS® 8x DVD-ROM



- ・ どんな厳しい要求にも応える業界をリードする性能
- ・ 最大速度: 8X DVD-ROM / 40X CD-ROM
- ・ 高速デジタルオーディオキャプチャ
- ・ UltraDMA/33 対応
- ・ MPC3 規格準拠
- ・ マルチリードトランザクション対応

ASUS® Ultra-Fast CD-ROM



- ・ 高速CDオーディオ再生
- ・ 高速デジタルオーディオキャプチャ
- ・ UltraDMA/33対応
- ・ 多様なCDフォーマットに対応
- ・ マルチリードトランザクション対応 (CD-R/CD-RW読み取り可能)

最新情報は www.asus.com をご覧ください



8x4x32x

8x Record / 4x Rewrite / 32x Read

CD-RW Drive

True 8x/4x write performance and 32x read speed
Copies 650 MB CDs in less than 8 minutes

*8x Record
4x Rewrite
32x Read*



Main Features

- Combines CD-ROM with CD-Recordable(CD-R) and CD-ReWritable (CD-RW) Functions
- CD-RW format time slashes to 4 minutes instead of 1 hour with a fast format feature
- Standard E-IDE/ATAPI interface
- Large 2 MB internal buffer
- Secure data storage and high data integrity due to initial/running laser OPC and extensive error correction
- Suitable for horizontal or vertical mounting
- Complies with PC99 specifications



■ CD Recording S/W included

This product may not be available in certain areas. Ask your dealer for availability.





AGP-V7100 Series

Experience Radical 3D/2D Graphics Performance with 2nd Generation GPU

GeForce2 MX

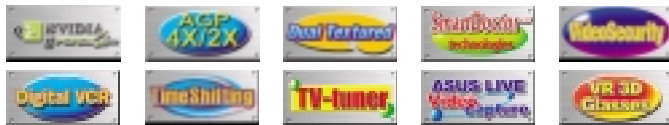


TwinView™

The ASUS AGP-V7100 Series graphics cards were created to provide mainstream PC users with the radical 3D/2D graphics and video performance of the GeForce2 MX, the 2nd generation GPU from NVIDIA. With the AGP-7100 Series and its support for the TwinView™ architecture, ASUS has made available the most variety of available models to support several dual display output combinations using RGB monitor, TV, or digital flat panel.

The ASUS AGP-V7100 Series graphics cards not only fully exert the power of the GeForce2 MX GPU, but they also continue the ASUS tradition of providing the greatest security for your valuable entertainment platform.

So go and experience the radical 3D/2D graphics performance and flexible options of the ASUS AGP-V7100 Series graphics cards.



AGP-V7100 Series

- **AGP-V7100/2V1D:**
GeForce2 MX, 2VGA + 1DVI, 32MB/16MB Frame Buffer
- **AGP-V7100/DVI:**
GeForce2 MX, VGA + DVI, 32MB/16MB Frame Buffer
- **AGP-V7100/T:**
GeForce2 MX, VGA + TV-Out, 32MB/16MB Frame Buffer
- **AGP-V7100/Pure:**
GeForce2 MX, VGA, 32MB/16MB Frame Buffer
- *and other dual display output combinations (depending on request).*

Other Hot ASUS Multimedia Products

AGP-V7700 Series



- **AGP-V7700 Deluxe:**
GeForce2 GTS, 32MB DDR Frame Buffer, TV-Out, Video-In, VR 3D glasses
- **AGP-V7700 / T / 64MB:**
GeForce2 GTS, 64MB DDR Frame Buffer, TV-Out
- **AGP-V7700 / T / 32MB:**
GeForce2 GTS, 32MB DDR Frame Buffer, TV-Out

- **AGP-V7700 Pro / T:**
GeForce2 Pro, 64MB DDR Frame Buffer, VGA + TV-Out
- **AGP-V7700 Pro:**
GeForce2 Pro, 64MB DDR Frame Buffer
- **AGP-V7700 Deluxe TV:**
GeForce2 GTS, 32MB DDR Frame Buffer, TV-Out, Video-In, VR 3D glasses, TV-Box

- **AGP-V7700 / 64MB:**
GeForce2 GTS, 64MB DDR Frame Buffer, w/o SmartDoctor
- **AGP-V7700 / 32MB:**
GeForce2 GTS, 32MB DDR Frame Buffer

AGP-V3800 Series



- **AGP-V3800 Magic / T:**
TNT2 M64, 32MB/16MB Frame Buffer, TV-Out
- **AGP-V3800 Magic:**
TNT2 M64, 32MB/16MB Frame Buffer

AGP-V300C



- **AGP-V300C:**
SiS 305, 16MB Frame Buffer